



# 広島経済同友会70年史

広島経済同友会 編



# 広島経済同友会70年史

---

広島経済同友会 編

[表紙写真]

- 駅前大橋線の開通日、JR 広島駅 2 階に乗り入れる広島電鉄の路面電車  
2025 年 8 月 3 日
- 建設が進む広島市中区の 31 階建て高層ビル「カミハチクロス」  
2026 年 1 月
- 先進 7 カ国首脳会議の初日、原爆慰霊碑に献花をした G7 の首脳たち  
2023 年 5 月 19 日
- 大規模改修で北面の鉄板張りが再現された福山城天守  
2022 年 8 月
- こけら落としの試合で歓声に沸くエディオンピースウイング広島  
2024 年 2 月 10 日
- 広島東洋カープがリーグ 3 連覇を達成  
2018 年 9 月 26 日
- 注射器に移される新型コロナウイルスのワクチン  
2021 年 2 月

# 発刊にあたって

## 香川 基吉

広島経済同友会 代表幹事



広島経済同友会は令和8年3月、創立70周年を迎えました。

昭和31年3月17日に42名が集い発足した広島経済同友会は、現在では会員数も900名近くとなり、2部会・9委員会に加え、県下主要地域に6支部を擁する、全国でもトップクラスの規模を誇る経済同友会に成長することができました。

これも歴代代表幹事のリーダーシップと、先輩会員諸氏の高い志とたゆまぬ努力の賜物であると深く感謝申し上げます。

この記念すべき年に、これまでの歩みを振り返るとともに、今後の経済同友会活動へ新たな決意を込めて三つの記念事業を行いました。

一つ目は19年ぶりに昨年開催した「第37回全国経済同友会セミナー広島大会」です。「50年後も輝き続ける『まち』であるために～平和の地から未来を見据えて～」をテーマに、全国各地の経済同友会から約1300名もの方々にお越しいただきました。

二つ目は本年1月22日に開催した「創立70周年記念式典」です。60周年以降に代表幹事をお務めいただいた「特別幹事」表彰と併せて、30年以上の永きにわたりご尽力いただいた「永年会員」表彰を執り行い、感謝の意を表しました。さらに特別プログラム「響きを、未来へつなぐ。」では、被爆ピアノの音色と、広島の復興と広島経済同友会の歩みを織り交ぜた朗読に耳を傾け、改めて平和の重みを噛みしめたところです。これからの新しい時代に向けて思いを馳せる節目の式典となりました。

最後に本誌「広島経済同友会70年史」の発刊です。「60年史」以降、コロナ禍という大きな試練もあったこの10年間について、特別幹事に振り返っていただく座談会をはじめ、歴代支部長の寄稿や「私と広島経済同友会」と題したコラムとともに、各委員会や部会、各支部の活動を紹介しました。写真もふんだんに掲載し、わかりやすく読みやすい、そして会員の「思い」が伝わる年史になったと思います。今後の経済同友会活動の「道しるべ」としてご活用いただければ幸甚に存じます。

今後も広島経済同友会は「提言のみならず行動もする経済団体」として、歴史に学びながら、次の80周年さらには100周年に向け、会員一人ひとりが研鑽を重ね、地域社会ひいては我が国の発展に貢献していきたいと思っております。

令和8年3月

## 目次

---

発刊にあたって	1
創立 70 周年記念式典	3
最近 10 年の代表幹事経験者座談会	18
最近 10 年の支部長寄稿	34
最近 10 年の同友会活動	48
（寄稿「広島都心部のまちづくりに思う」	54・55
最近 10 年の提言・報告	66
最近 10 年の海外経済視察	82
第 37 回全国経済同友会セミナー広島大会	90
編集後記	102



# 広島経済同友会 創立70周年記念式典

日時 2026(令和8)年1月22日

場所 ホテルグランヴィア広島

## 第一部 記念式典

15:00 開 会

挨拶 代表幹事 小田 宏史

15:05 来賓紹介

来賓祝辞 広島県知事 横田 美香 様  
一般社団法人中国経済連合会 会長 芦谷 茂 様  
公益社団法人経済同友会 筆頭副代表幹事  
岩井 睦雄 様

15:20 表 彰 特別幹事表彰

永年会員表彰

15:50 閉 会

## 第二部 記念講演

16:00 講師紹介

16:05 記念講演 テーマ 「日本経済の展望と課題」

講 師 株式会社大和総研  
代表取締役副社長 兼 副理事長 調査本部長  
熊谷 亮丸 氏

17:00 閉 会

17:10 特別プログラム 被爆ピアノ「響きを、未来へつなぐ。」

## 第三部 記念祝賀会

17:50 開 会

挨拶 代表幹事 香川 基吉

乾 杯 広島市長 松井 一實 様

18:55 閉会挨拶 総務部会 部会長 小川 裕子

19:00 閉 会

[司会：吉田 幸 (株) 中国放送アナウンサー]

# 挨拶

## 小田 宏史

広島経済同友会代表幹事

皆さま、こんにちは。広島経済同友会代表幹事の小田でございます。

本日はご多用の中、広島経済同友会創立70周年記念式典にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。ご来賓の皆さまをはじめ、多くの会員の皆さまとともに、この記念すべき節目を迎えられますことを、心より嬉しく思います。

はじめに、平素より当会の活動に格別のご理解とご支援を賜っております、中国財務局長の中村様、中国経済産業局長の林様、広島県知事の横田様、広島市長の松井様ほか、各関係諸団体を代表してご臨席賜りましたご来賓の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

また、昨日来、今年一番の寒波が襲来する中、遠路お越しいただきました公益社団法人経済同友会筆頭副代表幹事の岩井様をはじめ、各地区経済同友会の皆さまにも心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

当会は昭和31年、戦後復興の途上にありましたこの広島の将来を憂い、「自ら考え、自ら行動する経営者の集まり」として歩みを始めました。初代代表幹事には、山陽木材防腐、現在のザイエンス株式会社の会長であられた田中好一氏が就任されています。「経営者自身が地域の未来に責任を持つ」…この覚悟こそが、70年を経た今もなお変わることのない当会の原点であります。

当初42名でスタートした当会ですけれども、現在では会員数900名に迫る規模となりました。世代や業種、企業規模を超えて多様な経営者が集い、真剣な議論を重ねてきた、そのこと自体が70年の歴史の重みであり、大きな財産だと思っております。そしてまた、当会の特徴でもあります尾道、福山、呉、備北、三原、広島中央という支部体制のもと、それぞれの現場の声を起点に「オール広島」で議論を深めてきたことが、活動の実践力を支えてまいりました。

この70年間で、社会や経済環境は大きく変化しました。特に近年では、コロナ禍という未曾有の危機を経験し、企業経営のみならず、社会のあり方そのものも問われました。

そうした中でも、当会は「できることを止めない」を合言葉に、新たな手法も取り入れながら、議論と交流を重ねてまいりました。本日表彰をさせていただきます特別幹事、永年会員の皆さまは、まさにその激動の時代に舵取りを担ってこられた方々でございまして、そのご尽力に改めて、心より敬意を表したいと思います。



昨年は被爆 80 年という大きな節目の年でもありました。

その年に「全国経済同友会セミナー広島大会」を開催できたことは、大変、意義深い出来事でありました。被爆地広島から、平和と復興、そして未来志向の地方創生を全国に発信できたことは、会員の皆さま一人ひとりの熱意と行動力、また行政や関係団体のご支援の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

一方で私たちを取り巻く環境は、人口減少、生成 AI の台頭、急速なデジタル化などの変化や、緊迫する地政学リスク、円安に伴う物価高騰など、先行き不透明な状況が続いています。

こうした時代だからこそ、「地域の未来を自分ごととして考え行動する経営者」の集団ネットワークというものの価値は、これまで以上に高まっていると思います。

まさに、70 周年はゴールではなく、先輩諸氏の志をしっかりと受け継ぎ、次の 10 年、20 年に向けての新たなスタートラインだと思います。

本日は、この式典の後に大和総研の熊谷様よりご講演を賜りますけれども、日本経済の展望あるいは課題について多くの示唆をいただけるものと期待しています。

また、その後には「被爆ピアノ」の演奏をお届けしたいと思います。皆さまとともに、平和の尊さを改めて胸に刻み、これからの行動に繋げていきたいと思います。

結びにあたり、改めまして本日の皆さまのご臨席に深く感謝いたしますとともに、この 70 周年の場を新たな共創の起点とし、広島の、そして日本のより良い未来に向けて、皆さまとともに歩んでいくことができればと思っております。

皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。



# 祝 辞

横田 美香 氏

広島県知事

広島経済同友会の創立 70 周年を心からお慶び申し上げます。

昭和 31 年の設立以来、激動する経済社会の中であって、70 年という永きにわたり、本県経済の発展に多大な貢献を果たしてこられました。歴代の代表幹事の皆様、各部長・委員長の皆様、そしてご参加の会員の皆様方のご尽力に心から敬意を表したいと思います。

さて、本県を取り巻く経済情勢は昨年からの半導体需要の押し上げなどにより電気機械製造業の生産が堅調に推移しており、

造船業の持ち直しや、インバウンド需要の好調さから宿泊・観光業の好調が続くなど、県内景気は緩やかな回復基調でございます。

一方で、人口減少の加速化、若者の流出・転出超過といった構造的な課題や、長引く物価高、そして緊迫した国際情勢などの厳しい社会経済情勢の中、いくつもの難しい課題に直面しております。産業界においては、賃上げや国際競争力の向上が喫緊の課題となっております。生成 AI が目覚ましい進化を遂げており、新しい技術を取り入れながら競争力向上に取り組んでいく必要がございます。

広島県といたしましても、様々な支援策や新しいチャレンジを応援する事業を実施しています。そして若者の皆さんに、チャレンジするなら広島でしてくださいと PR していきたいと思っております。

地域の発展のためには活気ある社会をつくっていくことが不可欠です。若者が、成長できると感じられる、そして未来に希望が持てる地域であることが必要です。魅力があるから人が集まり、県の内外の多様な方々との交流が活発に行われることにより、イノベーションや活力が生まれ、さらに多くの人を引きつける、そうした好循環を目指していきたいと思っております。

広島の魅力を高めるために、ぜひ同友会の皆様方にも、特に若い方々を巻き込んだ取り組みをお願いしたいと思っております。一層のご尽力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

そして、平和への取り組みです。昨年は被爆 80 年ということで様々なイベントも行われました。その取り組みの中で関係のできた海外の方々との連携もさらに強めながら、平和に向けての研究や活動を進めていきたいと思っております。この点につきましても、皆様方どうぞよろしくお願い申し上げます。

終わりに、広島経済同友会の今後のますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



## 祝 辞

芦谷 茂 氏

中国経済連合会会長

小田代表幹事、香川代表幹事をはじめ、広島経済同友会の皆様、創立70周年、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

広島経済同友会は昭和31年3月の創立以来、地域経済の成長と社会の豊かさの実現に向けてご尽力され、広島県の発展に大きく貢献してこられたご功績に対し、同じ経済団体に身を置く者として、改めて心より敬意を申し上げたいと思います。

経済同友会は、経営者が個人の志を基に自由闊達に議論を交わし、地域経済の発展に資する提言や実践を行う非常に重要な経済団体ですが、とりわけ広島経済同友会は、地域の特性を踏まえた独自の発想と行動力に基づき、数々の先駆的な活動に取り組んでこられました。

近年では、都心部と中山間地域の連携・共存による「元気なまちひろしま」を創る提言をまとめられ、その内容が端緒となって設立された「広島都心会議」を通じて、広島駅と八丁堀・紙屋町の2軸を中心とする楕円形の賑わいづくりに尽力してこられました。その成果は、昨年開業したミナモアをはじめとする広島駅周辺の再開発として実を結んでいることは皆様ご存知のとおりでございます。

また、昨年からは、働きやすさ、暮らしやすさの向上を目指すウェルビーイングの推進にも取り組まれており、ここ広島の未来志向の街づくりに向けて、大きな意義を持つものと感じております。

現在、当地域は、人口減少や産業構造の転換など多くの課題を抱えております。このような時代の変革期においては、基礎自治体の単位を越えた、より広域的で多様な関係者の連携が求められており、経済団体の役割はますます重要になっていると私自身も感じております。

我々中国経済連合会も、政府の支援を受けながら中国5県とそれぞれの地元商工会議所と共に、広域観光振興や産業振興を柱とした“広域リージョン連携”の取り組みを進めており、広島の魅力と中枢性を生かした中国地方の新たな発展を実現してまいりたいと考えております。

今後とも、同友会をはじめとする経済界の皆様、そして自治体の皆様と一層の連携を図り、当地域の発展に尽力してまいり所存ですので、ぜひ引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本日の記念式典が広島経済同友会の新たな挑戦の幕開けとなり、地域社会の明るい未来を切り拓く契機となりますことを心より祈念し、祝辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。



# 祝 辞

岩井 睦雄 氏

経済同友会筆頭副代表幹事

本日は、広島経済同友会の創立 70 周年をお祝いする素晴らしい場にお招きいただき、本当にありがとうございます。今朝起きて、広島カープの赤いネクタイ、サンフレッチェの紫のスーツ、そして皆様方に愛していただいていたバレーボール・サンダースの緑の（日本たばこ産業の）社章を着け、今日は「広島カラー」で駆け付けました。

先の大戦で最も過酷な被害を受けた広島という地で、力強い復興をしていこうという志を持たれた方々 42 名が 1956 年に広島経済同友会を設立されました。70 年たって 900 名近くの会員数となり、これまで多くの気鋭の経済人を輩出しておられます。

70 年前の日本は高度経済成長期で、広島県出身の池田勇人首相が所得倍増計画を唱え、経済発展を中心とした政策を進められました。この広島県も自動車産業をはじめ、造船や鉄鋼業などの重工業が発展し、日本有数の工業都市に成長された。こういった実績もやはり、先人たちの思いとたゆまぬ努力があって今の広島があるのではないかと思います。

広島経済同友会は 2016 年に提言『「国際交流平和都市 新生“ひろしま”』を目指して』を上梓され、産官学民が一体となってまちづくりを推進できる体制を提起されました。広島県と広島市で「ひろしま都心活性化プラン」という形にされ、広島駅周辺などの再開発が本格化したと聞いています。市電が本当に駅の中に入っていくところを見せていただき、私も非常に感動しました。

こうした広島経済同友会の提言が、市や県とコラボレーションしながら実際に実現していく。同友会が大きな役割を果たしたのだと思います。

昨年 4 月にはこの広島市において、全国経済同友会セミナーに全国 44 の同友会から 1300 名が結集いたしました。私もフルに参加させていただき、素晴らしいおもてなしを受けました。広島経済同友会が担当した分科会では、活気ある街づくりを実現させるための方策を議論いただきましたが、やはり官民一体となって協業していく重要性をあらためて認識したところ です。

こういった形で経営者が自由な立場から議論する。これがまさに同友会のいいところだと思いますし、地域に根差した活動として続けていけるのだと思います。全国から今日も何人も来ていらっしゃいます。この志を同じくする経済同友会の一員として、広島経済同友会の今後のますますのご活躍と発展を祈念して、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は本当におめでとうございます。



## 特別幹事表彰

### 創立 60 周年以降の代表幹事経験者

特別幹事 5 人は表彰を受けた後、一言ずつ挨拶した。

#### 森信 秀樹 氏

森信建設(株)シニアフェロー

「若い方がどんどん入ってきます。(皆さんは先輩として)活発な、尖ったエッジの効いた提言を見せてやってください。期待しています」

#### 池田 晃治 氏

(株)広島銀行取締役会長

「昨年の全国セミナー開催を言い出した者として、無事成功したので安堵しています。引き続き広島の活性化に微力ですが努めたいと思います」

#### 佐々木 茂喜 氏

オタフクホールディングス(株)会長

「未曾有のパンデミックがありましたが、皆さんの知恵とともに、何とか乗り越えることができました。本当に感謝しかありません」

#### 田村 興造 氏

広島ガス(株)相談役

「私の当会の原点は都市機能委員会です。この広島を良くしたいという熱い思いを皆さんと共有できたのは、本当に嬉しい経験でした」

#### 武田 龍雄 氏

広島信用金庫会長

「ド真ん中祭り、全国セミナーを無事にやり遂げることができました。皆さんのご協力の賜物であり、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました」



特別幹事として表彰された(右から)森信、池田、佐々木、田村、武田各氏

## 永年会員表彰 (在籍30年以上の会員、敬称略)

事業所名	役職名	氏名
フマキラー(株)	会長	大下俊明
(株)福屋	代表取締役会長	大下龍介
(株)カツヤ	代表取締役会長	勝矢博
豊国工業(株)	代表取締役	金谷俊宗
己斐商事(株)	代表取締役	河野高信
(株)紀陽	代表取締役社長	寒川起佳
(株)ザイエンス	代表取締役会長	田中隆行
堂本食品(株)	代表取締役	堂本高義
西川ゴム工業(株)	取締役会長	西川正洋
瀬戸内海汽船(株)	名誉顧問	仁田一也
(株)山崎本社	取締役会長	林正史
三島食品(株)	代表取締役会長	三島豊
(株)イズミ	代表取締役会長	山西泰明
(株)グローカル	代表取締役	奥原征一郎
平和海運(株)	代表取締役	木村法蔵
蜜屋本舗(株)	代表取締役会長	明神博
(株)鉄道広告	代表取締役会長	池田達美
今岡製菓(株)	代表取締役会長	今岡寛信
アンデックス(株)	会長	田邊耕造
協同組合ベイトウン尾道	専務理事	蔦永英明
尾道冷凍工業(株)	代表取締役社長	徳永修
(株)福井亀之助商店	代表取締役社長	福井弘
光和物産(株)	代表取締役会長	内海康仁
(株)サンエス	代表取締役社長	佐藤卓己
(株)カネソ22	代表取締役会長	豊田國弘
鞆鉄道(株)	代表取締役会長	林克士
山陽染工(株)	代表取締役会長	松本茂太郎
リンクス(株)	代表取締役会長	松本眞
大和建设(株)	代表取締役社長	三谷道昭
広島化成(株)	取締役会長	宮地治夫

永年会員表彰 30人のうち式典に出席した9人が登壇して小田宏史代表幹事から表彰を受け、代表して紀陽社長の寒川起佳氏が謝辞を述べた。

## 寒川 起佳氏

(株)紀陽 社長

本当に長い間、経済同友会のメンバーとして、いろいろなことを学ばせていただいたことに対して、心より感謝を申し上げます。

今、日本は大変革の時でございますけれども、戦後、日本は敗戦してから本当に頑張ってきて、成功したら成功しすぎるといふことで、邪魔されても邪魔されても、立ち上がってきました。

「日本の文化には作り変える力がある」と、これは芥川龍之介が（小説）『神神の微笑』の中で言ったことですが、日本人は本当に、よその国民と比べて全く違う性格を持っていると思います。いいものを作って喜んでもらうということを素直にできる国民です。

経済同友会もその中で、大きな役割を果たされたと思います。

これからは、そういった日本の良さが信頼を受けて発展していくことを祈念し、広島経済同友会のますますのご発展をお祈りしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。



小田代表幹事から表彰される寒川氏



永年会員表彰を受けた（左から）明神、寒川、池田、西川、徳永、林正史、内海、河野、松本茂太郎各氏

## 記念講演 日本経済の展望と課題

熊谷 亮丸 氏

(株)大和総研 代表取締役副社長 兼 副理事長 調査本部長

広島経済同友会 70 周年、誠におめでとうございます。心よりお喜びを申し上げます。

今日お話しする内容は三つの柱があります。一つは岸田政権が掲げた「新しい資本主義」です。これは私が経済・金融担当の内閣官房参与として、そのコンセプト作りをお手伝いさせていただきました。この「新しい資本主義」がどういうもので、どういう成果を上げているのかということ。二つ目は日本経済の現状と展望について。緩やかな成長を当面続ける可能性が高いわけですが、リスクもあります。三つ目は日本経済最大の課題である実質賃金を上げるための対策についてお話しします。



### ● 「新しい資本主義」の成果

岸田政権は3年間で非常に大きな実績を残された。まずは、成長と分配の好循環を目指す新しい資本主義。何が新しいのかは後ほど話します。3.6兆円をつぎ込んで本格的な少子化対策を打った。さらに防衛力の抜本的な強化、そしてNISAなどの資産運用立国の推進。株高の流れも岸田政権のところから始まっています。

そしてG7広島サミットの開催、経済安全保障の強化、さらに賛否はありますがエネルギー政策の転換、そしてDX、最低賃金の大幅な引き上げです。賃上げをすると、相対的に割安になった設備投資が増え、その結果、労働生産性が上昇して実質賃金が上がるという、賃上げと設備投資の好循環を岸田政権は推進してきました。

資本主義は極めて単純化して言うと、お金が大事か、それとも人が大事かをめぐり、過去数百年間にわたって右に行ったり左に行ったりしてきました。新自由主義、グローバル資本主義になり、株主の利益が過度に重視されてバランスが悪くなってしまった。今この揺り戻しが起きていて、例えば「なでしこ銘柄」という女性が活躍している会社、「健康経営銘柄」と言われる社員が健康な会社、こういう会社ほど、いい人が入社し、最終的には株主の利益につながる。今までの資本家と労働者、お金と人のどちらが大事かという対立が、一段高いところで両者の利害が一致するような、新しい資本主義のステージに世界全体で徐々に入ってきています。

では、岸田政権の「新しい資本主義」は何が新しかったのか。まずは無形資産、人への投資です。賃上げを進め、リスクリングなどを強化して人的資本をしっかりと成長させるのが1点目。社会課題の解決を成長のエンジンへと変えていくのが2点目。

そして3点目が「新しい官民連携」。経済安全保障が典型で、自助・共助・公助で言えば保険と寄付が中心の共助であり、例えば企業版ふるさと納税を強化する。そして4点目は国民のウェ

ルビーイング。金銭的な尺度だけでは評価できないものにも目配りをしていく。これら四つぐらいが岸田政権の新しい資本主義であり、その多くが今、石破政権を経て高市政権に受け継がれていると感じています。

## ●日本経済の現状と展望

日本経済は、なかなか上出来の成長が続くというのがメインシナリオです。ただ、リスク要因には細心の注意を払う必要があります。



設備投資と個人消費という二本柱の国内需要はますます底堅い状況です。デフレのリスクは大幅に後退し、大局的にはもうインフレ的な方向に入ってきています。

日本経済を支える要因としてはまず、賃上げ等によって家計の所得が改善する。今年の春闘はおおむね前年並みか、それをちょっと上回るぐらいの賃上げが期待できます。実質賃金についても、政府によりエネルギー価格など物価が抑えられる影響は結構大きくて、今年の半ばぐらいにかけてプラスの方向に向かっていく。それから政府の経済対策も今後3年間で7兆円ぐらいの経済効果が期待できます。

日銀はだいたい半年に1回ぐらい、非常に緩やかに利上げをしていこうと見ているので、極めて緩和的な金融政策が続きます。家計の金融資産は直近で2300兆円程度で、名目の消費額の6.6～6.7年分ぐらいに相当し、コロナ前の6.1年分を上回っています。このバッファの部分がある程度、経済を当面支える可能性が高い。

他方、下振れのリスクは、まずトランプ関税によるアメリカ経済の悪化であり、日本経済にも相応の悪影響が出てきます。そして日中関係の悪化があります。高市発言をきっかけに中国政府が日本への渡航自粛を要請し、渡航者が減っている。レアアースの輸出規制の話もあります。

もともと中国経済は非常に厳しい状況で、借金づけの状態になっています。注目していただきたいのは「李克強指数」。李克強さんが生前、中国の統計で信用できるのは鉄道の貨物量、銀行の融資、電力消費量ぐらいだと発言したとされ、それを合成した指数ですが、それを見れば中国経済はここ数年、かなり低迷しています。

そして高市政権の積極財政を起点とした円安のスパイラルが懸念される状況があります。抜本的に実質賃金を上げずに弥縫策を取れば、大型の経済対策と円安、さらなる物価上昇、実質賃金の低下を招くという悪いスパイラルが進み、世界の投資家が懸念する状態に徐々になりつつあるということです。

日銀の金融政策については、長期金利が1%上がるよりも短期金利が1%上がるほうが悪影響が大きいと分かった上で、植田総裁はあまり拙速な利上げはしない可能性が高い。世界の金融政策にはサイクルがあって、最初アメリカ、次にヨーロッパが利上げし、最後に日銀が利上げをすると日本経済は景気後退に陥るという歴史があり、「ビハインド・ザ・カーブ」と言われます。これらのことを踏まえて日本銀行はおおむね半年に1回ぐらいのペースで緩やかに利上げをしていく可能性が高いだろうということです。

## ●実質賃金を上昇させるには

最後の柱は、日本が抱える課題である実質賃金の上昇に向けて何をしなくてはならないか。諸外国は大きく実質賃金が上がってきたのに対し、日本は上がっていません。

一つの要因は労働生産性です。ICTですね。ほとんどあらゆる業種で日本はICT投資がアメリカより劣っています。しっかり投資して生産性を上げなきゃいけない。そして労働時間については、従業員の心身の健康維持を前提にした上で、働きたい人はもう少し労働時間を増やしていく。労働時間法制に関する政策のあり方などを検討することです。

労働分配率に関して言えば、持続的な賃上げを実現する形で中小企業向けの賃上げ促進税制などを続けていく。それから交易条件については巨額の化石エネルギーを買うことで海外に富が流出しているわけです。賛否はありますが、原発の再稼働だと思いますし、ペロブスカイト太陽電池等の国産エネルギー技術の育成をしっかりと行う。そしてストックベースで不足している250兆の設備投資をしっかりと埋めるべきです。

もう一つ、今の日本で深刻なのは格差の問題です。G7でジニ係数を見ると、アメリカとイギリスは不動のトップですが、日本は今、3番目に格差が拡大している状況で、非常に深刻です。今回の選挙でも、ほとんどの政党が消費税を下げることしか言わないようなサービス合戦に走っていて、いずれ自分たちの子や孫の世代にツケを呼んでしまうことが少し軽視されている印象を受けます。

特に日本は所得が低い人の負担が諸外国と比べても重いわけですから、まさに給付付き税額控除などを入れることによって、まずこの格差の問題をしっかりと解決しない限りは次のステップに行くことができないと思います。

最後に、広島経済同友会は70周年ということですが、技術の進歩とか人類の進歩に限界はないのであって、夢のような話だと思っていたものが50年先、100年先には当然のように実現するということだし、日本はイノベーションのキャパシティという潜在的な能力についてはまだ世界の中でかなり上位を占めています。

そういう時代に人間の生き方も企業経営もそうですが、守らなきゃいけないコアの部分以外は不断に改革していく。私から申し上げるのも僭越ですが、過去の常識が通用しない中で、広島経済同友会はこれからまさに、あと100年、200年と続き、広島だけでなく日本経済、世界経済をしっかりと引っ張っていただきたいと思っています。ますますのご発展と、ご臨席の皆様のご健康、ご活躍を祈念いたします。

ご清聴ありがとうございました。



(文責・年史編集委員会)

## 特別プログラム「響きを、未来へつなぐ。」

爆心地から 2.6 キロの段原山崎町で被爆したピアノで、ピアニストの岩本浩さんが、ドビュッシーの「月の光」やサティの「ジムノペディ」を奏でた。これに合わせ、記念式典の司会を務めた吉田幸さん（RCCアナウンサー）が、被爆地広島と広島経済同友会の歩みを全7章でたどる長編詩を朗読した。終章「継承—百年に続く道」は以下の通り。

本日のこの響きとともに、私たちは先人たちの思いを胸に誓う。

広島に誇りを。

ここに生き、活動する私たちに誇りを。

広島経済同友会に誇りを。

——そして、私たちは待たない。

明日を誰かに委ねない。

私たちの手で、私たちの街を、私たちの時代をつくる。

被爆の地が知る立ち上がる力を、「より輝く街」として示す。

広島だからできること。

ここに集う私たちにしかできないこと。

過去に思いを馳せ、新しい発想で未来へ繋げる。

八十年を超え、九十年を駆け、百年へと続く道を、今ここから踏み出す。

さあ——人から人へ、ことばから行動へ。

私たちが、未来の最初の一步になる。





## 記念祝賀会 開会挨拶

### 香川 基吉

広島経済同友会代表幹事

本日は広島経済同友会創立 70 周年記念祝賀会に、このように多くの方にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。

大和総研代表取締役副社長の熊谷様には、日本経済の展望と課題について大変示唆に富んだお話をいただき、70 周年に花を添えていただきました。

広島経済同友会は昭和 31 年 3 月の発足以来、会員が個人の立場で活動し、自由闊達に議論し提言するということを最大の特色として活動し、現在に至っております。

70 周年という大きな節目を迎えることができましたのも、地域の皆様方のご支援、歴代代表幹事のリーダーシップ、そして何よりも会員の皆様のご尽力の賜物であると深く感謝しております。改めて御礼を申し上げます。

さて、昨年の広島は被爆 80 年を迎え、平和に対する思いを一層強くしたと思います。先ほどの特別プログラムで被爆ピアノの演奏をお聞きいただきましたが、全ての経済活動や社会活動はこの平和の礎の上に成り立っているということを改めて強く思いますとともに、今後の広島経済同友会活動へのエールのような響きであったと感じています。

その響きを胸に、広島経済同友会活動の 4 本柱である「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」「オール広島」のもと、当会のスローガンである「持続可能なまちを目指す」の実現に向けまして、引き続き会員が一丸となり、知恵を出し、汗をかいていく所存です。さらなる皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、ご参集の皆様方のご健康、ご活躍、並びに、それぞれの企業のご発展を祈念いたしまして開会挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。





## 乾杯挨拶

松井 一實 氏

広島市長

本日は、広島経済同友会創立70周年という記念すべき会にお招きいただき、本当にありがとうございます。本日の記念式典が盛会のうちに開催されましたことを、心よりお喜び申し上げます。

広島経済同友会は昭和31年に設立されて以来、より良い経済社会の実現や国民生活の充実に向け取り組まれ、広島経済の発展に多大なるご尽力を賜っていることに厚くお礼を申し上げます。

そして、本年3月17日には、創立70周年という節目を迎えられます。これもひとえに、小田代表幹事、香川代表幹事をはじめとする歴代の代表幹事、そして会員の皆様のご尽力のたまものであり、ここに深く敬意を表します。

近年は、物価高騰や、米国による追加関税措置、エネルギー価格の変動に加え、人口減少に伴う働き手の不足や消費の縮小等により、地域経済は大きな影響を受けています。本市といたしましても、こうした課題にしっかりと対応しながら、多くの方々が未来に夢や希望を持てる生活環境を作っていくための取組を加速させたいと考えています。

そのためにも、広島広域都市圏の32市町と連携し、圏域内の公共交通網等の充実・強化を図るとともに、経済成長をけん引する「ローカル経済圏」の構築を目指しております。

そして、平和と経済をいかに調和させるかは人類の課題ではないかと思うのですが、貴会をはじめとする地元経済界の皆様からのお力添えを賜りながら、平和を含めたまちづくりをしっかりと確実に進めたいと考えていますので、引き続きのご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

それでは、広島経済同友会の今後ますますのご発展と、本日お集まりの皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、乾杯の音頭をとらせていただきます。ご唱和願います。

乾杯！



# 最近 10 年の代表幹事経験者座談会

## 「広島経済同友会の活動実績、現状そして未来に向けて」

### 出席者

**森信 秀樹** 森信建設(株)シニアフェロー  
2013～16年度(平成25～28年度)代表幹事

**池田 晃治** (株)ひろぎんホールディングス代表取締役会長  
広島商工会議所 会頭  
2015～18年度(平成27～30年度)代表幹事

**佐々木茂喜** オタフクホールディングス(株)会長  
2017～20年度(平成29～令和2年度)代表幹事

**田村 興造** 広島ガス(株)相談役  
2019～22年度(令和元～4年度)代表幹事

**武田 龍雄** 広島信用金庫 会長  
2021～24年度(令和3～6年度)代表幹事

### 司会者

**小田 宏史** (株)もみじ銀行取締役会長  
2023(令和5)年度～代表幹事

**香川 基吉** (株)福屋取締役副会長  
2025(令和7)年度～代表幹事

※肩書はいずれも2025年10月時点です。



左から武田、田村、香川、小田、森信、池田、佐々木各氏 (2025年10月8日、広島市中区のANAクラウンプラザホテル広島)

## &lt;第 1 部 10 年を振り返って&gt;

**小田** それでは皆さん、どうぞよろしくお願いたします。この 10 年を振り返る第 1 部では、まずそれぞれが代表幹事に就任された当時の思い出からお話しいただきたいと思います。森信さんから口火を切っていただきます。

## 「輝け！ひろしま」テーマに



**森信** 私がそれまで関わった組織では大体、スローガンを掲げて運営しましたが、私が筆頭代表幹事に就任するまで広島経済同友会にはそういったものがな

く、それはそれで同友会らしさだったんだろうとは思いますが、自分は、何を目指していくのかというところをはっきりしたいと思い、各委員会をまちづくり、ひとづくり、ものづくりのカテゴリーに分け、それをまとめて、「輝け！ひろしま」というテーマを決めました。おかげで各委員会のベクトルが揃っていったんじゃないのかな。自分としてはそこがスタートだったように思います。

広島経済同友会は支部組織を持っているという特性がありますから、支部とどう付き合っていくかというのが自分なりの課題でした。幸い各支部には J C（青年会議所）の先輩、後輩がたくさんいましたので、どこ行っても「やあ、こんにちは」と受け入れてもらいましたし、同友会の全国円卓会議へ出ても、この人はなんとなく J C の匂いがするなと思って話したら、やっぱりそうだったということもあって、どこに行ってもいろんな人がいて助かったな、というのがスタートの頃の印象です。

**小田** ありがとうございます。続いて池田さん、お願いします。

## 「知恵を出し、汗をかく」

**池田** 私はそれまで経済同友会の活動に一切関わっていなかったので、前任の森信さんが筆頭代表幹事をされた 2 年間、非常に勉強させていただきましたし、それがその後の広島商工会議所の活動にも活きている。提言団体としての同友会がやること、執行団体としての会議所がやることはやっぱり違うということも分かったし、そういう面で同友会活動は経済界活動を始めるスタートとして大いに勉強になりました。ありがたいなと思っています。

私が筆頭代表幹事になる前年の 2016 年、イギリスではブレグジット、アメリカではトランプ第一次政権に向けた大統領選挙がありました。地政学的なリスクが高まる中で、さて広島はどうするのか。筆頭になった時はいろいろ考えさせていただき、「しごと・ひと・まちの好循環」を目指そう、「知恵を出し、汗をかく経済団体」を目指そうということを目指してやってきました。

オール広島ということでね、すべての支部を回りましたし、特に女性の参加率を上げたいと思い、海外経済視察では女性会員の皆さんに、どこへ行きたいのかを聞きました。ミャンマー、カンボジアというエマージング（新興）の国に学ぼうとしたり、おそらく過去最長となった 2018 年の 11 日間ヨーロッパ視察ではドイツ、スペイン、ポルトガル、ドバイを回りました。そういった面では、



女性会員の皆さんに喜んでいただけたと自負しておる次第です。

**小田** 池田さんは全国大会（2025年全国経済同友会セミナー広島大会）の仕掛け人ですよ。

### 全国セミナー誘致に成功

**池田** それを言うの忘れましたね。草木も生えない75年と言われた被爆地にサッカー場ができ、駅も変わる。80年でどれだけ広島が変貌したのかを日本中に見せようじゃないかと、森信さんとも話してね、経済同友会（東京）に、途中（の開催地）が決まっていなくても2025年の広島開催だけは（日程に）入れてください、とお願いしました。武田さんや小田さんにご迷惑をかけたかもしれませんが、大変良かったと思っています。

**武田**（ちゃんと）済んだけえ、ええようなもんですけれどねえ。（一同笑）

**小田** その話は後でじっくりお聞かせください。それでは佐々木さん、お願いします。

### 豪雨の記憶 忘れられない

**佐々木** 東京、大阪に10年近くいて45歳で広島に帰ったとき、改めて広島は何ていい町なんだということを再認識したんです。山、川、海に島。自然環境がバランス良く整っている。でも地元の方たちは「じゃけえ、どしたん？」と。ある意味、満ち足りた地域なんだなと思いました。

当時、全国ご当地グルメというのが取り沙汰されてたんですけど、広島はちょっと取り



残され感がありました。ということで私、（同友会の）観光振興委員長の時に「てっばんグランプリ」を始めました。同友会で3回、その後は広島県飲食に引き継いでもらって計5回ほど開催させてもらい、おかげで“ご当地お好み焼き”が定着したのかなと。

2016年の年末に森信さんと池田さんが我が社に訪ねてこられました。忘れもしない12月25日でした。年末の挨拶かと思ったら「佐々木君、代表幹事どうだ」ということで。正月明けまで回答を待ってもらったんですけど、その年の正月休みは全く休んだ気がしませんでした。（一同笑）

だけど、先ほど言いました広島の将来性、可能性、ポテンシャルを本当に思ったもんですから、何か一助でもできないかな、という思いで受けたわけなんですけど、池田さんの隣（に座るん）ですよ。皆さん、大変なプレッシャーだと思いませんか？

ということで当時、「広島という才能を、眠らせない」というテーマのもと、広島のごさ、全国展開してる企業が“札幌広福”の中でも一番多いとか、経済産業面だけでなく文化、芸能、スポーツからしてもどこの地方都市にも負けないとか、だけどこの広島のカチ強さの根源は何なんだ、ということとを2年間で突き詰めようと思ったんです。が、なかなかそこに答えは至っていません。

まさしく今、若者が流出するということは、広島の魅力が見える化できていない、地元の人々が共有化してない、その結果かな、ということに関して、ちょっと残念な思いがあります。

思い起こせば、その後、コロナが起きました。四国に行った時の帰りのスーパージェットも忘れられないですよ、池田さん。

**池田** 大雨災害（2018年の西日本豪雨）があった日に、ちょうど西瀬戸経済同友会交流懇談会が松山で開かれ、我々は船に乗って

行ったわけです。そうしたらもう、これはどうしようもない、松山の方たちと簡単に乾杯をしたらすぐ広島はみんな帰ろうとしたけど、タクシーがつかまらない。ちょうど昔から知り合いの愛媛銀行の本田（元広）頭取が代表幹事をしていて、「じゃあ、役員車を全部出してやる」と。タクシーの足りない分はそういう形で愛媛銀行さんに助けてもらい、松山観光港まで行って、ちょうど（瀬戸内海汽船の）仁田（一郎）さんがおられて「船は動くよ」。困った時に助けてもらえる同友会の連携協力体制が一番記憶に残っています。

**佐々木** スーパージェットが音戸の瀬戸を渡るときに、まさに雨がピークだったんですね。あの雨のすごさは、今でも忘れません。

**小田** その年に豪雨被害についての提言を出されたんですね。

**池田** 県や市に対してね、とにかく早急な援助活動と、そして今後のことも含めてね、提言をさせていただきました。あれ秋だったかな。

**田村**（豪雨3カ月後の）10月です。私がちづくり委員会委員長で、緊急提言でした。

**小田** 田村さんはその時に関わっていらっしゃるんですね。では続いてお願いします。

### 緊急提言 病室で仕上げた

**田村** 代表幹事になる前の履歴を披露したいんですけど、私は2010年10月に入会し、2013年4月に都市機能委員会委員長をさせていただき、3年かけて2016年3月に提言書を作りました。そのサブタイトル「50年後も輝き続ける広島であるために」を今回の全国セミナーのテーマにさせていただき、非常に光栄なことだなと思っています。

その後、まちづくり委員会に改名して委員長になると、池田さんから「都心だけじゃなしに、中山間地区も含めて、まちづくりという観点で手を差し伸べるような、そういう活



動がでんか」と難しい宿題を出されて、すごい憂鬱だったんですけど、じゃあやりましょうと。いろんな活動をしている中で大雨が起こり、それでこれ

はもう黙っているわけにはいかんと「西日本豪雨災害に係る緊急提言」を出しました。急がにやいけんということで、入院しとったんですけども、最後の原稿はスタッフと一緒に私の病室でやりました。そういう思い出がある提言です。

その次の年の2019年4月に代表幹事にさせていただきました。2020年の1月に国内で最初の新型コロナ感染が確認された。さらに1年経って2021年の4月に筆頭代表幹事に就任。その筆頭代表幹事を退任した翌月の2023年5月に感染症法上の2類相当から5類になったという、まさにコロナ真っ只中という状況でした。

本題に入りますが、実は（代表幹事の）任期スタート時点の抱負を覚えてないんです。記者会見の時のコメント原稿がパソコンにあったので、ちょっと読みますよ。「昨年2018年に紙屋町・八丁堀地区が『都市再生緊急整備地域』に指定された。多彩な会員を擁する同友会として、可能な範囲で協力していきたい。この会員さんというのは、この街を良くしたいとか、面白くしたいとか、楽しくしたいとか、すごい広島への思いが強い皆さんばかりです。この思いを実現するためには、やっぱり精一杯の努力を続けていくしかないな、というのが一つ。もう一つは筆頭代表幹事に佐々木さんが就任され、その『佐々

木丸』には『まちづくり』『ひとづくり』『しごとづくり』『オール広島』と四つのエンジンが搭載されてるんだけど、私は『機関長』として、この四つのエンジンを高効率、高出力で稼働させる努力をしています」と。今こうやって見ると結構かっこいいこと言うてる。(一同笑)

**小田** その佐々木さんは筆頭幹事を辞められるときに、「濃霧と暴風の中、座礁、沈没せずに舵を引き継ぐことができた」という名言をおっしゃっています。

**佐々木** 田村さんに向けたメッセージだったんですけど。(一同笑)

**小田** では続いて武田さん、お願いします。

### 満身創痍で引き受けた



**武田** この10年を振り返って、なんですけど、私は同友会経験が5年しかないです。初めの1年は文化振興(委員会)の方でやらせていただいて。その時思っ

たのは、ついで広島から出たことがないんで、修学旅行ぐらいしか。例えば、お城言うたらすぐ広島城を思うでしょ。県全域で考えて福山城を考えなさいとか、北へ行けば郡山とか。そういうのなしに、ついで広島ベースで考えるから、これはいかなあというのは、その時に思いました。

正直言って、酔っ払って帰るときに農業用水路にはまってね。(代表幹事になる前年の)11月だったかな。うちの(広島信用)金庫の前任者から「そろそろ(同友会から代表幹事就任の打診を)言うてくる頃だろうか

ら、断っちゃいかんよ」って言われていてね。12月に来られたんですよ。その時にギブスしとった。もう満身創痍ですよ。それで「じゃあOKします」って。その時は全国大会があるような話は一切なかった。聞いていたら、「もう一回待ちますよ」って言うんですけどね。(一同笑)

佐々木さんがおっしゃったように、広島には恵まれた風景がある。それで(私が筆頭の時の)テーマは「広島を“いかそう”」と定めさせていただきました。

それで、代表幹事の初めの2年間は田村さんの後ろをついていけばいいんだ、ということで長崎(の全国セミナー)に行かせていただいて。それで自分が筆頭になって福井へ行って。でまあ、本当に(広島の全国セミナーでは)私は何もせずに、皆さんのおかげで成功裏に終わったと。特に感謝をしておるのはね、中国放送さんと、みづま工房さん。中国放送さんは図面入り役割分担とか作っていただいて。そういうものがなかったらスムーズにはできてないと思う。本当に皆さんに、おもてなしの精神で頑張ってください、おかげで無事に終わりましたので、ほっとしておりますね。ありがとうございます。

**小田** 武田さんが筆頭になられたのは、ちょうど新型コロナが5類に移行してすぐでしたよね。それまで中止していた行事が一斉に復活して。武田さんが「思いとは違った」とおっしゃったように記憶してます。



**武田** 素人がひどい目に遭ったよね。

**小田** ありがとうございます。ひと通り、お話をしていただきましたけれど、もう一回ずつ改めて振り返り、特に思い出深いこと、あるいはこんな苦労したよとか、気を使ったよとかのお話をお願いしたいと思います。

### 支部への「還元」予算を計上

**森信** 上納金と言っちゃいけないんだけど、支部が納めたお金の一部を我々がいただいているということで、支部への配慮というのがずっと頭にあって。確か（私の）1年目か2年目だったか、100万円ぐらい予算を取って、「手を挙げてこれを取りに来て」という提案をしたら、呉が「マンガでみる呉の歴史」とかいう本を作って地域へ配布された。三原は、私も行って三原城のお堀を泥んこになってかいぼり（清掃）して、最後に水を張って鯉を流した。そういう形で支部に還元をしていくことが一つのスタンスでした。

それからもう一つ、私の時に西日本経済同友会会員合同懇談会がありましたね。わがままを言わせていただいて、鳥取県知事を務められた慶応大学の片山善博さんに基調講演をお願いして、当日は各委員長に全員登壇してもらい、広島経済同友会の発表会という形にしました。広島の同友会は、しっかりしている各委員会が活発に動いて提言し、代表幹事はそれをサポートすればいい。それを見てもらおうということで、委員長それぞれに発表してもらって、最後に片山先生に総評で「今日は何点ですか」と聞いたら、「合格点だ」と言っていたことがありました。

同友会は、大きな会社も小さな会社も、また支店長さんもオーナーも、もちろん女性も男性も、最近では外国人も入ってきて、まさに多様性のるつぼという、そういう意味では、その兆しをある程度打ち出すことができたかなと思っています。

いみじくも池田さんもおっしゃったように、同友会というのは病理学みたいなもので、病気を見つけ出すんだ。その治療をするのが商工会議所だと、尾道（支部）のある方がおっしゃっていて。でも、提言だけではやっぱり弱い部分もあり、私も委員長の時には交流、移住、定住について広島県と連携協定し、今もそれがダイバーシティ委員会に続いてますし、広島修道大学とも連携して、なぜ東京へ就職するのかといったテーマで交流から始めてホームページができ、学生たちを広島に引き留めたいと、今は確か信金さん、広銀さん、私とか同友会メンバーが出かけていって事業承継という講座を持っています。やっぱり自分が関わった提言はずっと背負っていく責任があるんだなと思っています。

最近では都心会議というのをやって街づくりのイベントをされているように、提言と同時に、動かせるところは動かしていく。そういう兆しはできたかな、と思っています。

**小田** ありがとうございます。皆さんのほうから何かありますか。

### 打ち上げ花火で終わらせず

**田村** 確かに経済同友会は提言団体と言えるんですけども、我々の属していた委員会では、ある人が「広島は花火を打ち上げるのは好きだけでも、パーツと散ったらあと何も続かないじゃないか」という厳しい意見も出された。出した提言はできるだけ具現化する方向で継続しようと、私はそれを実行してきたつもりです。

**池田** 提言活動をうまく使う上でね、我々は地域にとって今後何が必要なのかということをよくよく見た上で自治体に提言すれば、（首長が議会に）「これが来た。皆さん検討しましょう」となる。提言活動は同友会のもっとも根幹の活動で、それでいろんなものが動か

せると思っていますので、これは今後も続けてほしいな。

**武田** 田村さんがよく言っとられた「横串を刺した活動」ですよ。ひろしまド真ん中祭りに各支部から参加していただいたり。今は物販が中心ですけども、これを継続して、だんだん大きくなるようにすればいい。それと、観光振興と文化振興が合同会議したり、そういうふうに通点があれば一緒にやって、まさしく横串を刺した活動、情報共有等もできれば、もっと良くなるんじゃないかな、と思います。

**小田** ありがとうございます。それでは池田さん。

### 熱く楽しく 提言も実践も

**池田** あとね、オール広島ということですね、新入社員を県内から集めて江田島で研修会をするじゃないですか。新入社員が2、3人という中小企業が参加して、同じ悩みを話す。我々も行って話を聞いてあげる。やっぱりこれはね、提言だけではない実践活動として定着していて素晴らしいと思っています。

やはり、経済同友会の筆頭代表幹事をする人はみんなすごく熱い。僕が特に尊敬して素晴らしいと思ったのは、(仙台のアイリスオーヤマの) 大山健太郎さん。広島で講演してもらったこともあるんだけど、やっぱり地域を何とかしなきゃというような人たちが同友会に入ってきて、実践してもらうのがいい。

あとはね、楽しくやること。海外経済視察もそうですけど、尾道唯一の割烹旅館を全館貸し切りして(宴会を)やりました。尾道の皆さんに大変喜ばれて。そんな感じでね。まさにオール広島と関わるんですけど、地域地域にこんな(いい)ものがあるのかを、みんな知らないんですよ。そういうものを各支部が紹介したりすることも、同友会の良さ

じゃないかな。

僕が代表幹事になった時に広島ブランド委員会を作った。広島ブランド、瀬戸内ブランドをやろうと。この後、県がその名前を使われましたけど、やっぱり石を投げて、いろんなことを提言して、そうすると、これ面白いじゃないかと自治体が深掘りしてくれますからね。執行機関がやりだすと本当に動き出しますから。今後も提言活動はいろんなものを出してほしいな、と感じています。

**小田** ありがとうございます。ここで新入社員パワーアップ研修のホットな状況をご報告します。先日、新年度の参加者を75名に増枠して(インターネットで)募集したところ、3分48秒で埋まったそうです。では、続いて佐々木さん、お願いします。

### 備北のステージで踊った人も

**佐々木** 各支部との関係性については、皆さんが現地に足を運んでコミュニケーションすることや、さっき田村さんが言われた「横串差し」で、私が筆頭代表幹事に就任した際、その部分は解消されてきたんじゃないかな、というのを実感しました。各支部のイベントや催事に参加させてもらった際に、本当におもてなしの気分や、ここも見てください、ここも来てくれという地域自慢を感じることができました。

究極忘れられない景色は二つありまして、一つはさっき言った松山から帰ってくる際のスーパージェットから見た豪雨。池田さんが言われた一致団結してみんなで帰って来られたという安心感と恐怖感は今でも忘れません。それともう一つは、池田さんもお記憶かどうか、備北支部の加藤組の娘さん(仲街よみさん)がミュージシャンをされていて、ステージがすごく盛り上がり一体化した中で、池田さんが舞台上がって踊ってた。あ

のシーンは、支部と本部が一体化したんだなっていうのを感じた瞬間でした。今もその関係性は残っていると思っています。

それから、代表幹事を退任して思ったのが、県内 800 人以上の大きな組織の事務局が実質 3 人ですね。ちょっとヨイショしますけど、これってすげえなと。これはやはり、各支部、各委員、各部門の当事者意識の強さであり、広島経済同友会の誇るべき点ではないかと、離れてから実感しました。他団体の模範となるべき機能と役割だなと思います。(事務局には) 感謝しかないです。ありがとうございました。

**小田** 2024 (令和 6) 年の備北支部 60 周年記念式典でも、やっぱり加藤さんのお嬢さんが出られて、あの時は大人数が舞台上上がったんじゃないですか。

### 肌感覚で挨拶ひねり出す

**佐々木** 一つ言い忘れました。幹事会の時の(代表幹事の)挨拶ってあるじゃないですか。あれ、苦勞されませんでした。私は全部自分で、それも自分の肌感覚で感じたことをメッセージを込めて書かなきゃと。プラス「カッコ笑い」をどこに入れるかと、これが一番苦勞しました。

**小田** 佐々木さんがすごく考えてきてらっしゃるなというのは感じていました。それでは田村さん、お願いします。

**田村** 佐々木さんと一緒に、やっぱり、幹事会で何を言うか、結構真面目に考えました。ついつい長くなったので、しまいには「お前のしゃべりは長すぎたよな」と何人かに言われました。反省してますけどね。まあ、でも、いろんな勉強をさせてもらった。

それから佐々木さんもおっしゃったけれども、事務局は本当によくやってくれていると思います。それを支えているのは当事者意識

もあるでしょう。さらに、部会とか委員会が自律的に全部そこで完結する体制を取っているので、少ない人数でこの大所帯の同友会を回してくれているかな、と思います。改めて感謝したいと思います。

**池田** 田村さんにはね、広島で初めて、経済同友会の代表幹事が商工会議所の副会頭になってくれと私が頼みに行きました。提言もいいけど、実践活動にも協力してほしいと。

**田村** 実践活動も、しょうたんよ。

**池田** 僕みたいに(代表幹事が)終わって会議所へ行ったとか、途中で辞めて会議所へとかはあったけど、両方一緒は田村さんが初めて。

**田村** いろいろと(池田さんには)借りもありましたんで。(一同笑)

**佐々木** 田村さんも(挨拶の)ネタ探しはされましたよね。それは使える、とか、これはちょっと、とか。私は今でもその癖が抜けないんですよ。

**池田** 僕も今(あちこちで商工会議所会頭として)挨拶させてもらうんだけど、ひどい時は(挨拶の順番が)5番目とか6番目になる。するともう、話すネタがなくなるわけです。だから人が言わないことにちょっと目を向けてみたり。そういう面では(同友会で)いい経験をさせてもらった。

**佐々木** 今もいろんな会合に出ると、自分だったら何を喋るかなんて、勝手に頭が考えるんです。でも時々、突然振られることがあつ



て、それはそれで助かっています。

**小田** なるほどですね。では武田さん、お願いします。

**武田** (幹事会の) 冒頭挨拶で、ゴーストライターがたまにハウツーもんとかを書くときがあるよね。あれ、気にいらんので、はしよります。今はロータリーの会長もやらされていて、この挨拶はもう全部、自分で考えてます。ただ私、ITに弱いもんですから、今頃はスマホ使ってAIというのがあるらしいですけど、いまだによう使わんのです。だからある意味、生の声でしゃべってます。

### 新型コロナ対応に英知結集

**佐々木** 新型コロナが発生して、じゃあ、どうやって会合を開くかというときに、いろいろ皆さんに英知を結集してもらいました。ハードウエア、ソフトウエア、ヒューマンウエアと、同友会のあらゆる方面からいろんな協力を得て開催することができました。ウェブでの会議開催っていうのも、大きな会社は当たり前ですけど、そんな規模じゃない会社にとっては参考になりました。「ひな型になってありがたかった」とよく言われました。

**田村** 事務局と話して、一つ一つ手を付けていったよね。ウェブ会議も要は「3密」を避けるということで、密閉されたところに大人数で集まれないので、じゃあ支部単位でウェブ会議をして繋ごうとなった。ところが支部にウェブの機器がなかったんですね。そこはもう広島で調達して配ってあげようや、ということで、各支部に配って、それで横の連携が取れた。あれはすごく良かったです。

**佐々木** あれは本当にネットワークというか、仲間がいたからこそ的一致団結でしたよね。

**小田** もう少し時間があります。ここからはフリーでお話してください。

### まちづくり推進へ都心会議

**田村** 代表幹事に就任した時は、コロナのために、皆さんが楽しんだ都市間交流会とか支部交流会とかが全くなかったのもう悔しくて。残念で。(一同笑)

ただ、いま言ったように、コミュニケーションの取り方を考え、横串を刺していこうということですね。非常に皆さんが協力的で意欲的なんで、全然苦もなく、連携が取れたんじゃないかな。改めて会員の皆さんの素晴らしさを感じているところです。

あとは、都市機能委員会、まちづくり委員会もそうなんですけれども、メンバーが100人以上いる。提言を作るとき、どうやって皆さんから意見を聞いていこうか、という点に腐心しました。ワーキンググループに分けてみたりとかですね。多彩なメンバーが集まり、多様性に満ちた組織なので、意見をいかに吸収していくかというのが私としてはすごく気を使いました。

それから例えば豪雨災害の緊急提言のときに、ハード的に防災の施設をどうするかだけでなく、「日頃の自治のコミュニケーションをどうしていくか」とか、「地域の経済的な疲弊をどうやってバックアップしていくか」とか、「地産地消を通じて災害後も経済的な支援を続けよう」とか、本当にいろんな意見をいただいて、私はこの同友会メンバーの素晴らしさを再確認したという思いがあります。

あと、うまくいったことは二つありまして、一つはさっき言ったように都市機能委員会の提言をして、「産官学民が一体となり、まちづくりを議論・推進できる仕組み・体制づくり」というのが提言書の中の「一丁目一番地的な項目」だったものですから、「都心会議」ができたのは本当に嬉しかったです。

もう一つは、先ほど池田さんおっしゃったように広島ブランド委員会が頑張ってくれ

て、2019年3月に「広島エリアにおける周遊型インバウンド観光振興の未来戦略」をまとめてくれて、その中で、今でいう「宮島訪問税」を提言したんです。実は、地元では時期尚早だとペンディングになっていた。ところが経済同友会の提言が現場の人たちの背中を押して、それで議論の俎上に上がり、(廿日市市) 議会が動き出して、ついに2023年10月に実現した。やっぱり何度も何度も諦めずに背中を押していくというのは本当に大事だなと、その時に思いました。

うまくいかなかったことと言えば、実は近年の全国セミナーでは4回ともパネリストにさせられた。このうち土佐と神戸の会議はパワーポイントも作って準備万端だったんですけど、直前にコロナで中止。実際にやったのは、長崎と広島です。そういう意味では4戦2勝2敗なんです。この2敗がとっても悔しい。

それから、やり残したことはですね、まちづくり提言の中にいろんな項目があって、かなり実現したものもあるんですけども、一つだけ残念なのは、耐震性に問題のある現在の広島県庁を移転する連鎖型のスキームが受け入れてもらえなかったことです。今の広島県庁を近隣のテニスコートに移して19階建ての耐震ビルを作ると全部入るんですね。テニスコートは中央公園に移設して、などと「古い施設の更新を継続的に伴う連鎖型のまちづくりをやりましょう」と提言したんですけど、これがまだ実現できてないんで、これは何とかやってもらいたいなと。

実は提言書を作るときに(行政幹部の意向をくんで) 予定調和を考えようかという話もあったんです。けれども「問題点は問題点として、耳が痛い話もやっぱり出していくべきじゃないか」という話をしてまとめました。

**池田** まあ、いろいろあって都心会議を作ったという話になってね。今は広島のみ

ちづくりは都心会議を中心に回そうということになってます。

**田村** 実は(都心会議については) 県や市と話してたんですけど、最後は商工会議所を入れようと。ちょうど池田さんもおるじゃないですか。一番理解してくれてるんで、そこはすごくスムーズにいきましたね。

**小田** ありがとうございます。ではこのあたりで、香川さんに総括してもらって第一部を締めたいと思います。

## 激動の10年 成果も数多く



**香川** 端的に言えば、激動の10年であったのかなと思います。コロナというパンデミックが世界を揺るがし、AIとデジタルの発展に拍車をかけた時代でした。

会議のあり方についても新しいやり方が進んでまいりましたし、西日本豪雨など気候変動とか経済格差が深刻化する中、新しい社会の仕組み、新たな価値と生き方を模索した時期ではなかったかな、というふうに思います。

提言の重要性と、汗をかいての実行、それから事務局の優秀さがお話の中に出てきました。(10年前の)60周年記念式典から始まり、西日本経済同友会会員合同懇談会、第37回全国経済同友会セミナーなど、経済同友会の中では最大の行事も全てこなされた10年間でした。また、広島都心会議に代表されるように、新しい組織の枠組みの基礎も築いて、その中でド真ん中祭りの開催など成果を出されています。我々はその基礎をもとに、発展

できるよう努力をしてまいりたい。

それぞれの代表幹事就任時の課題に適切に対処された10年、そして同友会の素晴らしさを再確認させていただいた10年であろうかとも思います。歴代代表幹事のご努力に敬意を表したいと思います。

**小田** ありがとうございます。では、第2セッションに移らせていただきます。

## <第2部 現在そして未来へ>



**香川** 第2セッションを担当します。どうぞよろしく願います。「現在そして未来へ」ということで、最初に現在の同友会に思うこと、例えば現状認識

とか、運営への期待と注文ですね。さらに30年後には広島経済同友会が100周年を迎えます。それをイメージしながら将来の広島と同友会への積極的な提言、アドバイスをいただければ幸いです。それでは早速進めさせていただきます。最初に森信特別幹事、お願いいたします。

### 若手委員長 もっと増やして

**森信** 現状と将来については、一つは会員が増えているんですが、委員会が少し減ってきている。委員会のメンバーの数が多いので、なかなかみんなが集まって積極的な発言をする場にもなりにくい。それと、さっきから出ているように、事務局が全ての委員会に関わるというのは現状ではもうこれが限界のようにも思うんです。やはり委員会には委員長がいて、副委員長が8人とか

10何人いて、さらに幹事もいるわけですから、もう委員会の活動は委員長、副委員長、幹事で運営をしてもらって、事務局はそのお手伝いというか、場所取りとかをさせていただいて、委員会がもっと独自で進行するような組織であったらもっと活発になるかな、という思いがあります。

だから、お願いとしては、委員会の数を増やしていくこと。もっともっと若い人とか、いろんな方々に委員長をしてもらわなくちゃいけない。そうすると今の委員長はどうするのかということ、池田さんがいみじくも「副代表幹事というのがよそにはおるよねえ」とおっしゃったことがあるんですけど、例えば今すぐには難しいとしても、いずれ会則も変更して、経験豊かな人たちには少しスタッフ的なポストについてもらって、委員長ポストを（もう少し若い人たちに）割り振ってでもいいんじゃないかなと思います。

もっと別のことと言えば、会議所ビルが今度きれいになったときに、同友会の事務局をどうするんだろうとか、事務局の皆さんの処遇の問題とか、総務部会とはまた別に、3年先、5年先と長期を見据えた同友会のあり方について議論する組織が要るんじゃないかなと思います。

先般、青年会議所の会議へ出てみると、竹原とか三次とか各地のJ C（の会員）が一桁になっているところがある。それは人ごとではなく、同友会の支部の会員の問題にもつながってくるということで、もっと若い人たちを同友会に受け入れ



て、もり立てていかないと、先の先の種をまかないといけないんだろうなと実感しました。

**香川** 委員会の運営についてもアドバイスをいただけますか。

**森信** 正副委員長に幹事も入れて役割分担すればいいのでは。例えば私は今、ダイバーシティ委員会の所属ですけど、四つの柱を作っておられる。だから 8 人の副委員長に 2 人ずつ付いてもらい、自分は外国人の問題、自分は障害者の問題というふうにメンバーは挙手をして入って行って議論すれば、もっと活性化するのになと思います。もちろん委員長のお考えもあるんだけど、僕ら経験者が委員会の中で発言していかないといけないのかな、というふうには思うんです。

**香川** ありがとうございます。では池田特別幹事、お願いします。

### 多彩な顔ぶれの入会促進を

**池田** まず組織的な話をすればね、やはり経済同友会のいいところは、代表幹事が順次変わっていくということ。大事なのは組織を私物化させないというこ



とだと思ふんですよ。そういう面で、一人が長くではなく、順次変わっていくのは非常にいいことだと僕は思っています。

もう一つ、問題はね、今 J C のことをおっしゃりましたけどね。J C ってもう広島では 100 人を切っています。ところが広島商工会議所の青年部員は 300 人いるんですよ。なぜ J C が少なく、商工会議所が多いか、僕

がいろいろ聞いてみると、J C に入るのは親も J C、おじいちゃんも J C で、事業を受け継いだ方々たち。ところが商工会議所青年部というのは、自分でマッサージ店を始めました、でもネットワークが欲しいねと、そういう人がどんどん入っていくんです。

そこから学ぶこと、大事なことは、スタートアップとかベンチャーの人が同友会に入っていない、J C にも入っていないということ。そういう人たちがやっぱり広島のことをいろいろ知りたいねと同友会に入ってきて、個人の立場で発言してもらったら、もっともっと同友会が活発化して若い人たちの意見が出てくるんじゃないかな。そういう同友会に作り込んでいかないとね。

あとは、やっぱり存在意義としてはね、提言活動をとにかくやること。個人の立場だから、自分が所属している企業には迷惑かけませんという形でね。やっぱり提言活動をどんどんやっていくことが同友会の“一丁目一番地”と言えいいかな。とにかく組織的には、いろんな人が入りやすくする。意見をたくさん聞く。同友会はなんか俺たちが思ってることを代弁してくれてるじゃないか、だから俺たちも、もっと協力しようじゃないかとか。その辺をこれからの同友会活動の柱にしてもらえたらいいなと思ってます。

**香川** ありがとうございます。では佐々木特別幹事、お願いします。

### 広島魅力を伝えたい

**佐々木** 現在の同友会活動について、離れて見た視点なんですけど、今広島が一番の課題は、若者の流出ですよ。これ本当に企業から言っても、何らかの手を打たなきゃいけないんじゃないかなと思います。長い目で見ると、広島に生まれ育った子どもたち、学生たちに、広島の魅力とか実態をきちんと伝える



仕組みがあるのかどうか。至近な視点から見ても、この経済同友会が若い人たちに、一番のお膝元である地元の子どもたちに、噛んで咀嚼して伝える手立ては

ないものかな、と思っています。

それともう一つは、先ほどから出ている「横連携」「串刺し」機能ですよね。池田さんはスタートアップの企業があんまり入ってこないと言われた。一方で、そのスタートアップがいっぱいいるんだけど、育てきたら今度はどこに預けようかと悩んでいる団体もある。同友会内部の横連携、串刺しだけでなく、そうしたいろんな組織、団体の横連携、串刺し。この辺も生まれつつあるんですけども、もっと加速していったらいいなと思っています。

繰り返しになりますが、50年後のためには、ぜひ今の子どもたちに広島の魅力伝える、何かいい方法はないかな、ということを思っています。

**香川** ありがとうございます。それでは引き続き、田村特別幹事から。

### いずれ女性代表幹事を

**田村** 当会活動についての現状認識、課題ということで、やっぱり時代時代で対象とするテーマも更新されているんですかね。私は新型コロナを契機として、いろんな活動を立ち上げて、それを進めてきました。コロナが落ち着いて、その危機を脱した今は、小田さんがやってらっしゃるウェルビーイングの委員会に変えたりですね。その時代において進化した形で活動を進めていらっしゃるというふ

うに思います。

ただ、その活動を担うのはやはり会員一人一人ですよね。そういう意味合いでは、組織の新陳代謝を含めて変革をどう進めていくかというのは企業経営と同じ課題だと思うんです。前から言いますように、本当に多種多様で多彩な個性を持った会員の皆さんがたくさんいらっしゃるの、できるだけ多くの皆さんにリーダーシップを取ってもらいたいなと。それと合わせて女性会員をもっともっと増やして行って、将来は女性の代表幹事が出てくれるような同友会になればいいな、楽しいなと思います。

若い人たちへのアプローチについても、佐々木さんがおっしゃったけど、まさにその通りで、とても大事だと思います。とりわけ就職する前の若い人たちです。実は私、ここ10年近く県立広島大学で、事業経営活動に関する講義を年1回、1コマほど行わせていただいておりますが、一昨年からは経済同友会のまちづくり活動にテーマを変えて講義をさせてもらっています。ものすごく興味を持って熱心に聞いてくれる。後で学生たちの感想文を読むんですけども、「こんなに広島のことを大事に思ってくれる経済同友会があるということは知らなかった。すごく頼りになるし、嬉しい」というような反応がある。ということは、広島はこんなにいい街だよとか、こんなにいい会社があるんだよっていう周知が足りないんで、そこをやっぱり地道にやっていくべきかなと思います。若い人を集めて、



シャレオの空きスペースを使って高校生にフリーディスカッションさせるとか。そんなに大仰でなくていいので、小さな活動から重ねていく、というのが大事ではないかと思います。

**香川** ありがとうございます。では最後に武田特別幹事よろしくをお願いします。

### 若者たちと もっと接点を

**武田** 若者が少ないというのは多分、これ（＝お金）の問題があるからじゃないですか。ですから、直接の同友会会員でなくても、田村さんが今おっしゃっ



たような若者たちとの接点を増やす。同友会のことを知っていただくような機会を増やしていけばいい。私に 30 年後、50 年後を考えなさいと言うても、どんな墓石に入っているのかな、という年代ばかりですから。（一同笑）

そういう自分の将来に関わる若い人に同友会に興味を持っていただくような仕組みをしないといけないと思うし、それから広島の特徴である支部ですよ。支部は、より狭いエリアを考えると、それだけ深掘りできる力が出るんだろうと思うんです。ですから、年寄りが 50 年先を考えるのも難しいと思うんで、例えば森信さんがおっしゃったような、（われわれの世代は）元老みたいな位置づけとして、もうちょっと若い人にやっていただければいいと思いますね。

**佐々木** 各支部に行かせてもらって思ったのが、本当に皆さん“密”じゃないですか。聞

くと、学校も一緒、J C も一緒、ロータリーも一緒、全部一緒なんですよ。だから本当にもうガッチリ体制が固まってるっていう。

**武田** そのエリアの商工会議所の会員だし。

### フリーハンドこそ存在意義

**池田** だからね。多様性がなくなってきた。何年先の支部長は誰だとかね。そんなのまで全部決めてるじゃない。特に会員の少ない支部はね、例えば東京から来た支店長にもっと入ってもらおうとか。それで、いろんな人から意見を聞いてみるとかね。

経団連、商工会議所、同友会の経済三団体があるじゃないですか。経団連はまさに全国でも 800 社ぐらいしか入ってない。その地方版である中国経済連合会が中国地方で 800 何社。商工会議所は全国 130 万社、広島県だけでも 3 万 2 千社、広島市だけで 9 千何百社の会員がおるわけです。それはやっぱり役目が違うんですよ。経団連は政府に対して、世界の中の日本はこうあるべきだという正論を言う。中経連もこの中国地方 5 県をどうしようという。商工会議所は広島県をどうしようとかを言う組織。日本商工会議所法という法律があって、それに基づいた団体でもある。一番自由で個人の立場で好きなことを言えるのは、もう経済同友会しかないんですね。さっきからしつこく言うけどね、スタートアップとかベンチャーとか、そういう人たちをいかに引き込んでくるか。

同友会もなんとなく、その、固まりつつあるんやね。同友会というものはこうあるべきだというのが固まりつつある。一番好きなことが言えて、法律に縛られることもなし、国や県からもお金をいただいてない団体ですから、フリーハンドでできるのに、そこをもっとやられたら、それがまた存在意義だと思うんでね。そこをぜひともね。支部にも多様な

人を入れたい。佐々木さんが言ったように、何年後に彼が支部長になりますかと聞かされた時には、ゾッと話す話だよね。

**田村** やっぱりね、各委員会とかに「文句いい」がおるわけで、こういう人を大事にすることだよ。ちょっと名前は出しにくいんだけど、もう本当にね、全然違う角度から意見を出してくる人がいる。みんな寛容ですから受け止めて、「じゃあ、そりゃどうすればええんか」とかいう話になって盛り上がってくる。今ある組織の中で、そういう人を大事にしてやろうとしたらね。おっしゃったように、できればイノベーション意欲の旺盛な会社からメンバーが入ってくればね、もっと活気が出ると思います。

**佐々木** 一ついいですか。ここ最近本当に思うのが、先ほどから申し上げているように、経済界のリーダーと言え、JC（青年会議所）やYEG（商工会議所青年部）の経験者たち。でも最近、JC理事長とかYEG会長とかを経験したら、燃え尽き症候群になっちゃって、次のステージにあんまり出てきていない気がするんです。実際に今、60前半から私の年代で表舞台に出てきている層は本当に薄い。その代わりに、今ここにいらっしゃる皆さんの年代層がすごい岩盤で厚いんです。

### 燃え尽き症候群にさせない

**池田** 例えば、広島商工会議所は今度、役員・議員の1割の14人が女性になる。さらに青年部の会長をしたら必ず議員に入ってもらおう。それで彼らの意見を聞く。岩国商工会議所の会頭は女性です。庄原の副会頭も女性です。そういう形でね。やっぱり同友会自身がそういうことをやっていかないと、なかなか難しいよね。今言われた燃え尽き症候群にさせないために、次の仕事をしてもらう。ある程度ご高齢で辞める方がおられたら、そこ

に若い人を入れていくわけです。

**田村** ただね、我々サラリーマンはYEGも知らんし、JCも知らんし、その中で出てきているわけですね。そういうJCとかYEGで理事長とか会長になった人は、そこで組織運営力が付いている。同友会でもその能力を発揮し、頭角を現していただく、というのが自然じゃないんですか。

**佐々木** いや、そういう方たちが今あまり出てこないという現状の話です。私もJCにもYEGにも入ってなかったもんですから、同友会の恩恵は本当に感じているんですけど、そういった方たちがいるともっと変わる。そう申し上げたいのです。

**森信** 実は結構、(JCメンバーを同友会に)入れてるんです。逆に言うと彼らも、もっと自分はこのようになるのになと思いつつ、表現は悪いんですけどね、岩盤があって、上が空かないから、くすぶってる。例えば、(企業の)人事異動があっても(同友会の)委員長はやはり同じ企業から出てきているところもあるわけです。

JCの歴代理事長はかなり今、同友会に入ってきています。JCでいろんな提言や運動をしてきた人は同友会に入れている。だけど彼らが委員会に入ってみても、委員会は大所帯で、ただ話を聞いて帰ってきて、そこでモチベーションが下がってしまう部分があるんですよ。そういう意味では、ガラガラポンで委員会を増やすとか、委員長もちょっと別のところへ行っていただいて、本当にやりたいメンバーを幹事から副委員長、委員長へと育てていくようなね。そういうものが見えるようにしてやると、また違ってくるかもしれないですね。

とにかく刀は錆びさせるな、であって、少しずつ芽が出てくると思いますので、長い目で見てください。

**香川** ありがとうございます。いろんなご意見をいただきました。若者が少ないとか、あるいは若者との接点を増やすとか、30年後や50年後は若い人に考えていただくとか。委員会を増やすというご意見もありました。これらを参考に今後の同友会活動に十分に活かしていきたいと思います。それでは最後に小田代表幹事に締めくくっていただきます。

### 同友会の良さ 引き継ぎます



**小田** 皆さん、本当に今日はお忙しいところ、大変ありがとうございました。この10年間、先輩方はやっぱり広島が大好きで、そのために心血を注いで来られた

ということが改めて分かりました。それと支部という話がよく出てきましたけれども、象徴的な話があります。先の海外視察でモンゴル滞在中に、永野（正雄）さん（元代表幹事）

の訃報が届いたんですけれども、最後に一行が解散するときに、確か尾道支部からだったと思うのですが、「最後に永野さんの黙祷、みんなですてくれんか」と声が出ました。各支部とも、永野さんをはじめ歴代の代表幹事の人によくしてもらったという思いが強いようです。きょう、こちらにお集まりいただいた皆さん方も同じように各地区を回り、随分と連携に心を砕いてこられたということもよく分かりましたし、そうした広島の同友会の良さというものをしっかり引き継いでいかなくちゃいけないと思いました。広島は支店経済で、東京をはじめ、さまざまな地域の方から新鮮な目線で意見を言うていただく土壌があります。あるいは平和都市広島ということで、発信力もあります。皆さんにいろんな表現でおっしゃっていただきましたけれども、組織や活動の活性化を図ることが30年後、50年後につながるということを肝に入れながら、今後も精一杯がんばってまいります。引き続き温かい目で、ご尽力もいただきますようお願い申し上げます。最後の言葉とさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。



座談会を終えて表情を緩める（後列左から）武田、田村、森信、池田、佐々木各氏。前列は左から司会を務めた香川、小田両氏

# 最近10年の支部長寄稿

- ◇ エリアごとに特徴があるため、各支部が主体的に活動している。
- ◇ 一方で課題認識が共有できるテーマについては協働での活動を行っている。



2024年11月の「札幌広福・四極円卓会議」報告資料から抜粋

## 呉支部

## ものづくりの街 歴史を紡ぐ

奥原 祥司 2017～18(平成29～30)年度



私が支部長を拝命した時期は2017(平成29)年～2018(平成30)年と、少々時間が経ってしまっているのですが、幸いにもPCに就任当時の事業

計画等の資料が残っておりました。そしてその資料には「ものづくりの街」「産官学の連携」「呉の人財」といったキーワードがありました。

1890(明治23)年4月に旧海軍呉鎮守府が開庁したことをきっかけに呉の街が大きく発展した、という呉の歩んできた歴史から、ものづくりや産官学の連携等に繋げる活動をしていたのだと、10年も経ってない当時のことを感慨深く思い出されました。

それから現在は私から数えて5人目の支部長が呉地域の発展を考えた活動を展開して呉支部の歴史を紡いでいますが、その活動の切り口は各支部長のカラーによって違うものの、呉地域の発展を目指した活動をし続けてきたことに対して敬意を表するとともに、呉支部の活動にひとかたならぬご支援を頂いている本部の皆様にも改めて感謝を申し上げます。

そして今後も広島経済同友会呉支部として80年、90年、100年と続く活動を「呉の人財」達が続けて貰えることを願っています。

## コロナで一変 活動手探りに

睦 淳造 2019～20(平成31～令和2)年度



平成31年といっても5月からは令和元年ということで、令和とともにスタートいたしました。総務・まちづくり・経営者育成・ひとづくり・会員交流

の5委員会で支部活動をスタートし、順調な滑り出しができたと思っています。

海外視察研修では、マレーシア・インドネシア経済視察に参加させていただき、進出した日本企業や建設中の広大な工業団地などを見学し、アジアのポテンシャルを感じました。

ところが2年目に入る前あたりから、中国発パンデミックがあっという間に世界を席捲し、全ての国民が不安と背中合わせの生活へと変貌しました。

コロナ感染防止対策中心の生活が新たに始まり、手の消毒、マスクの着用、不必要な外出の抑制など、これまでとは違う生活スタイルに。支部活動も、例会や委員会活動の中止や縮小、飲食を伴う会合の中止、Zoomによる例会など、大きく制限を受けました。感染数が収まっている時など、少人数での顔を突き合わせての会合が懐かしく思い出されます。まさに後半は手探りの支部同友会活動となりました。

十分な活動ができない支部に対し、ハイブリッド会議など、様々な支援やアイデアを頂いたこと、本部スタッフや佐々木茂喜代表幹事に感謝致します。

## 「今こそ呉を愛す」地酒で乾杯

武田 保介 2021～22(令和3～4)年度



副支部長を4年間勤めた後、令和3年度から2年間、呉支部長を務めさせていただきました。時はまさにコロナ禍の真っ只中。日本中で外出の自粛が唱

えられましたが、「コロナが有ろうと無かろうと今こそ呉を愛す」というスローガンを掲げ、「経済同友会が地元の飲食店を応援しないでどうする」という決意のもと、他支部のリモート開催を横目で見ながら、疲弊する市内の飲食店を支える一助になればと毎月の幹部会議を夜の飲食店で予防対策を講じた上で開催しました。さすがに緊急事態宣言が出された月はリモートで開催しましたが、ほぼ2年間、飲食店で会議を開催しながら一名の感染者も出さずに終えることが出来ました。

海上自衛隊呉地方総監部の協力のもと、盛大に開催された呉広島中央都市懇話会の成功も嬉しかったですが、呉ブランド委員会が中心となって開催した「呉の酒まつり～呉の地酒で乾杯」という特別例会も思い出に残っています。呉での酒祭りは私自身長年の夢でした。

委員長時代に「マンガでみる呉の歴史」を苦労しながら制作したことも貴重な経験でした。色んな意味で私自身に成長する機会を与えてくれた広島経済同友会に心から感謝しております。

## 経済人と防衛拠点の接点に

大之木 小兵衛 2023～24(令和5～6)年度



令和5年度から2年間、呉支部長として呉地域の特徴や得意を活かした活動に取り組みました。皆様のご助力のお陰で任期を全うさせて戴

いたと痛み入る次第です。

呉市は明治より海軍の軍都としての歴史と伝統を有し、現在は海上自衛隊の基地が所在することから、防衛拠点と地域経済との関係性を理解する上で重要な拠点と言えます。私は経済同友会の皆様にその意義を伝えるべく、基地見学等の企画・運営を行い、海上自衛隊の絶大なるご協力のもと、艦艇や施設、教育機関の見学会や呉地方総監のご講演会を通じて防衛の現場を身近に感じて戴く機会を設けました。

また、全国セミナーにおいてはオプションツアーとして、全国から参加された経済人の皆様に海上自衛隊にご案内致しました。呉の歴史的背景や海上自衛隊の役割について解説することで、安全保障への理解とともに呉地域の魅力もご理解戴いたと思います。皆様には経済同友会と地域と自衛隊との連携の重要性を再認識する契機となったことと存じます。

これらの活動を通じて、地域資源の価値を発信する意義と、経済人の社会的責任を改めて実感し、このような機会を戴いたことに心から感謝致した次第です。

## 三原支部

## 「80年史」寄稿への助走期間

堀口 悟史 2025(令和7)年度～



「支部長を務められた方々に、同友会への思い、心に残る思い出などを寄稿していただきたい」と伺ったのが10月下旬。はて、困ったなと思

いながら2カ月が経過し、今ようやく重い筆を執っています。

そもそも支部長に就任したのが今年の6月。まだ皆さまにご披露できる思い出が見当たらない上、就任以前の活動歴が極めて薄いのです。お恥ずかしながら入会以降、10年間は年会費を納めるだけで、直近年に大之木支部長のもと「ユーザーイノベーション」と「呉のやぶ」という二つのマニアックな持ちネタで講演を行ったのが唯一の活動歴でした。それが過大評価されたのか、呉支部の懐の深さなのか、支部長の白羽の矢が立ってしまい、今、こうして原稿に向き合っている次第です。

ただ一点、前向きなことも申し添えれば、80周年の際にもし同じ依頼があれば、そのときは500字程度には収まらないであろう「思い出」が積み上がっていると確信しています。目下、呉支部は「持続可能性を問い直す」をテーマに奔放自在に事業展開し、お陰様で良き同輩、知己も得て、実に心地よく活動しています。今はまだ10年後の記念誌寄稿への助走期間ということで、このあたりで筆をおくことにします。

## 三原築城450年 お濠に錦鯉放流

赤利 俊彦 2016～17(平成28～29)年度



小野支部長で始まり勝村支部長で準備を進めた「みはら鯉の城下町」構想の実現に向け、平成28年に支部長に就任しました。

三原城跡天主台のお濠の水質浄化を目的とした導水管延伸工事の為、水を抜いたタイミングで、濠の「かいぼり(清掃活動)」を計画しました。10月1日、森信代表幹事様、川妻ひとつくり委員長様をはじめ、市長と市幹部・職員、市民ボランティアを含め323名が小雨の降る中ご参加くださいました。本来立ち入ることのできない濠底に立ち、天主台を見上げる絶好の機会でした。

翌平成29年5月27日には、瀬戸内三原築城450年の関連事業として錦鯉放流イベントを実施しました。来場者500人が見守る中、水産庁佐藤長官をはじめ多くのご来賓の皆様と、世界に誇る阪井養魚場の錦鯉240匹をお濠に放流しました。

同年7月21日には、三原支部主管の備後都市懇話会を開催し、池田代表幹事様、佐々木代表幹事様、森信特別幹事様に、頭に赤いハート模様がある錦鯉を放流して頂きました。立案から6年を経て錦鯉放流を実現でき、三原支部会員の皆様の温かいご支援とご協力の下、忘れる事の出来ない2年間となりました。広島経済同友会会員の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 共創と協働で「未来の会」実現

鶴田 幸彦 2018～19(平成30～令和元)年度



2019年12月、中国・武漢市で新型コロナウイルスが発生し、翌年1月には神奈川県で国内初の感染者が出ました。緊急事態宣言による行

動制限や経済活動の停滞が大きな転換点となった時に就いた三原支部長でした。

そんな中、数年来事業を展開してきた「みはら鯉の城下町」構想は、その取り組みが三原市の「きれいな三原まちづくり奨励賞」を受賞するに至ったことは大きな喜びでした。また、新たな提言書を策定するため、ワーキンググループの設置による協議を進める中で、行政と経済界のトップによる深みのあるコミュニケーションの場を定期的に設定し、地方創生や地域活性化などを目的とした「共創・協働」作業を進める忌憚のない意見交換をする必要性の認識に至りました。そして、三原市および三原商工会議所へ定期意見交換会（名称「三原未来の会」）の実施を要望、実現することが出来ました。

三原未来の会は、2020年12月に第1回目を開催し、2022年6月から三原観光協会も加わり、四者トップ会談は、現在59回目を数えます。広島経済同友会三原支部の存在感を更に高めた年でもありました。

皆様に温かいご支援とご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

## 港湾エリアの活性化を検討

上田 隆政 2020～22(令和2～4)年度



広島経済同友会が輝かしい節目を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

私が三原支部長を務めた3年間は、新型コロナウイルス感染

症により、地域経済と社会構造が大きな転換点を迎えた時期でした。このような状況下においてこそ、現場の実情を踏まえ、行政と建設的な対話を重ねながら、将来を見据えた政策提言を行うことが経済同友会の使命であるとの認識のもと、支部活動を進めてまいりました。

具体的には、観光型高速クルーザー「SEA SPICA」の乗船視察を通じた港湾エリア活性化の検討や、当支部が発起人となった「三原未来の会」を継続開催し、行政と経済界が対等な立場で地域課題を整理し、解決策を議論する場を構築しました。

また、三原内港再生や三原城跡天主台濠の環境・景観保全など、地域資源を活かした施策についても積極的に意見を発信してまいりました。

これらの取り組みは、企業活動の枠を超え、政策提言と実践を通じて地域社会の持続的発展に寄与するという、経済同友会の理念を体現するものと考えています。

今後も広島経済同友会が、時代の先を見据え、地域とともに未来を切り拓く存在として、さらなる発展を遂げられることを心より祈念申し上げます。

## 対話再開 新たなつながり生む

原 邦高 2023～24(令和5～6)年度



広島経済同友会が、自由闊達な議論と行動する経済人の精神のもと、戦後復興から今日に至るまで、地域社会の発展と時代課題の解決に取り

組んでこられた70年の歩みは、広島経済界の大きな支柱であり、深い敬意を表します。

私は、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、社会活動が再び動き出す転換期に三原支部長を務めました。例会行事や事業を従来の形へ戻す一方で、人材不足やまちのプロモーションといった地方都市共通の課題に対し、広島本部や関係団体と連携しながら実践を重ねました。

移住フェアやひろしまド真ん中祭りでの三原の魅力発信、官民が立場を越えて議論を続ける「三原未来の会」の継続開催、さらには支部間交流の再開など、対話と行動を重ねる取り組みは、地域に新たなつながりを生み出す契機になったと自負しています。

これらの経験を通じ、同友会活動は単なる提言にとどまらず、実践を通じて人と地域を育てていく運動であることを改めて実感しております。

今後もその理念を礎とし、地域の可能性を引き出す行動を積み重ねてまいる所存です。広島経済同友会のさらなる発展と、広島の持続的成長を心より祈念いたします。

## 支部40周年 記念式典を開催

宇佐 伸次 2025(令和7)年度～



令和7年度は三原市制施行20周年、三原やっさ祭り第50回記念、そして当支部創立40周年と節目が重なる年度となりました。

三原支部の輝かしい歴史を刻まれた先輩諸兄に感謝の意を表すべく、支部創立40周年記念式典の挙行に併せて備後都市懇話会を同日開催し、NOT A HOTEL 株式会社代表取締役CEOの濱渦伸次氏をお招きし、瀬戸内エリアのポテンシャルなどをお話しいただいた後、佐木島に新しく完成する高級ヴィラ「NOT A HOTEL SETOUCHI」の視察会を企画しています。この契機を逃すことなく、本市の魅力を内外に発信して参ります。

そして、みはら『鯉の城下町』構想のさらなる進展として、三原城跡天主台濠への雁木設置の設計費用が予算化されました。完成すれば、世界一の錦鯉を間近で見られる親水スペースが誕生し、郷土への愛着と誇りを醸成する取り組みを展開していく良い機会を得ます。

これらの活動の輪を広げていくには、会員数の拡大が不可欠であり、目的に賛同してもらえる仲間作りも積極的に行っていきます。

広島経済同友会は、他地域には珍しい支部制が敷かれているおかげで多くの出会いの場があり、今後も各支部との交流を通じて研鑽を積んで参ります。

## 尾道観光 隆盛からその次へ

山根 近 2017～18(平成29～30)年度



平成29年から2年  
間、支部長を務めさせ  
ていただいた。80名を  
超える団体の長は初め  
てで戸惑いも多かった  
が、自らを励まし、前  
向きに職務にあたった。

就任後すぐ、会員3名の合同叙勲祝賀会を開いた。春の叙勲を同時に受章されたことを祝い、急ごしらえながらも温かく賑やかな会となった。

続いて備後都市懇話会を「尾道観光の隆盛からその次へ」をテーマに開催。U2やサイクリング、再生古民家宿、ONOMICHI SHAREなどの新たなスポットを巡る見学会を行い、懇親会は名画『東京物語』の舞台・竹村家を貸し切って開催した。畳の座敷に食膳を並べて昔ながらの宴会を再現し、参加者に大変喜ばれた。

直後に西日本豪雨災害が発生し、甚大な被害が及んだ。教訓として残すため、アンケートや行政との対話を経て冊子「災害が尾道に残した教訓」をまとめ、行政や会員に配布した。

また、ウラジオストック、隠岐の島、小豆島・日生地区への3度の研修旅行も実施。ロシアでは極東開発の現場を視察し、隠岐では地域再生の取り組みを学び、日生では「カキオコ」を堪能しつつ小豆島の丸島醤油を訪問した。

父の死など困難も重なったが、多くの出会いと学びに恵まれ、一生の記憶に残る貴重な時間であった。

## ニューノーマルでの変革を期待

狩野 牧人 2019～20(平成31～令和2)年度



私が尾道支部長を  
務めたのは、平成か  
ら令和へと時代が変  
わり、新型コロナウイルス感染症が全世  
界に拡大し、我が国  
でも緊急事態宣言が

発出される大変危機的な時期でした。台湾視察研修旅行の中止に始まり、国内研修の中止、役員会・例会の中止、書面審議、ズーム、WEB配信等、感染リスクを回避する動きが取られ、その後も三密回避、不要不急の外出・イベント開催の自粛…。今も、従来どおりの運営を執行出来なかった不甲斐ない気持ちでいっぱいです。

コロナ収束から3年が経過した現在、社会・経済活動の維持を図る為、オンライン化が進まない領域にもテレワークの導入やズーム会議等のハイブリッドな運営が普及、デジタル化の波が押し寄せ、情報通信システム(ICT)が国民生活や経済活動の維持に必要不可欠なものとなっております。

収束後の我が国の社会・経済は、ウイルス蔓延前とはフェーズを異にする新たな社会・経済へと不可逆的な進化を遂げるとともに、今後更に、長年の慣行が崩され、デジタル化・リモート化を前提とした活動が定着することで、産業・社会・個人のあらゆるレベルにおいて変革が生まれ、新たな価値の創造へと繋がっていくものと期待しております。

## D X 挑戦 みらいビジョン策定

瀬尾 暁史 2021～22(令和3～4)年度



就任当初は、前年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、例会や会議を Zoom で行うなど、多くの制約を伴う船出となりました

たが、同時に社会や経済の在り方を見つめ直す機会でもありました。

D X (デジタルトランスフォーメーション) への取り組みを重要なテーマと捉え、令和3年7月には、伊勢の老舗「ゑびや」の事業戦略アドバイザーである常盤木龍治氏をお招きした講演会を開催できたことは特に印象に残っています。デジタルは目的ではなく手段であり、経営者自身の問いと覚悟が重要であるという示唆は、大変有意義な経験となりました。

また令和4年度には、人口減少や産業構造の変化といった地域課題を踏まえ、尾道の将来像を中長期的な視点で示した提言書「尾道みらいビジョン 2023」を発表することができました。

田村代表幹事をはじめ県内の多くの会員の皆様との出会いは、地域を超えた絆を実感する貴重な財産となりました。全国で唯一支部組織を有する広島経済同友会が、今後もその強みを活かし地域の活性化をリードし続けていくことを期待しております。私自身も一会員として、これからも尾道のまちのために、自分なりにできる努力を続けていきたいと考えています。

## 人を育て 人と人をつなぐ場に

宮地 宏治 2023～24(令和5～6)年度



支部長を拝命した二年間は、尾道という地域を見つめ直す時間であったと感じています。同友会の活動に携わる中で、地域経済に果たすべき役割や、経営者が社会に対して負う責任について、改めて考える多くの機会をいただきました。

最も印象に残っている取り組みの一つが、初年度に尾道支部主管で開催した備後都市懇話会です。県内各支部から多くの会員をお迎えし、駅前棧橋からサイクルシップ「ラズリ」で瀬戸田へ向かい、瀬戸内の多島美を船上から体感していただきました。帰路の船上で皆様とともに眺めた瀬戸内海の夕日は、一生忘れることのない思い出です。

一方で任期を振り返ると、観光や産業振興への意識が先行するあまり、地元企業の多様な魅力が十分に伝わらないまま、若い世代が市外へ進路を選択していく現状に、より踏み込んだ取り組みができなかったことは心残りです。地域に根差した企業の営みや魅力に、幼い頃から触れる機会をつくり、学校と企業が継続的につながっていくことの重要性を、改めて感じています。だからこそ今後の同友会には、地域の魅力発信とともに、人を育て、企業と企業、人と人を結ぶ場としての役割をさらに深めていくことを期待しています。

一方で任期を振り返ると、観光や産業振興への意識が先行するあまり、地元企業の多様な魅力が十分に伝わらないまま、若い世代が市外へ進路を選択していく現状に、より踏み込んだ取り組みができなかったことは心残りです。地域に根差した企業の営みや魅力に、幼い頃から触れる機会をつくり、学校と企業が継続的につながっていくことの重要性を、改めて感じています。だからこそ今後の同友会には、地域の魅力発信とともに、人を育て、企業と企業、人と人を結ぶ場としての役割をさらに深めていくことを期待しています。

## 会員の後ろ姿に多くを学ぶ

寺本 吉孝 2025(令和7)年度～



私が経済同友会に入会させていただいたのは30代の頃でした。多くの諸先輩たちに恵まれ、地方の企業家としての務め方や心構えを教え

て頂きました。支部創立50周年、60周年記念事業を経験し、様々な方々にもお会いする機会もいただきました。

尾道支部は積極的に行政への提案をしている団体と今でも思います。その実現に向け、ときには激しく意見がぶつかり、その解決策を独自で模索した時もあります。会員の皆様の地元に対する熱い想いと自分たちが果たすべき責務をそれぞれメンバーがしっかりと自覚していました。会食の時などは面白く、また、熱く語られていた事を今でも思い出します。未熟だった私はその後ろ姿に多くのことを学ばせて頂きました。

また、視察旅行ではその当時、特に成長著しい上海・蘇州の地元日本企業を訪問し、急速なグローバル化を実際に肌にしたことを思い出します。私がお会いしたたくさんの先輩方には感謝しております。

尾道経済同友会会員の皆様に頂きましたこの御恩をかみしめながら、今後は広島のさらなる活性化に努めて参りたいと思います。

## イタリア北部でワイン三昧

杉之原 祥二 2016(平成28)年度



平成28年度の支部長を務めました。この年の産業視察は、福山商工会議所が福山大学と協力して「ばらの酵母で瀬戸内海・福山の第六次産業を

醸すプロジェクト推進委員会」を発足させたことと、備後圏域の市町が共同して「備後ワイン・リキュール特区」に認定されたことに連動し、イタリア北部のワイン産業を視察しました。

発泡酒で有名なフランチャコルタ地区、赤ワインの王様のバローロ地区をバスで横断し、村のホテルに宿泊して、昼夜、イタリアワインの知識を吸飲しました。

幸い当地に造詣の深い藤本慎介会員夫人真理子氏の練りに練ったスケジュールに基づき、「ワイン三昧のイタリア産業視察」を満喫した一週間でした。

## 人とのつながり 支部の強み

金光 憲正 2019(令和元)年度



福山支部の活動に携わる中で私が常に感じてきたのは、本会が「地域の未来を自ら考え、語り、行動する場」であるということです。

高度経済成長期から現在に至るまで、社会環境や産業構造は大きく変化してきました。その中で同友会は、時代に流されることなく、行政や政治と適切な距離を保ちながら、地域の課題に真正面から向き合い、提言を重ねてきました。

福山支部の強みは、人と人とのつながりにあります。世代や業種を超えた率直な議論、次世代を担う人材との交流は、地域にとってかけがえのない財産です。人づくりこそが、地域の持続的な発展を支える最も重要な基盤であると、私は確信しています。

また、新しい委員会として、事業承継というテーマが加わりました。これは、次世代への円滑な承継をテーマにした取り組みであり、会員企業にとっても極めて重要なテーマであると考えています。

70年という歴史は、先人たちの挑戦と志の積み重ねにほかなりません。その歩みに敬意を表するとともに、私たちもまた次の世代へ責任を持ってバトンを渡していく必要があります。広島経済同友会が今後も、地域に信頼され、未来を切り拓く存在であり続けることを心より期待しています。

## パンデミックから新常態へ

竹内 太甫 2020(令和2)年度



福山支部の支部長という拝命に、戸惑いの中での新年度の準備でした。

そのような中で、年明けから発生した「新型コロナウイルス感

染症」のパンデミックという想定外の事態の中でのスタートでした。

本部からの指示や役員会での協議を進める中で、当初予定をしていた年間スケジュールのうち、国内視察は中止となりましたが、9回の例会を開催することができました。これも本部のご支援を含めて、当支部の役員や会員の皆様の英知と協力の賜物であったと思います。特に、当時の佐々木茂喜代表幹事様に8月に来福していただき、令和2年度の活動方針を直接ご講演いただいたことには改めてお礼申し上げます。

「新常態」という新しいキーワードが生まれ、DX（デジタルトランスフォーメーション）が経済活動の中心になっていく転換期だったと思います。

## シビックプライドの醸成こそ

藤本 慎介 2021～22(令和3～4)年度



福山支部長を務め  
させていただいた2  
年間、最も心に刻ま  
れたのは、支部創立  
60周年の節目に取り  
組んだ「ふくやまス  
ポーツパーク(FSP)」

の策定と提言です。

コロナ禍という未曾有の困難の中、支部一丸となって「日本一、スポーツに親しめるまち」を目指す構想を練り上げました。競馬場跡地に2万人収容の球場や多目的フィールドを備え、芦田川の魅力を活かした「新かわまち広場」を整備するこの構想は、福山の未来を切り拓く強い使命感とともに枝広市長へ手渡しました。

また、視察研修での学びもありました。立命館アジア太平洋大学では、学生の半数が国際学生という「ダイバーシティ」の真髓と起業部学生の熱意に触れました。大分市の視察では、駅前広場を大胆に公園化するなど「人が歩く空間」へと転換した事例を目の当たりにし、理想を追い求める姿勢こそが価値あるまちづくりに不可欠であると感銘し、福山にも活かしたいと心に刻んだのを覚えています。

同友会とは「提言の発信と行動の実践」を通じて、地域のシビックプライドを醸成するエンジンであると確信しています。今後も広域連携の強みを活かし、地域の活性化を力強く牽引し続けることを切に願っております。

## スポーツパーク実現へ米国視察

小川 恭史 2023～24(令和5～6)年度



広島経済同友会福  
山支部は、令和3年度  
に設立60周年を迎え  
た際、福山市に「ふく  
やまスポーツパーク」  
の整備を提言しまし  
た。この提言は、地域

の活力向上や市民交流の拠点づくりを目的としたもので、支部として地域社会に積極的に貢献する姿勢を示す大きな一歩となりました。

私は令和5年度から令和6年度まで支部長を務め、この構想をさらに具体化するための取り組みを進めました。

特に印象に残っているのは、構想の実現に向けて行ったアメリカ視察です。広島東洋カープ球団の職員にも同行いただき、先進地の「ボールパーク」を参考に、マイナーリーグ3Aのスタジアム3か所を訪問しました。地域に根ざした球団経営のあり方や、スタジアムを核とした街づくりの仕組みを学び、スポーツが地域経済や文化を結び、人々の誇りと絆を育む力を実感しました。帰国後には枝広福山市長に視察内容を報告し、構想推進に向けて意見交換も行いました。

こうした支部の取り組みや視察で得た経験は、今後の活動や地域貢献の指針として非常に価値があると感じています。スポーツとまちづくりが融合する魅力ある福山の実現に向け、これまでの経験を活かし、今後も引き続き尽力してまいります。

## 備北支部

## 「夢をカタチに」取り組み継承

横藤田 晋 2025(令和7)年度～



私が当会に入会して既に20年が経ちました。最も思い出深い出来事は、2021年度に藤本支部長のもとで取り組んだ福山支部設立70周年記念事業「ふ

くやまスポーツパーク構想」の提言に、中心的な立場で関与させていただいたことです。

本提言は、広大な競馬場跡地の有効活用策として、野球やサッカー、各種陸上競技に加え、芦田川の河川敷とオーバブリッジで結び、カヌーやSAP等の水上スポーツも楽しめる、市民の憩いの場となる複合型スポーツ公園を創出しようというものです。音楽イベントや展示会、夏の恒例福山花火大会の観覧席としても利用でき、災害時には防災拠点や遊水池としての役割を担うなど、多彩な機能を持たせました。

この構想に至るまでには、実行委員会から多くのアイデアが噴出し、喧々諤々と夜遅くまで議論を重ねました。その楽しさこそ「夢をカタチに」する過程そのものでした。また、東京から招いた専門設計者による構想図は、市民の想いと期待が凝縮されたものでした。完成した提言書をカープ松田元オーナーにお持ちした際「この球場ならカープも試合を開催する」とのお言葉は、大きな自信と喜びとなりました。

今後も福山が「よりすみ良い街」となる事を目指し、提言と具現化に尽力を続ける所存です。

## 魅力ある備北地域を目指して

伊藤 郁夫 2018～19(平成30～令和元)年度



備北支部のスローガンを「魅力ある備北地域を目指して」～連携と発信～として活動しました。まずは会員を拡大して70名体制が出来た事

です。そして、佐々部支部長の時に作成された提言書の中から二つ具現化へ向けた取り組みをしました。

一つは備北版の大学連携型CCRCで、地元行政、県立広島大学との協議、高知県への視察研修等を行いました。具現化は難しかったのですが、これを機に県立広島大学との連携は現在も続いています。

二つ目は備北地域のイメージアップ大作戦です。これは庄原商工会議所の協議会で取り組まれ、高野町出身の瀬尾公治先生、講談社のご理解の下、「瀬尾公治-君のいる町. Uターン庄原特別編」というマガジンポケットが完成しました。関係の皆様にお礼申し上げます。

支部のHP開設も実現し、色々な情報発信を繋げるツールになりました。また記憶に残っているのは備北都市懇話会の開催です。支部の総力を結集した行事で、県内の同友会の皆様に備北地域の歴史、産業、文化、そして食を堪能して頂いたのは喜びに堪えませんでした。経営者としてのスキルアップと色々な交流で人の輪も広がり充実した2年間を過ごす事が出来ました事にお礼申し上げます。

## 地元ツアーで魅力を再認識

山縣 隆 2020～21(令和2～3)年度



支部長就任が決定した直後に新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、就任挨拶をビデオメッセージで配信したことを今でも覚えています。

その後も例会や委員会などはWEBとのハイブリッドで開催し、懇親会は中止にすることが多かったと記憶しています。同友会活動の中で会食しながら懇親を深めることが一番の楽しみでありましたが、就任時期にそれが出来なかったことはとても残念でした。

こうした中、支部の研修旅行はマイクロツーリズムとして「備北エリアを巡るツアー」を2年連続で開催しました。支部の会員から地元はちょっと…という声もありましたが、意外と知らないことばかりで、三次、庄原の酒蔵とワイナリー巡り、平田観光農園でのダッチオープン体験、芸備線での車窓観光、西城川でのラフティング、君田温泉での神楽鑑賞などを満喫し、地域の魅力を改めて実感することが出来ました。

当時の広島経済同友会活動テーマ「広島という才能を、眠らせない」に沿って備北地域の才能の発掘を行い、新設HPを活用した積極的な情報発信が出来たと思います。今後もそれぞれの立場で地元を愛し、地域経済の下支えをし、魅力を発信する備北支部であり続けたいと思います。

## 新時代の備北観光を求めて

倉田 洋二 2022～23(令和4～5)年度



令和4年度から令和5年度にかけて備北支部長を務めさせていただいた期間は、多くの皆さまと対話を重ねながら、地域の魅力や課題に改めて向き合う時間となりました。

とりわけ、支部として「備北エリアの将来を考える提言書」を作成できたことは、大きな節目であり、活動の意義を形として残すことにつながったと感じています。

提言書の取りまとめに際しては、行政、観光団体、事業者、そして地域の皆さまから、それぞれの視点や想いを伺いながら、“今ある魅力をどのように伝えるか”“これから何を育てていくのか”という視点で議論を重ねました。コロナ禍という経験を経て、私たちは地域に根づく暮らしの豊かさや、自然とともにある価値にあらためて気づかされました。それらを一冊にまとめることができたことは、備北支部として次世代へ託す大切な財産になったように思います。

今後も地域の皆さまと歩みをともにしながら、備北の未来を少しずつ形にしていければ幸いです。

広島経済同友会の皆さま、そして備北支部の仲間の皆さまの温かいご支援とご協力のおかげで、支部長としての役目を終えることができました。この場をお借りし、心より御礼申し上げます。

## 広島中央支部

## 支部60周年に感慨ひとしお

増田 茂典 2024(令和6)年度～



70周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

私にとっては、一昨年(2024年)の備北支部60周年に支部長として立ち会えたこと

が、深い感慨として心に残っております。

備北支部は発足当初、三次支部として地域の発展を志し、その後2002年に三次・庄原という行政区の垣根を越えて改称し、広域的な視点で活動を進めながら絆を深めています。その歩みを支えてこられた先達のご尽力に、改めて敬意を抱く次第です。

昨今、少子高齢化が進む中、地域課題の解決には広域的な繋がりが欠かせないと痛感しています。行政枠を超えた備北支部の特徴を活かした活動が今後さらに重要になってくるのではないかと、この2年間の活動を通じて確信しているところです。

一方で、先輩諸氏が苦勞して築かれた三次、庄原両市の行政とDMO、備北支部の5者で構成される備北観光ネットワーク協議会が役割を終え解散することになったことには一抹の寂しさもあります。新たな枠組みを模索するも在任中に結論に至らず、次代へ委ねることは心残りでもありますが、その視察で尋ねた各先進地での学びを胸に、備北の地でも特色あるまちづくりが実現する未来を夢見つつ、次の代へ希望を託したいと思っております。

## 地域に根差して提言続ける

藤原 昭典 2011(平成23)年度～



広島経済同友会創立70周年、誠におめでとうございます。

私の同友会経歴は、通算で約22年になります。呉支部で2年、広島で2年、そして

広島中央支部で2回に分けて足かけ17年です。当支部も平成15年10月20日に設立して、早いもので22年が経過致しました。設立当時広島銀行西条支店長として関わって以来、随分古株になってしまいました。

この10年間には、大変残念なことです。平成30年7月の豪雨災害や、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生致しました。日々の通勤すらままならない状況や、感染リスクに怯えながらの毎日が続く中で、難しい同友会活動の展開は、今も鮮明に記憶に残っております。恐る恐る再開した酒まつりも、漸くフルスペックとなりました。

東広島市は広島大学、近畿大学、広島国際大学が所在する学園都市であるとともに、日本酒醸造業で栄えた酒都西条という顔も持つ地域であります。広島中央支部は、今後も地域に根差した経済団体として、地域の創生に係る提言を積極的に行うとともに、地元の大学や企業との連携に努めてまいります。今後とも、皆さまのご支援、ご指導、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

# 最近10年の同友会活動

2016(平成28)～2025(令和7)年度

新型コロナウイルス(COVID-19)によるパンデミックを機にテレワークが広がり、日々めざましい進化を続ける生成AIがさまざまな業務に欠かせないパートナーになってきた。こうした私たちの働き方ひとつをとっても、この10年間はまさに激動の時代だったと言えるだろう。地政学リスクが増大する世界情勢にあって、国内経済はこのところの賃金と物価の上昇により「失われた30年」のトンネルから脱したように見えるものの、人口減少と高齢化の加速に伴い、労働力不足がじわりと深刻化しつつある。足元では、広島市都心部で官民一体のまちづくりが進み、観光地はインバウンド客で賑わう一方、広島県は若者の流出という積年の課題を抱える。こうした状況のもと、私たち広島経済同友会は「提言」団体としての取り組みに加え、近年は「実践」団体としての自覚と行動を強めてきた。創立60周年以来のこの10年間(2016～25年度)の動きを振り返る。

## 【コロナ禍を乗り越え ニューノーマルへ】

### ●パンデミックは突然に

2019(令和元)年の大みそか、世界保健機関(WHO)が中国・武漢市で原因不明の肺炎患者が発生していることをキャッチする。それから瞬く間に新型コロナウイルスは世界を席卷し、WHOは翌2020年3月、「パンデミック」を宣言するに至った。



「3密」を避けるため、ホテルの広々とした会場で開かれた  
代表幹事・部会長・委員長・支部長会議(2020年6月4日)

感染源となった武漢市のほか、いち早く感染が広がった欧州でも、市街地を丸ごと封鎖する「ロックダウン」に踏み切る国が現われた。日本ではそこまでの強硬措置はなかったが、全国的な感染拡大を受けて政府は緊急事態宣言を発令し、外出を自粛して家庭で仕事や勉強をこなす「ステイホーム」が広がっていった。テレワー

クやオンライン授業が定着し、食事のデリバリーなど「巣ごもり消費」が一定にあったとはいえ、全体としては急激な需要縮小により、経済活動は「出口」が見えないままの停滞・縮小を余儀なくされた。

広島経済同友会も2020年3月以降、すべての会合や会議を原則中止または延期とし、この年の定時総会は書面議決に切り替えている。同年6月4日、幹事会に代え、より少人数の代表幹事・部会長・委員長・支部長会議を開いて「リアル会合」を再開したものの、感染状況を見ながら、まさに手探りで活動が続けていくことになる。

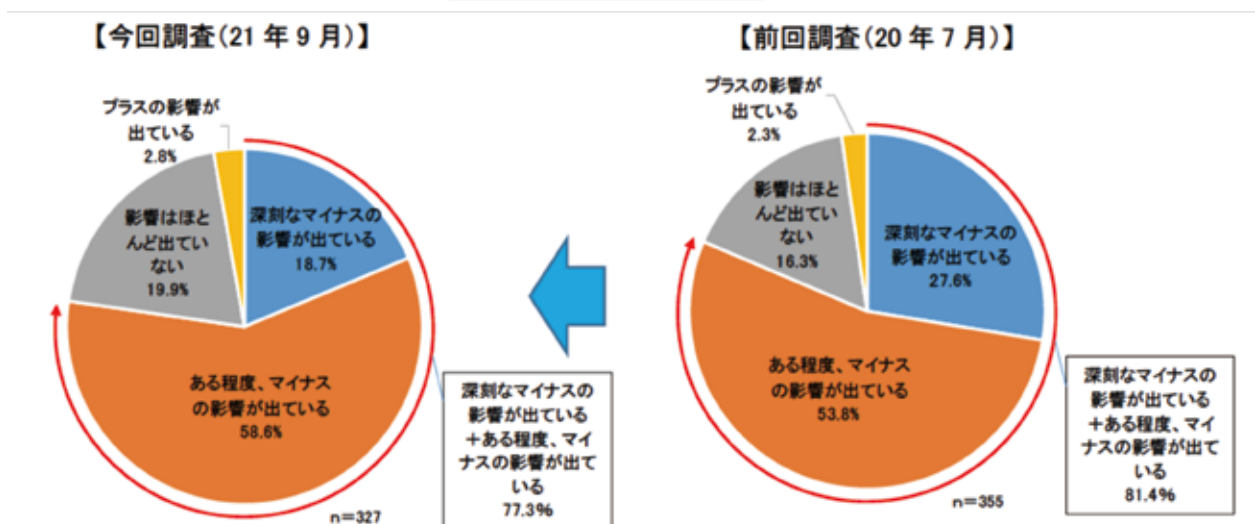
## ●「経営への悪影響」会員企業の8割

広島経済同友会は2020年7月と21年9月の2回、全会員企業を対象に、新型コロナが経営にもたらした影響についてアンケートした。その結果、「深刻なマイナス影響が出ている」と回答した企業は1回目調査が27.6%、2回目は18.7%とやや改善傾向が見られたものの、「ある程度マイナスの影響が出ている」は53.8%から58.6%へとむしろ増加した結果、合わせれば「全体の約8割にマイナス影響」という深刻な状況が続いていることが分かった。

2回目の調査では、「新常態（ニューノーマル）の対応として取り組む必要がある項目・課題」を尋ねている。回答数の多寡に優先順位を加味して評点化すると、①DX（デジタルトランスフォーメーション）の活用＝20点②カーボンニュートラル、SDGs等の環境問題への取り組み＝16点③コミュニケーションの活性化策＝12点④テレワーク・Web会議の導入と効率的な活用＝8点一の順になった。

また、BCP（事業継続計画）の作成状況を尋ねたところ、「作成している」51.5%、「作成していない」48.5%と、ほぼ拮抗する結果となった。とりわけ資本金10億円以上の企業の約9割が作成済みであるのに対し、1億円未満では約7割が未作成だった。

感染拡大による経営への影響



## ●ハイブリッド会合が定着



リアルとウェブ参加の「ハイブリッド方式」で開いた幹事会。「アフターコロナ」の現在も、この方式がすっかり定着している（2021年6月3日）

日々の感染者数が減ってくると、自粛ムードが緩んだり広域的な人の移動が増えたりする。そうするとまた感染者数の急増という「揺り戻し」がやってくる。そんな繰り返しが続いた。広島経済同友会も、「3密」を回避し、検温や手指消毒、マスク着用といった対策を取りつつ、感染状況にらみながら徐々に活動

のレベルを上げていく、という方針を取った。

とはいえ、会員同士がわいわいがやがやと意見を交わしてこそその同友会活動である。こうして「ウェブ」に活路を見いだす契機となったのが2020年10月の幹事会だった。リアルの出席は代表幹事らごく少人数に絞ったものの、オンラインでの視聴を含めると100人を超える参加者を得た。さらに、この幹事会では、広島本部だけでなく県内6支部にもウェブ会議に必要な機器を配備する「オール広島ウェブ会議ネットワークシステム」の構築とシステム導入経費の計上を決めている。

以来、各部会・委員会の会合や各種の行事も含め、リアルとウェブを組み合わせた「ハイブリッド方式」が定着していく。画面越しの会話という「もどかしさ」に加え、会話を弾ませる飲食が伴わないという「うらみ」があった一方、遠方からでも参加しやすいなどのメリットもあった。社内コミュニケーションに悩んでいた会員の中小企業からは「同友会の方式が大いに参考になった」との声が寄せられた。

粋な取り組みも行った。2021年4月の幹事会で披露されたのが、「リアル花見」代替りの動画『『オール広島』春のお花見メッセージリレー』。各支部の協力を得て、県内各地の桜の映像と代表幹事や各支部長の一言を組み合わせ、交流部会が制作した。

## ●「アフターコロナ」へ模索が続く

新型コロナウイルスはアルファ株、デルタ株、オミクロン株と次々に感染力を強めた変異株が現われ、その都度、感染者数が激増した。病床の逼迫が続き、「自宅療養」が増えると同時に、医療従事者や保健所職員の不足や疲弊が社会問題となった。保育所でクラスターが発生して休園になれば、親も仕事を休まざるを得ない。職場や家庭で「自粛疲れ」が広がっていく。

一方、ワクチンの接種が進むにつれ、重症化率の低下傾向が見られ始めた。感染対策を取りつつ社会経済活動を再開する「ウイズコロナ」や「アフターコロナ」がしきりに議論されるようになり、2023年5月、新型コロナはとうとう感染症法上の「5類」に移行し、季節性インフルエンザと同等の扱いになった。行動制限がなくなり、「フルスペック」のお祭りやイベントが再開され、地域に賑わいが戻ってきた。

提言団体であり交流団体でもある広島経済同友会の活動はこの間、例えば先進地視察ができない、飲食を伴う懇親会が開けないなどの大きな制約を受けた。とはいえ各委員会・部会さらに各支部は、ハイブリッド方式の会合を精力的に続けながら、「アフターコロナ」を意識した各種の提言を次々と発表していった。

### 「コロナ禍」略年表

【2019年】	アルファ株が拡大（第4波）、4都府県に3度目の緊急事態宣言
12月31日 WHOが中国・武漢市で原因不明の肺炎を確認	
【2020年】	5月 インドでデルタ株が猛威
1月 日本国内で最初の感染者（武漢から帰国の男性） 中国が武漢をロックダウン（都市封鎖） WHOが緊急事態宣言	広島県に緊急事態宣言発令（6月に解除）
2月 横浜港のダイヤモンド・プリンセス号で集団感染 安倍首相が全国の小中高校に一斉臨時休校を要請	6月 ワクチンの職域接種が本格スタート
3月 WHOがパンデミックを宣言 イベント自粛が広がる 東京五輪の延期決定 センバツ高校野球が戦後初めて中止に（夏も） 志村けんさん死去	7月 デルタ株拡大（第5波）、4度目の緊急事態宣言 東京五輪が無観客で開幕
4月 日本政府が7都府県に「緊急事態宣言」発出（後に全国に拡大） ステイホーム（外出自粛）、テレワーク広がる	8月 感染拡大により各地で病床逼迫
5月 緊急事態宣言が段階的に解除される 政府が「新しい生活様式」を発表（マスク着用など）	9月 全都道府県で緊急事態とまん防が解除される 経済活動再開
6月 経済活動再開 カーブなどプロ野球が無観客で開幕	10月 岸田文雄内閣が発足
7月 「Go Toトラベル」スタート	11月 国内でオミクロン株を初確認、全外国人の新規入国停止
8月 感染拡大（第2波）、お盆の帰省やイベント自粛	【2022年】
9月 感染減少	1月 オミクロン株が大流行（第6波）、学校などでクラスター多発 広島など「まん防」適用（3月に解除） 1日あたり新規感染者が初めて10万人を超える。医療逼迫
10月 「Go Toイート」本格開始 欧州で感染拡大、夜間外出禁止など	2月 ロシアがウクライナに侵攻。物流混乱、食品高騰など世界に影響
11月 第3波到来	3～4月 「まん防」全面解除。ワクチン3回目接種が本格化
12月 感染急増で「Go Toトラベル」全国停止	5月 3年ぶり「行動制限のないゴールデンウィーク」
【2021年】	7月 オミクロン株の亜系統（BA.5）による「第7波」 新規感染者が連日過去最高を更新、医療逼迫
1月 第3波拡大。11都府県に緊急事態宣言	8月 「行動制限を伴わないお盆」で帰省ラッシュ
2月 感染減少。医療従事者にワクチン接種開始	9月 感染拡大落ち着く。4回目接種が進む
3月 東京五輪の聖火リレーが福島県をスタート	10月 水際対策の大幅緩和で事実上の「開国」 「全国旅行支援」スタート
4月 大阪など「まん延防止等重点措置（まん防）」初適用、後に広島も 高齢者向けワクチン接種スタート	11～12月 感染再拡大
	【2023年】
	1～2月 「第8波」ピーク。クラスター多発、医療逼迫
	3月 マスク着用は「個人の判断」に
	5月8日 日本国内で「5類」感染症へ移行

## 【まちづくり】

### ●官民連携 楕円型の都心づくり



広島都心会議が紙屋町地下街シャレオのショールームで開いている交流イベント「都心横丁」(2025年10月29日、広島都心会議提供)

このところ広島市中心部で大型施設の建設や開業が相次ぐ。2024(令和6)年2月、市が事業主体として整備した“日本初のまちなかスタジアム”「エディオンピースウイング広島」が市中央公園にオープン。同年10月には市営基町駐車場などの跡地に地上31階建て高層再開発ビル

(後に「カミハチクロス」と命名)が着工した。2027年度に完成し、広島商工会議所やハイアットの“ラグジュアリー・ライフスタイルホテル”「アンダース広島」が入居する。

2025年3月にはJR広島駅南口の新駅ビルに商業施設「minamoa(ミナモア)」が誕生して賑わいを生み、同年8月には広島電鉄の「駅前大橋ルート」が乗り入れた。路面電車が高架で2階に乗り入れるのは日本初として話題を呼んだだけでなく、JR改札口と同じフロアで結ばれ、乗り換えの利便性が大いに高まった。

まさに、官民が連携して進める“楕円型の都心づくり”が新たなステージに入ったと言っていいだろう。そして、その“土台”となったのが、広島経済同友会の都市機能委員会が今からちょうど10年前の2016(平成28)年3月にまとめた提言「国際交流平和都市 新生“ひろしま”を目指して」だった。

それからの動きは、この『70年史』54、55ページに掲載した椋田昌夫まちづくり委員長による寄稿「広島都心部のまちづくりに思う」に詳しいので、続けて読んでいただきたい。

うれしいニュースが飛び込んできた。椋田氏が会長を務める官民連携組織「広島都心会議」がこのほど、第16回(2025年度)地域再生大賞の中国・四国ブロック賞に輝いたのである。全国の地方紙と共同通信社が主催して地域活性化団体を顕彰する制度で、選考委員からは「議論だけで終わらず、実効性を伴っているのが心強い」と評価されたという。

### ●6支部結集 ド真ん中祭り

都市機能委員会と広島地域活性化委員会を統合して発足したまちづくり委員会は2023年3月、「オール広島で『元気なまち“ひろしま”』を作るための3つの提言」をまとめた。広島市中心部だけでなく中山間地域をはじめ県内全域が連携して魅力向上を図るための具体策を提示しており、同友会本部と県内6支部が結集して先導役を果たそうとの心意気を「オール広島」

の言葉に込めた。

これを受けた実践活動として始めたのが、広島都心会議との共催イベント「ひろしまド真ん中祭り」である。これまでに2023年12月と24年9月の2回、ひろしまゲートパーク（広島市中区）で開催。このうち2回目では6支部から合わせて約30事業者が出店したほか、神楽



賑わった2回目のひろしまド真ん中祭り（2024年9月28日）

の公演、三原やっさ踊り、三次どんちゃんの披露などもあり、2日間で約3万2000人が訪れた。26年3月にも3回目を計画し、インバウンド客も楽しめるイベントとして定着しつつある。

## ●西日本豪雨の復旧・復興へ緊急提言

2018年7月、梅雨前線が西日本付近に停滞し、湿った空気が大量に流れ込んだため各地で長時間にわたる豪雨となり、広島、岡山、愛媛を中心に、河川の氾濫、浸水、土石流、ため池の決壊など甚大な被害が出た。西日本豪雨（平成30年7月豪雨）である。

まちづくり委員会は、当面の復旧・復興だけでなく、地域コミュニティの維持が防災面からも重要などとする緊急提言を豪雨3カ月後の同年10月にまとめ、広島県などに提出した。

提言のうち中長期の対応では、風化花崗岩「まさ土」が多い広島県の地質の特徴を踏まえ、大学や研究機関による徹底的な調査研究を防災計画や都市計画にフィードバックするよう求めたほか、平常時には住民のコミュニケーションの場となり、非常時には避難場所となる「防災的に優れたコミュニティ兼避難施設」の整備を提言した。その上で、まちづくりの観点から「コミュニティの復興を集約型都市構造（コンパクトシティ）へと誘導していくことは有意義だと考える」と結んでいる。

### 私と広島経済同友会



椋田 昌夫  
まちづくり委員長

まちづくり委員会は、広島を元なまちにしていくために「都心部と中山間地域をつなぐ」という視点で活動を行っています。

広島には食や歴史・文化等、多くの素晴らしい資源があるにも関わらず、それらが知られていない点が課題だと感じています。その中で、同友会の多様な委員会や支部と連携し、「ここにしかない、食や文化等の地域の魅力」を都心部の整備された空間で発信する「ひろしまド真ん中祭り」を実施してきました。私自身も、この事業を通じて、多くの素敵な財産があることに改めて気づかされました。引き続き、広島の魅力を知っていただく機会を創っていくとともに、今後は、各地域に足を運び取り組みも推進していきたいと思っております。

# 「広島都心部のまちづくりに思う」

椋田 昌夫

広島経済同友会まちづくり委員長 広島都心会議会長 広島電鉄(株)代表取締役会長

「広島は魅力的なまちづくりを行っていらっしゃいますね」。

最近、こういったお声を多くいただくようになりました。

確かに、この10年の広島都心部のまちづくりを振り返ると、建物の老朽化が同時期に進んでいる影響もあり、各所で再開発が計画・実行されてきました。そしてハード・ソフトともに官民の関係者が連携しながら実施している全国的にも珍しいケースが多く、冒頭のようなお声をいただくようになったのだと思っています。

ただ、こうした動きは以前からあったものではなく、むしろ官民は一枚岩とは言いにくい関係でした。民間は「まちづくりは行政がやるもの」、一方で行政は「民間は文句は言うが何もしない」と、お互いが不満を言い合っていたように思います。

官民連携の契機は、2016年に広島経済同友会の都市機能委員会が提言書「国際交流平和都市新生"ひろしま"を目指して」を提出されたことだと思います。この提言書は「産官学民が一体となって継続的なまちづくりを議論・推進できる新たな仕組み・体制づくり」の必要性が記された、まさに官民連携の体制構築のきっかけとなるものでした。そして翌2017年には広島県・広島市が「ひろしま都心活性化プラン」を策定されました。当プランは、広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を東西の核とする「楕円形の都心」と位置づけ、その目指す姿と具体的な施策が記載されています。

その頃、私の中で忘れられない出来事があります。ある会合で、当時の池田代表幹事、田村まちづくり委員長とまちづくりについて意見交換をする機会がありました。その場でも、はじめは「行政は何もしてくれない」という話をしていましたが、次第に「将来に禍根を残さないためには、全て行政頼みではなく、民間も動かないといけない」という話になっていきました。声の大きな3人です。気づけば周りには誰もいなくなり、「では、我々でできることからやろう」となりました。そして、広島県・広島市にもお声がけをして、官民連携のまちづくりに向けた勉強会が開催



紙屋町・八丁堀地区再開発のシンボルとして建設中の高層ビル「カミハチクロス」と、JR西日本の新型車両デザインをラッピングした広電の路面電車（2026年1月21日、広島電鉄提供）

されるようになったのです。

また、この頃からハード整備についても、行政の施設を民間企業が管理・運営する「Park-PFI」を活用した整備が行われるようになりました。「ひろしまゲートパーク」や「ひろしまスタジアムパーク」「広島城三の丸整備事業」はこの制度を活用して整備されました。さらに2024年には日本初のまちなかスタジアム「エディオンピースウイング広島」が整備され、



整備中の「駅前大橋ルート」から新広島駅ビル2階部分に乗り入れた広電の試運転車両。地上には営業運転中の車両が見える（2025年6月27日、広島電鉄提供）

2025年には新広島駅ビル「minamoa」の開業、そして広島電鉄の「駅前大橋ルート」が開業しました。これら相次ぐ再開発の背景には、2020年に紙屋町・八丁堀地区や広島駅周辺地区を含む「広島都心地域」の一部が「特定都市再生緊急整備地域」に指定されたことも大きかったと思います。

そして、整備された空間の活用方法についても、官民で考え、実行する動きが起こり始めています。現在の都心部には、地域のまちづくりを推進するエリアマネジメント団体が数多く組成されています。また2021年には、都市機能委員会の提言をきっかけとした官民連携のまちづくり組織「広島都心会議」が産声を上げました。

都心会議は、ひろしま都心活性化プランをベースに、都心部の目指すべきビジョンを作成するとともに、その実現に向けた取り組みを推進しています。都心会議の設立により、官民の協力体制がいっそう強化され、都心全体の横断的な取り組みが推進されるようになりました。2024年に始まった「CITY SCAPE!」は、エリアマネジメント団体等が個別に開いていたイベントや社会実験を同じ日に開催することで都心に新たな賑わいを生んでいますし、「クリスマスマーケット」は同じ目的のイベントを異なる主体が様々な場所で開催することで、こちらは連続した賑わいを生んでいます。さらに広島経済同友会はその「支部制」を活かし、都心部の整備された場所を使って県内各地の魅力を発信する「ひろしまド真ん中祭り」を行っています。

このように、お互いの顔が見える関係性ができ始めています。さて、これからが本番です。今後、商工会議所の移転や本通りの再開発等、多くのプロジェクトが動き出します。これまで培ってきた関係性を活かし、官民が一枚岩となって広島らしい魅力あるまちづくりを行っていかれるのが次の10年の鍵となるでしょう。まちが元気で活力があることは、各企業の活性化にもつながります。都市機能委員会の提言にある「50年後も輝き続ける広島」を実現するために、引き続きオール広島で、ハード・ソフトともに魅力的なまちの姿を描いていきたいと思ひます。

## 【ひとづくり】

### ●広島県の転出超過は全国最多 若い女性が目立つ

総務省の住民基本台帳人口移動報告によると、2025（令和7）年の広島県の転出超過（転出者数－転入者数）は9,921人で、5年連続して全国最多だった。国内移動に限った統計であり、国外からの転入と国外への転出は含まない。このため、外国人の技能実習生の入国と県外転出が多い広島県の実態を正確に表していない、という指摘もあるが、進学や就職などを機に若者が県外へ出て行く状況は確かに続いている。

ひろぎんホールディングスの『経済産業 Report』（2025年2月4日号）が、2024年データの分析結果を紹介している。それによると、この年の広島県の転出超過は1万711人で、うち日本人は7,218人。中でも20～34歳に限ると女性は2,480人、同じく男性は2,225人だった。すなわち、日本人の社会減の約3分の2を若い世代が占めていることになる。

とりわけ若い女性の転出が広がれば、ひいては出生数が少なくなり、人口減少ペースが加速する可能性があるとして、ひろぎんのレポートは「住みよく魅力あふれる『街づくり』はもちろんのこと、若い世代がやりがいを感じ活躍できる『仕事づくり』を全県的に進めていくことが必要です」としている。

2025年11月に就任した横田美香知事は、当会の創立70周年記念式典での来賓挨拶でも「若者の流出」を県政の課題に挙げ、対策を急ぐ考えを示した。

【補足説明】広島県は、技能実習生を受け入れる監理団体が他の都道府県に比べて多いため、海外から広島に入国（転入）して研修を受けた後に全国へ移動（転出）する技能実習生が多いとされる。この場合、統計上は転出だけがカウントされることになる。

### ●県内3大学と連携 県内就職へ意見交換会

広島経済同友会は、こうした県内若年層の「社会減」に早くから危機感を抱き、対策の一つとして県内の大学との連携を進めてきた。

2015（平成27）年に広島修道大学と包括連携協定を締結したのに続き、この10年間ではまず2017年8月、広島女学院大学と「包括的連携協力に関する協定書」を交わした。それぞれ

#### 私と広島経済同友会



崔 希美  
ダイバーシティ委員長

女性経営者として現場に立ち続ける中で、社会の仕組みや価値観の中にある小さな違和感と、大きな可能性を感じてきました。

入会后、ダイバーシティ委員会の委員として参加し、副委員長を経て現在委員長を務める今、広島の現状を丁寧に見つめ、多様な立場の声を拾い上げ、実行性のある提言へとつなげる役割に責任と誇りを感じています。

この土地に根ざした多様性が、企業の成長と人の幸せを同時に育てる力になると信じ、仲間とともに一歩ずつ未来を形にしていきます。

女性の視点だからこそ見える課題と希望を、広島から発信して参ります。



広島県内5大学の学生や教職員を招き、県内就職について語り合った意見交換会（2022年12月6日）

れの人的資源を有効活用し、地域経済の活性化と人材育成に資することを目的とし、具体的には①女性のキャリア育成②地域活性化③人的交流の推進④女学院大の人材育成への提言—などについて連携・協力することとした。続いて2020年5月、広島工業大学と同様の協定を結んだ。

協定締結を受け、ダイバーシティ委員会がすぐさま動いた。同年10月、協定相手である広島修道、広島女学院、広島工業の3大学からそれぞれ4年生2～3人と就職

活動支援担当の教職員を招いて意見交換会を開いた。学生たちは、オンライン面接などコロナ禍での就活のメリットやデメリットについて話したほか、企業に対して「もっと柔軟な働き方ができる企業であってほしい」「女性のキャリアアップのサポートを」などと要望した。

さらに2022年12月には、連携協定の3大学に県立広島大学、広島経済大学を加えた5大学から学生やキャリア支援担当の教職員を招き、「大学生の県内就職を図る上での課題と方策」についての意見交換会を開いた。大学側からは「県内就職を増やすには、まず県内からの入学者を増やすことが重要」「選考の初期から学生を育てるような感覚で手厚くフォローしてくれると、その企業への好感度が高まる」などの声があった。

## ●新入社員パワーアップ研修 内容一新

提言・交流団体である広島経済同友会のもう一つの顔は「実践」団体。これを象徴する活動と言えば、まずは毎年恒例の新入社員パワーアップ研修であろう。第1回を2009年6月に国立江田島青少年交流の家（江田島市）で開いて以来、とりわけ中小規模の会員企業の人材育成の場として定着した。同友会活動の柱の一つ「ひとづくり」の一環であり、広い意味では若者の流出対策としての意義も認められるだろう。

### 私と広島経済同友会



富山 次朗  
ひとづくり委員長

ひとづくり委員会の主要な活動のひとつが「新入社員パワーアップ研修」である。2009年の初開催以来、受講生は約1,400名を数え、現在では募集開始から数分で定員が埋まるほど人気の研修となった。

現在ではオンラインと集合参加を組み合わせた5日間のハイブリッド形式だが、コロナ禍以前は会員も研修生も2泊3日を共にする、まさに手作りで汗をかく運営であった。時代の変化に応じて形式や手法は柔軟に進化していくべきだが、その一方で、人づくりの根幹にある想いや、人と人が本気で向き合う姿勢、広島経済同友会ならではの研修プログラムは手放してはならないのではないかと。「何を変え、何を守るべきか」を問い続けながら次の世代へと繋いでいきたい。

江田島での研修は2泊3日の合宿方式である。海上カッター訓練や、会員企業の経営者らと交えた少人数での車座談義が定番メニューで、チームワークの大切さを体で覚えたり、異業種の大先輩の話を直接聞いたりしてきた。

ところが、コロナ禍が研修内容を一変させた。12回目の予定だった2020年は中止に。翌2021年はウェブを主会場とし、半年かけて延べ4日間の研修をこなす分散日程で7月にスタート。恒例の車座談義だけでもリアルでの開催を見込んだが、感染拡大のため、やむなく翌年3月、オンラインで画面越しに語らった。

ところが、このインターバルを置く日程が「学んだことを実践するには都合がよい」と評判を呼んだ。こうして現在では日程を1日増やし「オンライン研修2日、集合研修3日」を間隔を置いて開く方式としている。2026年度の参加申し込みをネット上で募ったところ、75人の定員枠がわずか3分48秒で埋まった。



研修を締めくくる恒例の車座談義。コロナ禍ではウェブ方式だったが、膝をつき合わせての対面方式が復活した。正面右は小田宏史代表幹事（2025年3月14日）

## ●夏季セミナー コロナ禍も継続

人材育成は新入社員パワーアップ研修だけとは限らない。会員を対象とした当会恒例の夏季セミナーはコロナ禍も休むことなく続けた。

この10年間の講師は、佐々木隆之せとうち観光推進機構会長（2016年）▽木川真ヤマトホールディングス会長（2017年）▽松本晃 RIZAP グループ COO・カルビーシニアチェアマン（2018年）▽竹元正美・元東宮侍従で元ホンジュラス・ウルグアイ大使（2019年）▽白川貴久子 NTT ドコモ執行役員中国支社長（2020年）▽作家の見延典子氏（2021年）▽村木

### 私と広島経済同友会



佐々木孝富

ウェルビーイング推進委員長

広島におけるウェルビーイングの増進をコンセプトに活動する委員会として、県民の暮らしやすさや幸福度の向上に資する調査・研究に取り組んでいる。一般的な指標にとどまることなく、歴史や文化、風土に根差した「広島ならではの幸福感」を捉え直し、その価値を社会に提示していくことが重要といえる。

同友会は「人との縁」の尊さを実感する場であり、異業種の方々との率直な議論や経験の共有が新たな視座をもたらしてきた。活動に携わる中で、地域貢献とは企業活動の延長にとどまらず、人と人、企業と地域を結び、共に価値を創造していく営みであると確信している。ウェルビーイングの視点を軸に、持続可能な広島の未来づくりに寄与していきたい。



コロナ禍も休むことなく続けた恒例の夏季セミナー（2025年8月5日）

茂クリーン燃料アンモニア協会会長（2022年）▽竹林栄治広島経済大学教授（2023年）▽越智幸紀四季（劇団四季）取締役専務執行役員（2024年）▽白井浩一郎サクラオブルワリーアンドディスティラリー代表取締役社長（2025年）—の皆さん。各回とも講演要旨は『広島経済同友会会報』（PDF・月刊）に掲載し、当会ホームページにアップしている。

また2020年度は、リアルでは集まりにくいコロナ禍だからこそその工夫を凝らした講座が目立った。ひとつづくり委員会は県立広島大学大学院経営管理研究科と共催して「価値創造セミナー」を開催。時代の変化に着目して「デジタルシフト」「デザインシフト」「ローカルシフト」をテーマとし、東京から講師がリモート講演するなどして3回連続の講座とした。

さらに、ダイバーシティ委員会は「女性と上司の関係性を高める自分発見セミナー」と銘打ち、前後編2回の講座と、その合間に受講者がそれぞれの所属企業でワークショップを開くというユニークな形式のセミナーを2021年1～3月に開いている。

## ●海外経済視察 10年間で延べ15カ国・地域を訪問

一方、海外経済視察はコロナ禍のため中断を余儀なくされた2020～22年の3年間を除き、計7回実施し、アジアと欧米の延べ15カ国・地域を訪問した。詳細な報告書（PDF）は当会ホームページに掲載してある。また、この『70年史』でも82ページから、視察団ごとの団員リポート（ダイジェスト）を紹介している。

### 私と広島経済同友会



山本慶一郎  
国際委員長

同友会は多様な個人とつながれる「窓」のようなもの。貢献や忠誠を求められるロータリーとは若干異なり、緩やかな連帯感の中で友情を深められる機能を有するありがたい存在だ。そうした組織で2019年から国際委員長を務めている。コロナ禍の前後、時の代表幹事や委員たちと試行錯誤しながら視察先を定め、様々な国々を訪れた。オアフコースの海外拠点があるマレーシア、中国の威圧に揺れる台湾、私自身の思い出の地ニューヨーク、広大な草原が広がるモンゴル…。その時々国際政治をにらみながら、団員の刺激になるようなプログラム作りに苦心している。この先もアンテナを張り巡らせながら、最適な視察先探しに力を尽くしていきたい。

## 【ものづくり・しごとづくり】

### ●ものづくり実践塾 脈々と10年目へ

「安芸十り」と書いて「あきてんり」または「あきじゅうり」と読むそうだ。マサカリ、ハリ、キリ、イカリ、ノコギリ、クサリ、ヤスリ、カミソリ、オモリ、チキリの鉄製品10種(※)を指し、江戸時代に安芸の地で盛んに作られていたという。そうした「ものづくり」の伝統が、呉の軍需産業を経て、戦後の機械や自動車工業、造船業、食品工業などの隆盛へとつながり、広島発展を支えてきた。



ファン付き作業服を試着するものづくり委員会のメンバー  
(2025年11月7日)

この歴史を踏まえ、広島経済同友会ものづくり委員会は2017(平成29)年に「ものづくりで輝く広島」を目指して発足。その創設期から「ものづくりはひとつづくり」として、製造業の経営者や生産現場の実務担当者を対象に研修を始め、コロナ禍でも途切れることなく、現在に至るまで地道に脈々と活動を続けている。

当初2コースでスタートした研修は、2025(令和7)年には「現場マネジメント実践塾」「デジタルものづくり塾」「現場デジタル活用実践塾」の3講座で計14コースにまで拡充し、合わせて55社の90人が、社会のメガトレンドを反映した先端技術などを学んでいる。

委員会発足以来の一貫した目標は、ものづくりに携わる人と人、あるいは企業と企業がつながることにより、あたかも一つの共同体のような「広島ものづくりネットワーク」を構築すること。最近では生命保険会社といった非製造業からの参加もあり「ものづくりの視点を営業部門に応用し成果を生んでいる」との感想も聞かれるという。

※「安芸十り」には、ツリバリ、ヤリ、モリを含むなど諸説あります。

### ●後継者不在率 全国平均より高く

帝国データバンクの2025年の調査によると、事業承継の実態が分析可能な広島県内の企業

#### 私と広島経済同友会



宮脇 克典  
ものづくり委員長

委員長就任以来、「ものづくりはひとつづくり」の理念のもと、ものづくりで広島を元気にすることを目指して活動しています。

会員同士の連携を深めるために、シーズとニーズのマッチングイベントやコミュニケーションの促進に注力しています。また、「ひとつづくり」のためには、実践塾を開催し、ものづくりで培ってきたマネジメント手法や効率化手法を製造業種のみならず、営業やサービス等の他業種の皆様にも学んでいただけるよう工夫・拡充し、広島発のひとつづくりの輪を広げているところです。

私もこれらの活動を通じて多くの学びを得ており、今後も「ものづくり」、「ひとつづくり」の輪を広げながら、ものづくり委員会をさらに盛り上げて参ります。

6767社（個人を含む）のうち、後継者が「いない」または「決まっていない」のが3920社を占め、後継者不在率は57.9%に上る。調査を開始した2014年の75.2%に比べれば年々低下傾向にあるものの、全国平均の50.1%を7.8ポイント上回り、都道府県別では全国11番目の高水準という。

広島経済同友会は2019年度に事業承継委員会を新設し、この問題への本格対応に乗り出した。誰が受け継ぐかによって課題や対応策は異なるため、承継先を「親族内」「役員・従業員」「第三者」の3通りに分けて検討し、2021年3月に提言「中小企業の円滑な事業承継に向けて」を発表。さらにコロナ禍の影響を踏まえ、2023年3月には続編「中小企業の円滑な事業承継に向けて～アフターコロナの事業承継～」をまとめている。

## ●学生たちの起業マインドを醸成

創業支援委員会は、事業承継委員会より2年早い2017年に発足。まずは広島県内、広島市、東広島市、福山市の4エリアを対象に、創業支援の「第一ステップ」となる提言を2019年にまとめた。

すぐさま、提言を実現するための実践活動を矢継ぎ早に展開していく。広島大学や広島工業大学と共同で、大学の研究テーマや大学発ベンチャーを広くPRするイベントを開いたり、広島修道大学で起業マインド醸成のための学生向けワークショップを開催したりした。さらに、広島大学の学生たちが起業アイデアを競う「ビジネスコンテスト」の開催を重ねた。



広島大学の学生が起業アイデアを競った「起業マインド醸成に向けたビジネスコンテスト」（2021年12月6日）

## ●2委員会を統合「しごとづくり」へ再始動

創業支援委員会と事業承継委員会は2023年度に統合し、創業支援・事業承継委員会として再スタートを切った。両者に共通するテーマを「しごとづくり」とし、地域連携▽支援体制▽人材確保一の3テーマを深掘りする活動を続けている。

### 私と広島経済同友会



今村 徹

創業支援・事業承継委員長

2024年4月に委員長に就任しましたが、当委員会はその1年前に創業支援委員会と事業承継委員会が統合した組織で、当初はその相関性がなかなかイメージ出来ず、運営には戸惑う面がありました。

そして共通テーマを「広島での仕事づくりとその活性化」と設定し活動を続けて参りました。地域の事業承継や創業は、「経営者（ヒト）の確保」だけでなく、「周辺のサポート」や「地域の魅力や情熱」が必要であり、引いては広島の出超問題にも大きく関係する意義深いテーマです。地域課題先進国である日本の問題にもアプローチ出来る本テーマに取り組むことにより、広島の問題だけでなく魅力にも気付かされる貴重な経験になっております。

## 【文化振興】

### ●ひろしま神楽の振興策を提言

郷土に伝わる伝統文化・芸能が戦火、とりわけ原爆によっていったん途切れた広島にあって、広島経済同友会は古くから経済だけでなく文化振興にも取り組んできた。

この10年間の文化振興委員会の活動テーマを代表するのが「神楽」で



安芸高田市の神楽門前湯治村を訪れ、神楽を觀賞する文化振興委メンバー（2018年9月23日）

ある。専門家の講話で歴史や現状を学び、芸北神楽の本場で実際に觀賞を重ねた後、2019（平成31）年3月、提言『『ひろしま神楽』を活用した“まち”の賑わいの創出について』をまとめた。ひろしま神楽情報センターや振興基金（いずれも仮称）の設立などが提言の柱で、実際に寄付金を募って支援活動に乗り出そうとしたところでコロナ禍に見舞われた。やむなく事業を縮小し、ホームページの開設などを手がけた。

委員会は現在、「城と城下町」をメインテーマに活動している。

### ●茶道と絵画と音楽と ぜいたくな夏季例会

地元の洗練された文化を会員に存分に堪能してもらうのが、夏恒例のイベント、夏季例会である。広島市西区の上田流和風堂か、中区のひろしま美術館を毎年交互に訪ねる。

上田流和風堂では、戦国武将で茶人の上田宗箇が興した武家茶道「上田宗箇流」の上田宗岡家元や上田宗篁若宗匠から茶の湯の歴史や茶室の展開、和風堂建造の経緯などについての講話を聞き、茶席に臨む。さらに季節の彩り豊かな点心を味わう。

ひろしま美術館では、ゴッホやピカソなど名作コレクションを鑑賞した後、ホールに集まって広島交響楽団メンバーによる弦楽四重奏を優雅に楽しむ。最後は中庭でガーデンパーティーという、こちらも至れり尽くせりの夕べとなっている。

#### 私と広島経済同友会



田中 竜二  
文化振興委員長

交代会員として入会1年後に委員長を拝命しました。

いま全国的にも歴史的建造物をはじめとする日本の歴史・文化が、観光コンテンツとして重要な役割を果たしています。そこで当委員会でも、広島市の歴史・文化を活用するための検証テーマを「城と城下町」としました。広島城を中心とするまちづくりでは、歴史的文化財などの保存や活用により価値の向上を促すことで、インバウンドによるさらなる経済効果が期待されます。特に「城」は、観光政策において重要なテーマとなります。広島経済同友会の活動を行う中で私自身、新たな発見と感動が多くありました。引き続き、広島の発展につながる歴史・文化コンテンツの開発・推進に取り組んでまいります。

## 【創立70周年 3度目の全国セミナー開催】

### ●「進歩的経済人」42人で70年前に発足

広島経済同友会は70年前の1956（昭和31）年3月17日、広島市内で創立総会を開いた。翌日の中国新聞はこう伝える。「広島県一円の進歩的な経済人で構成、全国の同友会と緊密な提携を行いながら経済問題に関する調査、研究や経済政策に関する審議、立案、建議、また講演会、研究会などの事業を行い、同時に会員相互の啓発親善を図ろうというもので、事務局は広島商議所内に置かれる」

当初42人の会員でこぢんまりとスタートしたのが、今や900人弱を擁し、全国44の経済同友会のうち、トップクラスの規模を誇るまでに成長、発展した。

### ●全国セミナー参加者1300人

2019（平成31）年1月の幹事会で、冒頭挨拶をしていた池田晃治代表幹事が急に話題を切り替えた。「ここで私から提案がある。それは全国経済同友会セミナーの広島開催をそろそろ考えてもいいのではないかということ。時期の設定などはこれからだが、一つの目安として、戦後そして被爆から80年となり、大阪万博開催で盛り上がっている2025年がどうかと思っている」



その言葉通りに2025（令和7）年 約1300人が集まった全国セミナー（2025年4月17日）

4月17、18の両日、全国から約1300人の参加者を得て「第37回全国経済同友会セミナー広島大会」の開催にこぎつけた。広島での全国セミナー開催は1996年、2006年に次いで3回目となった。

#### 私と広島経済同友会



小川 裕子  
総務部会長

2025年4月に全国経済同友会セミナー広島大会を開催しました。各会員が自社の強みを生かし、妥協なく準備に取り組んだことで、総合テーマである「50年後も輝き続ける『まち』であるために～平和の地から未来を見据えて～」への議論が深まり、全国から参加された皆さまにご満足いただけたものと思っております。開催地への立候補表明以降、歴代代表幹事をはじめ会員一人ひとりの思いが結集した大会となりました。

肩書を越えたフラットな関係性が広島経済同友会の強みであり、忌憚なく意見を交わし多様な視点に触れることが出来る当会は、私にとって学びの場ともなっています。

## 【観光振興・オール広島】

### ●宮島訪問税の実現を「後押し」

広島ブランド委員会は2019（平成31）年3月、提言「広島エリアにおける周遊型インバウンド観光振興の未来戦略」を発表した。今日のインバウンド客の急増を見越した内容で、「インバウンド観光振興は本格的な人口減少社会を迎える広島エリアの地域創生の柱」と位置付け、「高水準の『コネクト』『キャッシュレス』『オンデマンド』サービスが提供される『旅のインターネット～IOT（Internet of Travel）』環境の早期実現を図る」とうたっている。

具体的な提案のうち特筆すべきは「広島市で宿泊税を、廿日市市で宮島入島税を導入してインバウンド観光振興の安定財源を確保」と明記している点だろう。

この提言は、ほぼ20年越しで検討と断念を繰り返してきた廿日市市を「後押し」したとされ、2023（令和5）年10月から宮島訪問税（フェリーで島に入る訪問者から1回100円を徴収）が導入された。

さらに宿泊税についても、広島県が2026年4月から導入することになった。広島市に限らず、県内全域で1泊6000円以上の宿泊客から200円を徴収する。初年度は15億7600万円の税収を見込んでいるという。

広島ブランド委員会は2023年度から観光振興委員会へと名称変更した。現在は「MICE」についての調査研究を進めている。

### ●「オール広島」6支部つなぎ連携・交流

広島経済同友会には、呉、三原、尾道、福山、備北、広島中央の6支部がある。全国に44ある経済同友会の中でも明確な支部制を取っているのは極めて珍しいとされる。県内各地にそれぞれ特徴ある産業が存在し、競い合うかのように発展してきた地域性のゆえんであろう。約900人いる同友会の会員数の半数以上は支部に属している。

そうした6支部を含めて県内全体をつなぐ言葉「オール広島」が初めて使われたのは、ちょうど10年前の2016年8月に広島市内で初めて開いた「オール広島支部交流会」。6支部長に

#### 私と広島経済同友会



福谷 伸爾  
観光振興委員長

令和7年7月に広島経済同友会に入会し、活動期間が1年にも満たない私が、70周年を迎えた広島経済同友会について述べるのは恐れ多いことでございます。このような私ですが、この短い時間においても多くの方々との交流する機会をいただき、たくさんの出会いがあった広島経済同友会には感謝しかありません。こうした交流の機会を通じて、自分自身の足らざる点を見つめ直し、視野を拓けることにつながっていることは、年齢にかかわらず人は成長できるものであると実感しています。現在は観光振興委員会の委員長を務めておりますが、70年の歴史を継承しつつ、将来にわたって広島の活性化に寄与できるよう、現職を全うしたいと考えています。

よるパネルディスカッションがあり、組織の垣根を低くして一体感を醸成する方策について意見交換した。

以来、この交流会はコロナ禍の時期を除いて毎年開き、連携を深めてきた。それとともに「オール広島」という合言葉も、この10年間ですっかり定着したと言っていいだろう。

各支部はそれぞれ独自の目標や事業計画を定め、活発な活動を続けている。代表的なイベント「都市懇話会」は、呉と広島中央の2支部、三原と尾道と福山の備後3支部がそれぞれ輪番で、さらに備北支部は単独で毎年開いている。備北支部は単独と言ってもそもそも行政の垣根を超えた組織であり、懇話会は三次、庄原両市で交互に開く。

それぞれ自治体との距離が“近い”だけあって、まさに地域密着型の提言活動を続けていることも、支部制ならではのと言えるだろう。



海上自衛隊呉地方総監部を訪れた呉・広島中央都市懇話会 (2023年2月6日)



サイクルシップ・ラズリのデッキから瀬戸内の景観を楽しんだ備後都市懇話会 (2023年10月12日)



備北支部60周年記念の備北都市懇話会で地元出身のシンガー・ソングライター仲街よみさんと熱唱する出席者 (2024年11月5日)



広島市中区のおりづるタワーで記念写真に収まるオール広島支部交流会の参加者 (2025年9月5日)

### 私と広島経済同友会



川妻 利絵  
交流部会長

交流部会では、広島経済同友会の部会・委員会・支部会を横軸・縦軸でつなげるための交流・親睦を図る活動を行ってきました。会員相互の交流を深め続けてきた結果、多くの会員が入会し、活発な活動を通して大きな事業や提言を出してきました。また今年度は他地区の経済同友会との交流や他県から来られた支店長のために、戦後80年広島の復興を遂げてきたこのまちを知っていただく企画を行い、広島が『50年後も輝き続ける「まち」であるために』持続可能なまち、平和の尊さを共有していただき、広島らしい食べ物とお酒、そして会員の最高のおもてなしでお迎えることができました。これからも交流・親睦のため、おもてなしと企画を出し続けて参ります。

## 最近10年の提言・報告

2016年6月	企業見学会報告	産業・技術委員会
2016年10月	多様な食資源を活用した広島エリアのブランド化の推進について	地域経済委員会
2016年12月	カナダ・アメリカ経済視察団報告書	国際委員会
2017年2月	新入社員パワーアップ研修報告書	ひとづくり委員会
2017年3月	人口回復に向けた広島経済同友会の取り組み	人口回復委員会
2017年3月	中山間地域の活性化方策に関する報告書	広島地域活性化委員会
2017年3月	オンリーワン・ナンバーワン企業見学会記録集[2013年～2017年]	産業・技術委員会
2017年4月	食文化についての考察、郷土広島の味の発掘と伝承について	文化振興委員会
2017年4月	バックパッカーから見た広島 ～ゲストハウスへのアンケート調査から探る広島の可能性と課題～	観光振興委員会
2018年2月	新入社員パワーアップ研修報告書	ひとづくり委員会
2018年2月	ミャンマー・カンボジア経済視察団報告書	国際委員会
2018年3月	宮島における外国人観光客の「おもてなし」環境整備に向けた緊急提言	広島ブランド委員会
2018年10月	西日本豪雨災害に係る緊急提言	まちづくり委員会
2019年2月	欧州経済視察団報告書	国際委員会
2019年3月	新入社員パワーアップ研修報告書	ひとづくり委員会
2019年3月	「ひろしま神楽」を活用した“まち”のにぎわいの創出について	文化振興委員会
2019年3月	少子高齢化対策委員会活動報告書	少子高齢化対策委員会
2019年3月	広島エリアにおける周遊型インバウンド観光振興の未来戦略	広島ブランド委員会
2019年3月	創業支援に関する報告書（提言） ～地方発ベンチャー創出に向けて～	創業支援委員会
2019年3月	『輝くものづくりを極め続ける広島』を目指して	ものづくり委員会
2020年3月	マレーシア・インドネシア経済視察団報告書	国際委員会
2020年3月	伝統産業を活用した広島エリアのブランド化の推進に関する調査報告書	広島ブランド委員会
2020年9月	新型コロナウイルスの感染影響に関するアンケート調査結果報告書	総務部会
2021年3月	『輝くものづくりを極め続ける広島』を目指して ～コロナ禍を受けての展開～	ものづくり委員会

2021年3月	創業支援に関する活動報告書	創業支援委員会
2021年3月	中小企業の円滑な事業承継に向けて	事業承継委員会
2021年3月	令和元年度・2年度活動報告書	文化振興委員会
2021年10月	新型コロナウイルスの感染影響（新常態移行）に関するアンケート調査結果報告書	新常態移行委員会
2021年10月	提言「ふくやまスポーツパーク」実現に向けて ～日本一、スポーツに親しめるまちを目指して～	福山支部
2022年3月	「ポストコロナの新常態を踏まえた広島エリアにおけるIoT/AI時代の次世代型観光に向けた取り組みの推進」調査報告書	広島ブランド委員会
2023年3月	『輝くものづくりを極め続ける広島』を目指して ～新時代への適応と持続的な発展を目指して～	ものづくり委員会
2023年3月	創業支援に関する活動報告書	創業支援委員会
2023年3月	中小企業の円滑な事業承継に向けて ～アフターコロナの事業承継～	事業承継委員会
2023年3月	オール広島で「元気なまち“ひろしま”」を作るための3つの提言	まちづくり委員会
2023年3月	新常態移行委員会 活動報告書	新常態移行委員会
2023年3月	官民連携による三原活性化に向けたスクラムと方策 ～三原を、より元気なまちとするために～	三原支部
2023年3月	提言書 尾道みらいビジョン 2023	尾道支部
2023年3月	備北エリア（三次市・庄原市）提言書 2022	備北支部
2023年12月	会員所属企業の地震対策に関するアンケート 2023年調査結果	新常態適応委員会
2024年3月	台湾・ベトナム経済視察団報告書	国際委員会
2024年3月	広島エリアにおける観光資源を活用した中山間地域の活性化に資する取り組み	観光振興委員会
2025年3月	米国（ニューヨーク）経済視察団報告書	国際委員会
2025年3月	活動報告書 ～広島におけるしごとづくりの促進に向けて～	創業支援・事業承継委員会
2025年3月	オール広島で「元気なまち“ひろしま”」を実現するための具体的方策	まちづくり委員会
2025年3月	活動報告書「城と城下町①」	文化振興委員会
2026年3月	深圳（中国）・ウランバートル（モンゴル）経済視察団報告書	国際委員会

広島経済同友会のホームページに PDF ファイルを載せています。

<https://www.hirodoyu.com/archives/proposal.html>



# オール広島で「元気なまち“ひろしま”」を作るための3つの提言

まちづくり委員会

2023(令和5)年3月

広島市中心部のまちづくりの動きを追うとともに、経済同友会各支部のヒアリングを通じて広島県内各地の現状と課題を把握。「都心部」と「中山間地域」が連携して魅力向上を図るための具体策について、①組織の一元化②情報の一元化③コンテンツのブラッシュアップの3点を提言した。



このうち「コンテンツのブラッシュアップ」の具体案は以下の通り。

- ・まちなか神楽
- ・ひろしま市場
- ・地域の困りごとと解決策を引き合わせる「マッチングサイト」
- ・ワーケーション推進月間の制定
- ・「ALL Hiroshima キッズニア」と「大人の社会見学」
- ・学校間による地域間交流のカリキュラムへの組み込み
- ・熱量のある人が登録（一元化）されたプラットフォーム
- ・マルシェの自走化に向けた支援

**プレイヤー・企業・まちづくり組織・行政等の連携による『共創』が必要！**

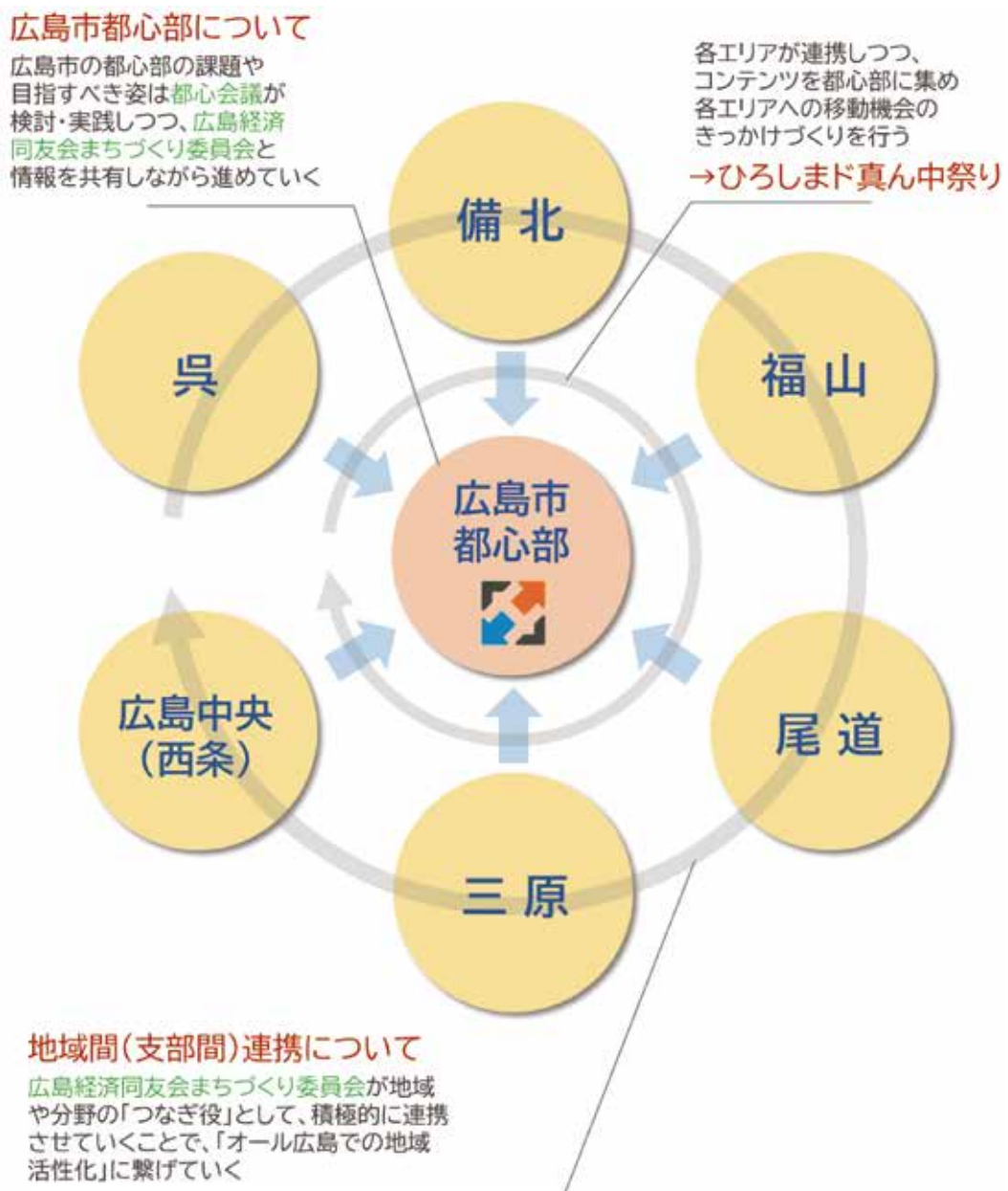
## オール広島で「元気なまち“ひろしま”」を実現するための具体的方策

まちづくり委員会

2025(令和7)年3月

2023年3月の提言を踏まえた実践活動として2023年12月と2024年9月の2回、広島市内で「ひろしまド真ん中祭り」を開催した。出店事業者や来場者アンケートを通じて課題を探った上で、前回の提言で掲げた「組織の一元化」「情報の一元化」「コンテンツのブラッシュアップ」をさらに深掘りし、実現に向けた具体的方策を示した。主な内容は次の通り。

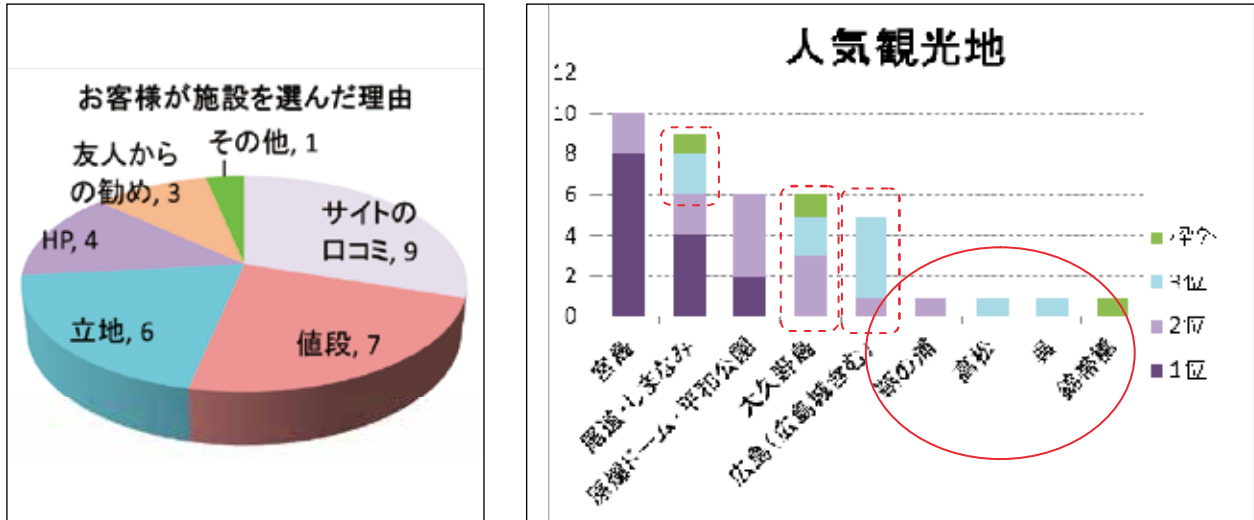
- ・ **ひろしま市場**・・・まずは広島市内に生鮮食品が楽しめる常設の市場をつくる
- ・ **マルシェの自走化**・・・イベントー同士の横のつながりを構築していく
- ・ **情報の一元化**・・・乱立するプラットフォームを統一化するための課題解決を図る



# バックパッカーから見た広島

～ゲストハウスへのアンケート調査から探る広島の可能性と課題～

広島県内のゲストハウス 21 施設を対象にアンケートし、14 施設から回答を得た。



主な提言は以下の通り。

- ・旅館業（簡易宿所）許可取得施設の組織化、または経済団体による認定
- ・公共交通機関の多言語対応、分かりやすい行先案内
- ・広域連携による体験型観光モデルコースやガイドの充実
- ・地域の魅力を案内できる案内人の育成

## 宮島における外国人観光客の「おもてなし」環境整備に向けた緊急提言

外国人観光客の急増を受け、以下の4項目を提言した。

### ① 混雑緩和に向けた対応

- ・時間的ピークシフト～来島時間の多様化  
「夜の宮島」イベント実施／フェリー運航時間延長／「宮島の宿泊」魅力充実
- ・時期的ピークシフト～来島時期の平準化  
オフシーズンの魅力PR／平日割引やオフシーズン割引
- ・空間的ピークシフト～島内移動範囲の拡大・分散化  
町家通りや自然散策道による参拝経路複線化／弥山や包ヶ浦など周遊促進

### ② 外国人観光客向け「おもてなし」機能の強化・拡充

- ・来島前の観光情報発信、「おもてなし」拠点施設の整備

### ③ 他の瀬戸内海地域の有力観光地との連携強化

- ・広域的な航路ネットワークの拡充

### ④ 環境負荷の少ないエコアイランドの実現

- ・生態系の保全や環境負荷の低減に繋がる全島的な取り組み

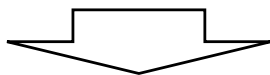
## 広島エリアにおける周遊型インバウンド観光振興の未来戦略

広島ブランド委員会

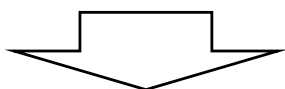
2019(平成31)年3月

未来戦略の実現に向けた「プラットフォーム」

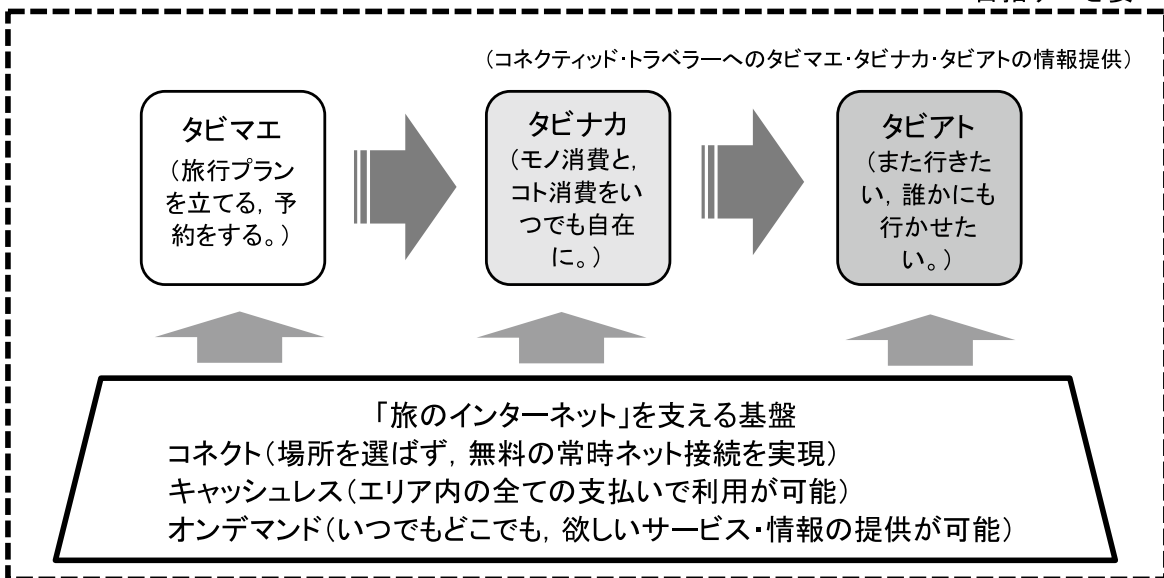
インバウンド観光サービスの IT イノベーションを広島から起こし、すべての外国人旅行者がインターネットで地域と結ばれた「コネクティッド・トラベラー」となり、自由自在に周遊・滞在型観光を楽しめる「旅のインターネット～IOT(Internet of Travel)」エリアを実現する。



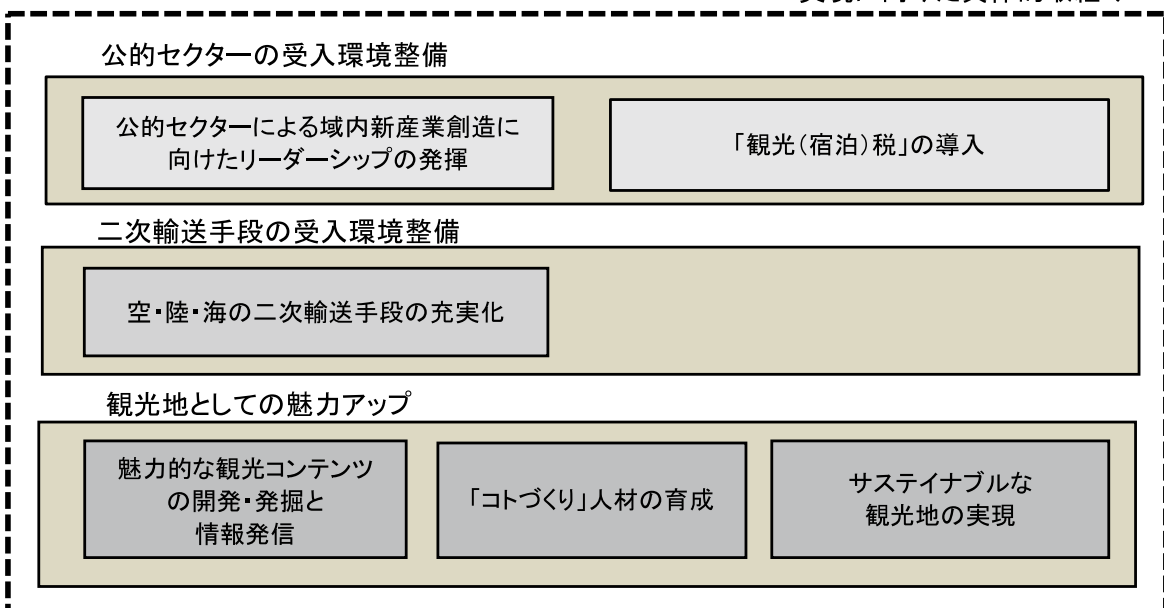
国内最高の「旅のインターネット～IOT」環境が整備された「インバウンド観光のドリームランド」を目指す。



目指すべき姿



実現に向けた具体的取組み



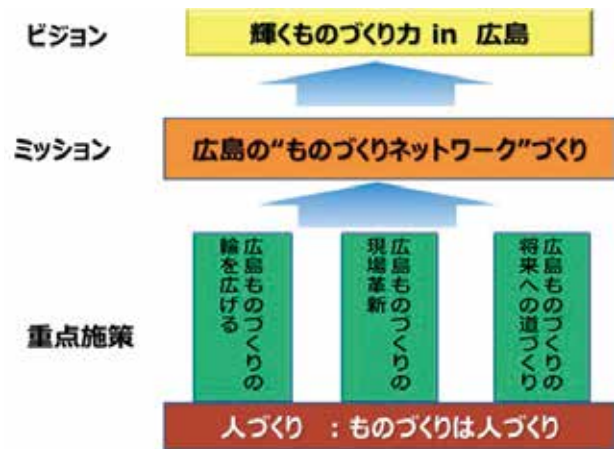
## 『輝くものづくりを極め続ける広島』を目指して

ものづくり委員会

2019(平成31)年3月

ものづくりについての「ビジョン」「ミッション」「重点施策」を定めたうえで、以下の3コースを中心に実践研修を推進した。

- ・ものづくり現場革新カレッジ
- ・デジタルものづくり塾
- ・ものづくり現場力実践交流会



## 『輝くものづくりを極め続ける広島』を目指して～コロナ禍を受けての展開～

ものづくり委員会

2021(令和3)年3月

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、すべての研修活動をリモート方式に切り替えて開催した。その結果、それまで参加を見合わせていたという遠隔地からの参加があったほか、他の参加者に対する講師の指導が Web で共有されて参考になった、などの思わぬ「効果」があった。

## 『輝くものづくりを極め続ける広島』を目指して ～新時代への適応と持続的な発展を目指して～

ものづくり委員会

2023(令和5)年3月

ものづくり現場革新カレッジなどを継続し、さらに社会のメガトレンドに合わせ、現場で活用できるDX（デジタルトランスフォーメーション）を学ぶコースを新規に開講した。



ものづくりに係るすべての企業が、未来に向かって「輝く技術力」・「輝く現場力」・「輝く技術・技能者」を高め受け継いで行き『ものづくりで輝く広島』を創る

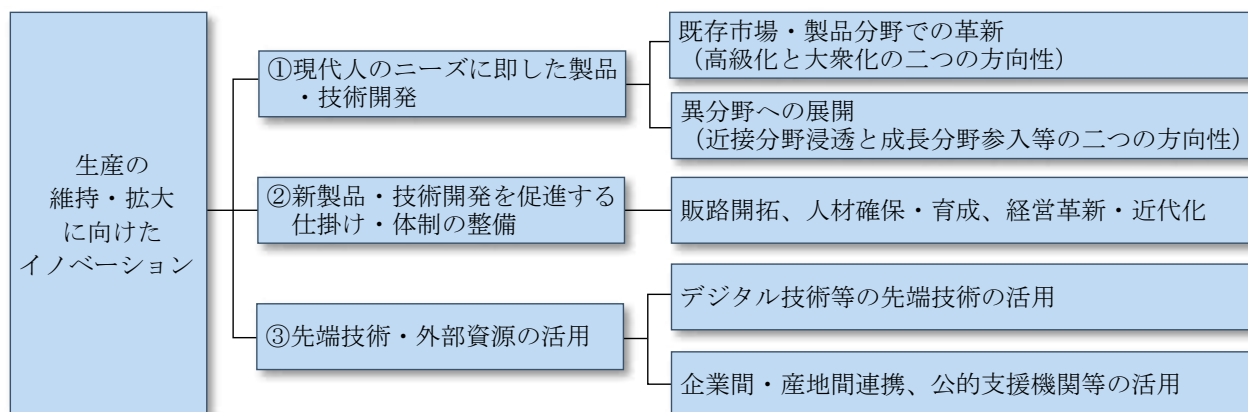
"広島ものづくりNetwork"を作り、成長させ、相互研鑽できるものづくり環境をつくる

# 伝統産業を活用した広島エリアのブランド化の推進に関する調査報告書

広島ブランド委員会

2020(令和2)年3月

## 広島エリアにおける伝統産業の対応の方向性



伝統産業の振興に取り組む全国各地の先進地を視察した上で、広島エリアの伝統産業が今後取り組むべき方向性について、以下の3点を提言した。

1. 現代人のニーズに即した製品・技術開発
2. 新製品・技術開発を促進する仕掛け・体制の整備
3. 先端技術・外部資源の活用

業種	No	名称	業種	No	名称	業種	No	名称
食品飲料	1	広島海苔(仮)	木製品	13	府中突板(仮)	鉄・金属	24	軋鉄鋼
	2	草津蒲鉾(仮)		14	宮島細工*		25	可部鋳物(仮)
	3	尾道蒲鉾(仮)		15	戸河内刳物*		26	仁方やすり
	4	広島菜漬		16	戸河内挽物*		27	銅蟲*
	5	府中味噌		17	松永下駄		その他	28
	6	広島醤油(仮)		18	福山木製家具(仮)	29		福山琴*
	7	広島ふりかけ(仮)		19	府中家具	30		三次人形*
	8	広島酒		20	広島仏壇*	31		熊野筆*
	9	保命酒		21	安芸木製製品(仮)	32		川尻筆*
繊維	10	備後織物	和紙焼物	22	大竹和紙	33		一国斎高盛絵*
	11	備後被服(仮)		23	宮島焼*	34		びんご畳表
	12	備後緋*						

(注) 1. 伝統工業品(軽工業品)を対象とし近代工業品(重工業品)を除く(具体的には、①伝統的工芸品(国)、②伝統的工芸品(県)、③産地概況調査対象産地、④地域団体商標(鉱工業品)、⑤地域産業資源(鉱工業品)を活用した認定事業計画、⑥(公財)中国地域創造研究センター「地域産業発展史-広島県編-」(2018年)掲載産業を抽出)  
 2. 名称に※を付したものは国・県指定の伝統的工芸品、(仮)を付したものは組合名や所在地等をもとに任意に設定  
 資料: 各種資料

## 多様な食資源を活用した広島エリアのブランド化の推進について

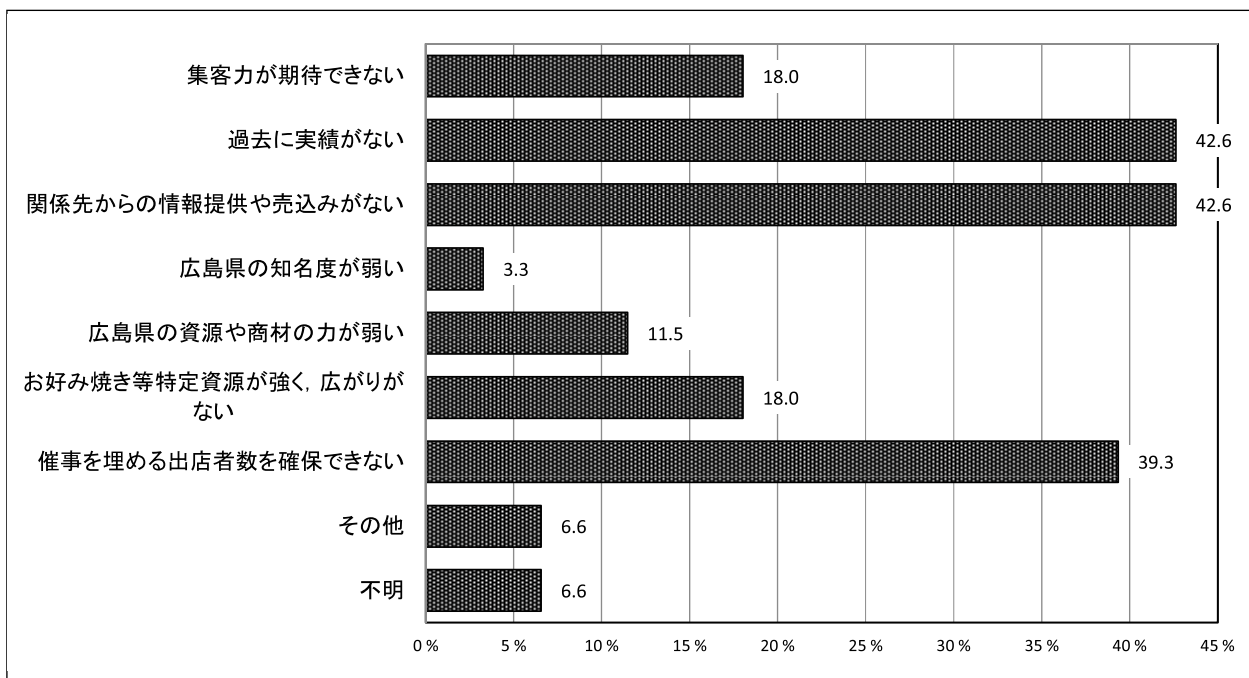
地域経済委員会

2016(平成28)年10月

広島の食資源のイメージは「牡蠣」「お好み焼き」「もみじ饅頭」の3本柱が突出している。これに次ぐ食資源を発掘し、広がりや厚みを持たせようと以下の3点を提言した。

1. 「しまなみシトラス」「やまなみバイオフード」をキャッチ・コピーとする  
地域性豊かな商品の開発とパッケージ化
2. 広島の旨いもの出前隊（仮称）による地域内外でのPR
3. 「広島ブランド」開発推進センター（仮称）の立ち上げ

### 広島県の物産展が開催されない理由（全国百貨店アンケートから）



## 食文化についての考察、郷土広島の味の発掘と伝承について

文化振興委員会

2017(平成29)年4月

郷土広島の味（料理）を伝えていくため、以下の4項目を提言した。

1. 広島の郷土料理にスポットを当てた冊子（読み物）の定期的な作成・公表
2. 小学生を対象とした「味覚の授業」の展開
3. 広島ならではの食材とそれを提供できる生産者等を評価する仕組みづくり
4. 食文化継承に向けた活動を行う個人・団体間の連携を促す仕組みづくり

## 人口回復に向けた広島経済同友会の取り組み

人口回復委員会

2017(平成29)年3月

以下の具体的な取り組みを推進した。

- ① **U I J ターン定住対策**・・・広島県と連携し就職マッチング支援
- ② **若者定住対策**・・・同友会会員企業紹介サイト（メッシュヒロシマ）開設  
広島修道大学との包括的連携協定に基づく事業展開  
（長期インターンシップ等）
- ③ **結婚・子育て支援対策**・・・ひろしま出会いサポートセンターへの参画  
イクボス普及啓発活動（セミナーの開催）  
事業所内託児所の開設の推進

### 定住対策に向けた広島県と広島経済同友会の連携イメージ



少子高齢化対策委員会 活動報告書

2019(平成31)年3月

前身の人口回復委員会が取り組んできたU I J ターン定住対策、若者流出防止対策を継続して実施した。さらに結婚・子育て支援対策に焦点を当てた検討も踏まえ、産学官による新たな取り組みに向けた7項目の提言をとりまとめた。

1. 官民連携による少子化対策の深化
2. 科学的根拠に基づく少子化対策の推進
3. 産学官連携による若年層の地域定着
4. 異業種交流を通じた婚活の促進
5. 子育て支援メニューの認知度向上
6. 地域および企業版ネウボラの普及支援
7. 妊娠・出産等に関する支援メニューの充実

# 中山間地域の活性化方策に関する報告書

広島地域活性化委員会 2017(平成29)年3月

①しごと②ひと③まち(づくり)一の3分野で中山間地域の活性化方策を考察し、合わせて14項目の提言をまとめた。主なものは以下の通り。

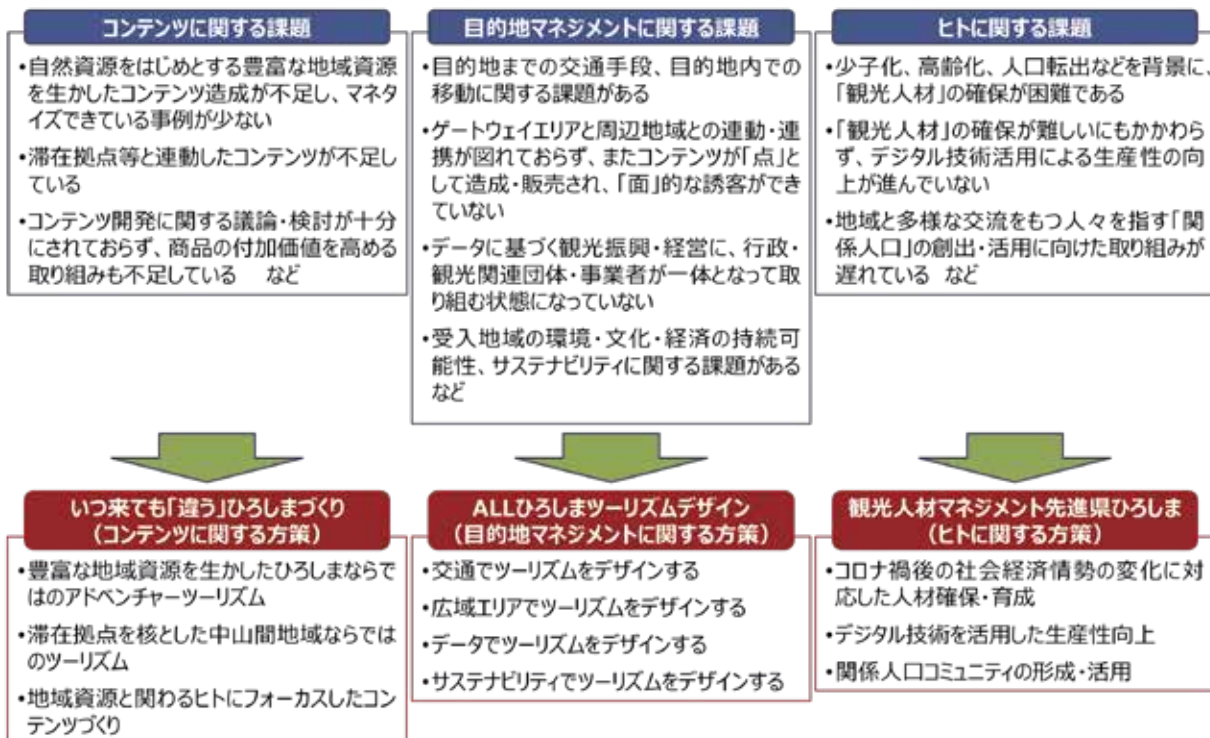
- ・ビジネス機会の創出による起業家支援
- ・農産物の販路拡大のためのネットワーク構築
- ・農産物の加工・6次産業化による高付加価値化
- ・SNSなどを活用した情報発信と観光振興
- ・起業家間のネットワークづくり
- ・JAや生産法人などの支援による農業の若い担い手の育成
- ・地域リーダーの育成
- ・行政のまちづくりに広島経済同友会会員の経験やノウハウを活用
- ・農業体験・民泊などを通じた都市との交流拡大、定住促進
- ・空き家のリノベーションによる面的な付加価値向上

## 広島エリアにおける観光資源を活用した中山間地域の活性化に資する取り組み

観光振興委員会 2024(令和6)年3月

滞在型観光が増加する「ポストコロナ」の傾向を受け、中山間地域の観光資源を活用する方策をまとめた。

### 広島エリアにおける観光資源を活用した中山間地域の活性化に向けた方策



## 「ひろしま神楽」を活用した“まち”のにぎわいの創出について

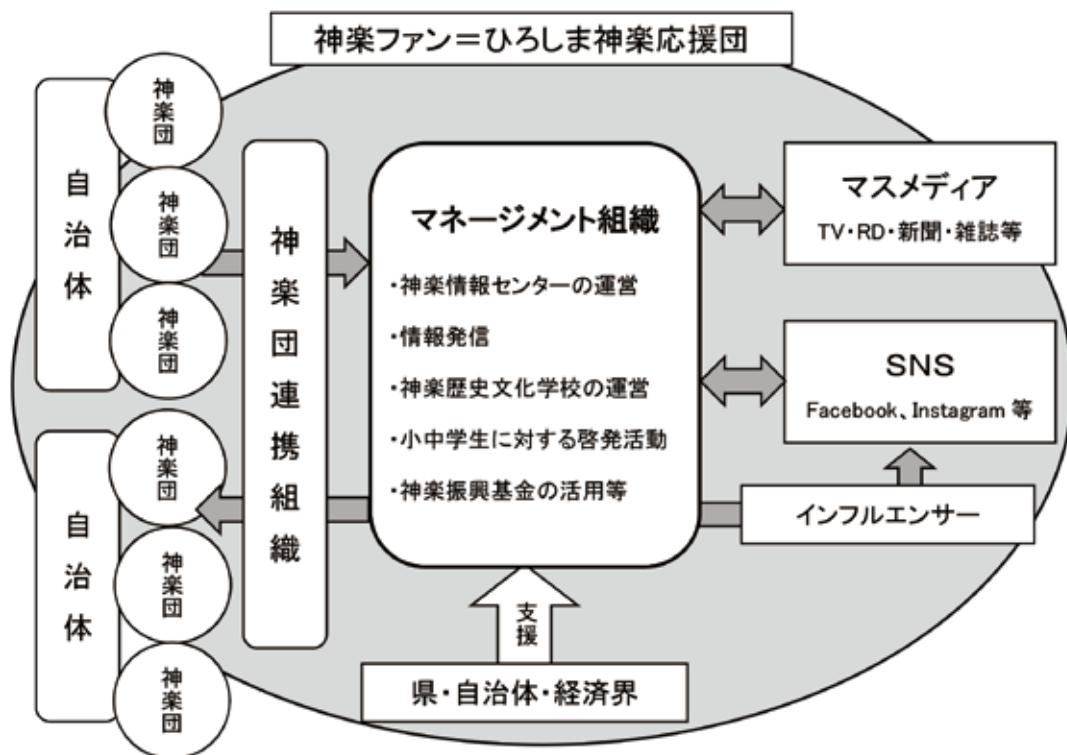
文化振興委員会

2019(平成31)年3月

広島県が誇る伝統芸能である神楽を通じてにぎわいを創出していく方策を、①差異化②持続可能性③経済効果—のそれぞれの視点から提言した。主なものは以下の通り。

- ・ひろしま神楽情報センター（仮称）の開設
- ・「ひろしま神楽応援団」の形成
- ・「神楽歴史文化学校（仮称）」の開校
- ・新たな神楽ファンの獲得
- ・神楽団員との親睦の場の提供
- ・神楽に特化したマネジメント組織の立ち上げ
- ・一貫性のある戦略的な広報の展開
- ・「ひろしま神楽振興基金（仮称）」の創設
- ・県内神楽団の連携強化
- ・飲食店とのタイアップ
- ・芸北地方等への鑑賞ツアーの仕組み構築

### 施策の全体イメージ



文化振興委員会活動報告書

2021(令和3)年3月

上記提言の実現方策を探るため、2019年7月、文化振興委員会内に神楽小委員会を立ち上げ、同年11月には「ひろしま神楽振興支援事業」として寄付金の募集を始めた結果、209万円余の賛同を得た。さらに、この寄付金を活用して諸事業を展開する実行委員会を設け、シンポジウムや勉強会なども計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、やむなく事業を縮小。公益財団法人ひろしま文化振興財団のホームページ内に「ひろしま神楽振興支援事業」の専用ページを開設したほか、神楽関係者を対象とした感染拡大防止対策ガイドライン講習会を開催するなどの事業を行った。

## 創業支援に関する報告書(提言) ～地方発ベンチャー創出に向けて～

創業支援委員会

2019(平成31)年3月

創業支援の「第一ステップ」の提言として、広島県内、広島市、東広島市、福山市の4エリアを対象に、それぞれ4項目にまとめた。広島県内向けは以下の通り。

1. 県内各市町と広島県の連携
2. スタートアップや起業を目指す人が利用する施設の集約
3. 創業経験者が創業者を支援する仕組みづくり
4. 大学発ベンチャー創出に向けた産学官連携

### 創業支援の方向性



創業支援委員会活動報告書

2021(令和3)年3月

2019年度は、経済同友会会員を対象にメンターとして協力する意向などをアンケートしたほか、広島大学と共同でPRイベントを開催し、広島修道大学ではワークショップを開いた。2020年度は新型コロナ対応として広島大学や広島工業大学でのイベントを会場と参加者をオンラインで結ぶハイブリッド方式で開催した。

創業支援委員会活動報告書

2023(令和5)年3月

2021、22年度も引き続き「起業マインド醸成のためのビジネスコンテスト」の開催を重ねたほか、広島工業大学や広島修道大学でトークイベントなどを行った。

## 中小企業の円滑な事業承継に向けて

事業承継委員会

2021(令和3)年3月

事業承継の三つの方法である「親族内承継」「役員・従業員承継」「第三者承継」ごとに、それぞれの課題を綿密に洗い出した上で、きめ細かい提言をまとめた。

このうち、親族内承継についての提言は以下の通り。

### ① 後継者の税負担（事業承継税制）

- ・複雑な適用要件の簡素化
- ・3年に1度という管理負担が重い報告義務の見直し
- ・打切り事由に一度該当しても警告および是正期間を設けるルール作り
- ・上記以外にも顧問税理士の負担を軽減するような仕組みの見直し
- ・制度適用後、廃業回避を目的とした第三者あて株式譲渡を選択した場合の免除条件の緩和

### ② 後継者の経営能力

- ・経営者と後継者が企業の強み弱みを共有し理解した上で、後継者が身につけるべき能力を互いに理解すること
- ・早期の準備を促すセミナーやきっかけ作り

## 中小企業の円滑な事業承継に向けて ～アフターコロナの事業承継～

事業承継委員会

2023(令和5)年3月

コロナ禍による事業承継への影響には、①事業承継時期の後ろ倒し②黒字廃業の増加－といった特徴がみられるとした。その上で、中小企業の貴重な経営資源が散逸することを回避し、早期の事業承継により生産性を向上し、アフターコロナの新常態に適応しつつ更なる成長を遂げるため、「事業承継全般～イノベーション」「大中規模の企業～PMI」「小規模企業～M&Aの効率化」の三章に分けて、それぞれの課題と対応策をまとめた。

## 活動報告書 ～広島におけるしごとづくりの促進に向けて～

創業支援・事業承継委員会

2025(令和7)年3月

それまでの創業支援と事業承継の両委員会が統合し、2023(令和5)年4月に新委員会として発足。創業と承継の共通点である「しごとづくり」をテーマに、先進地(福岡市)視察などを踏まえ、①スタートアップ実績・開業率の低迷②事業承継型創業の低迷－の2点について、それぞれの要因をさまざまな角度から分析した。

# 「ふくやまスポーツパーク」実現に向けて

福山支部

2021(令和3)年10月

福山市を流れる芦田川沿いの競馬場跡地に2019年、エフピコアリーナふくやまが完成した。このアリーナに隣接する下流側の未利用地一帯を「ふくやまスポーツパーク(FSP)」として整備するよう、福山市に向けて提言した。

FSPは、ナイター設備を有する2万人収容の人工芝球場でイベント広場も兼ねたベースボールフィールド▽クラブハウス▽サッカーや陸上競技に使う多目的フィールド(運動広場)▽芦田川に親しむ新かわまち広場-で構成。防災拠点としての活用も想定し、官民が連携して実現を目指そう、とした。



クラブハウス

施設利用者だけでなく、市民ランナーや水上スポーツなど周辺の屋外空間を自由に活用した人たちが気軽に使えるロッカーやシャワーを備えます。情報提供、ミーティングに加え、軽食やビールを楽しんだり、ちょっとしたパーティーを開いたりする場を想定しています。



ベースボールフィールド(イベント広場)

ナイター設備を有する2万人収容の人工芝球場。プロ野球開催も可能。備後エリアの代表を決める会場に位置付け、地元アスリートのあこがれの存在になる施設を目指します。コンサートなどの大規模イベントにも活用します。

## 官民連携による三原活性化に向けたスクラムと方策

三原支部

2023(令和5)年3月

三原市中心部の将来像を「誰もが“働くこと・住むこと・楽しむこと”に満足できる一親水空間を活用した三原中心部」とし、エリア別の活性化イメージを以下のように位置付けた。

- ① 駅北エリア = 歴史・文化の魅力ゾーン
- ② キオラスクエア・内港エリア = 賑わい交流ゾーン
- ③ 円一町(公共施設集客)エリア = 生活サポート商業ゾーン

実現に向けては、ビジョンや情報の共有をはじめとする官民の連携のほか、広島県全体が元気になるよう垣根を越えた地域外との連携を提唱した。



[出典] <https://mihara-city.note.jp/n/n5f73e768288b>

図 広域アクセスに恵まれた都市・三原

## 提言書 尾道みらいビジョン 2023

尾道支部

2023(令和5)年3月

「国際的な観光都市として、また、サステナブルな芸術文化都市として、尾道にしかできない持続的発展を目指す(一部抜粋)」とのビジョンに基づき、まちづくり、観光、産業、教育、地域連携の各分野で合わせて23項目の提言をまとめた。

具体的には「(千光寺山)ロープウエーのデザイン変更」「しまなみ海道を日本のウェルネスツーリズムの聖地にする」「向島の高見山に世界的な建築家による展望台を作る」「世界的なラグジュアリーホテルを尾道から瀬戸田の間を作る」「広島空港とのアクセスを何としても改善する」「尾道市立大学に観光・ホテル学科を作る」などを盛り込んだ。



## 備北エリア(三次市・庄原市)提言書 2022

備北支部

2023(令和5)年3月

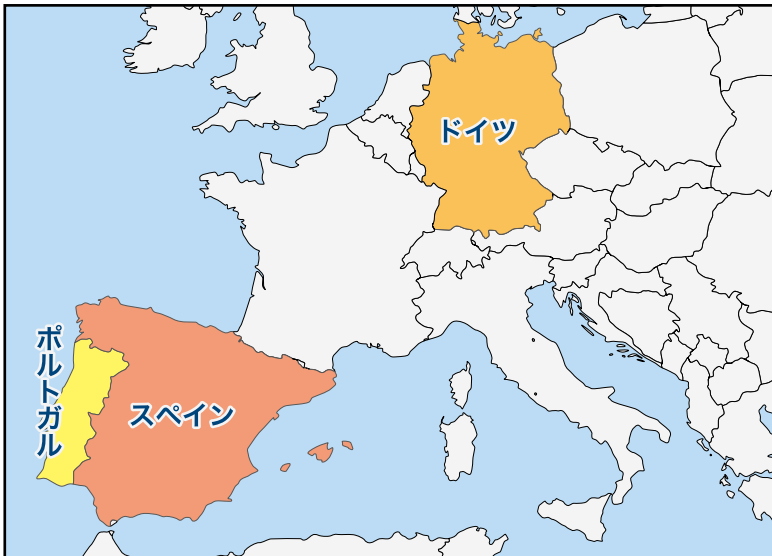
ポストコロナのインバウンド需要拡大を見越し、備北エリアが一体として取り組む観光振興戦略として、以下のような検討項目ごとに具体的な「アクションアイテム」を提言した。

- ・ M a a S (マース) 構築の模索
- ・ 自然資源を活用した体験型観光の推進
- ・ 「広島三次ワイナリー」「国営備北丘陵公園」の集客力アップと連携の仕組み
- ・ 観光消費に結びつく「厚いおもてなし」の提供

また、こうした施策を実行に移すには、行政区域の垣根を越えた「備北版まちづくり会社」の創設検討が必要とし、そのための協議を呼び掛けた。



# 最近10年の海外経済視察



欧州(ドイツ、ポルトガル、  
スペイン、アラブ首長国連邦)  
(2018年10月)



カナダ・アメリカ  
(2016年7月)

米国(ニューヨーク)  
(2024年9月)



ミャンマー・カンボジア  
(2017年11月)

マレーシア・インドネシア  
(2019年11月)

台湾・ベトナム  
(2023年9月)

深圳(中国)・  
ウランバートル(モンゴル)  
(2025年7月)

それぞれの視察の詳しい報告書は広島経済同友会のホームページに載せています。

<https://www.hirodoyu.com/archives/proposal.html>

※海外経済視察編に掲載した写真はいずれも中国新聞社から提供を受けました。  
※団長の所属・役職は視察当時のものです。



# 「walkable」な 住みたい街

## ●団員レポート（抜粋）

- ・バンクーバー港は Cargill 社の輸出ターミナルなど穀物ターミナルとして有名。明確なビジョンと積極的な投資でさらなる拡大を目指す姿勢は大変新鮮に感じられた。
- ・バンクーバーの街並みと一体となった港の景観は“風光明媚”と言うにふさわしい。これからも（景観と効率性の両立は理想的に過ぎるという）私の想像をいい意味で覆してくれることを期待する。



新しい建物と歴史ある倉庫が並び立つ  
ポートランド市中心部

## カナダ・アメリカ

日程	2016（平成28）年7月23～30日（8日間）	
メンバー	団長・森信秀樹 森信建設社長 総勢27人	
主な訪問先	バンクーバー港 ブリティッシュコロンビア大学研究・実験農場 ブリティッシュコロンビア州国際貿易庁＝以上カナダ ポートランド市開発局 ポートランド市観光局 Multnomah Falls（滝）	＝以上アメリカ



巨大なサイロから船に穀物を積み込むバンクーバー港の施設

- ・ブリティッシュコロンビア州には女性向け職業トレーニングプログラム（witt）があり、74のプログラムに1年で3900人が登録。4年間企業に所属しながら有給を利用して訓練を受けている。wittで資格を得た女性の賃金は通常より3倍ぐらいになるようだ。
- ・車社会の米国にあってポートランドは珍しい「walkable」な街と言われ、路面電車やバスが車に優先する Transit Mall、5系統のLRT、オープンカフェが整備しやすい広い歩道などが整備されている。しかし今後は低所得層の流入増加、高齢化の進展が予想され、住民のQOL向上に一定の成果を上げた都市再活性化は、成功故に新たな課題に直面しつつあると言えようか。
- ・「全米一住みたい街」「全米で最も流入人口の多い街」と言われるポートランドには70を超える地ビール醸造所がある。独創的なものや新しいものを受け入れ、応援し育てていこうという人々の気質が今後も新しい醸造所を生み出していくに違いない。

## ミャンマー・カンボジア

日程	2017（平成29）年11月17～25日（9日間）	
メンバー	団長・池田晃治 広島銀行頭取 総勢26人	
主な訪問先	ティラワ経済特区（SEZ） 駐ミャンマー日本大使公邸 ミャンマー商工会議所連合会 アンコールワット 在カンボジア日本大使館 明光堂（プノンペン経済特別区） マツダカンボジア・モニボン店	=以上ミャンマー =以上カンボジア



日系企業の進出が過半を占めるティラワ経済特区。建設工事で活気づいている

ここに出向してくる政府役人にとっては、「SEZ汚職撲滅宣言」で賄賂が禁止されているため、生活に困ってしまう。そこで、公平になるよう1カ月で異動・交代するとのこと。

・明光堂は広島針の代表メーカーの一つ。2014年にプノンペン経済特別区に工場を稼働させた。人件費が高騰しているが、うまくいくまで頑張るという。

・今回視察したのは2014年にできたマツダ車販売の2号店。3億円を投じイタリアから資材や家具を輸入しただけあって、ヨーロッパを感じるショールームであった。

・25年前、日本は「国際責務」としてカンボジアへ初のPKO派遣を決断し、復興を手助けし、それが友好関係の「きずな橋」となり、紙幣に「日の丸」まで描かれるという歴史の流れ。PKO法案をめぐる国会審議が紛糾したあの時、何が正しくて、何が間違っていたのか…。それを再認識することができた。



プノンペンのマツダ車販売店。今後も新車販売の伸びを期待している

## うぶな気持ちに させられた

### ● 団員レポート（抜粋）

・先進国からのODAや投資の向く先は、単に人件費や労働力の比較だけでなく、その国の人々の幸福観や生活風習に根差したものであるべきだ…。いい歳をして、そんな青臭い、初心な気持ちにさせる国、それがミャンマーだった。

・ティラワ経済特区（SEZ）のワンストップサービスセンター（行政サービス）では、投資の許可や建築の申請などの手続きが一カ所で短期間に可能となる。ただ、

## 欧州

日 程	2018(平成30)年10月21~31日(11日間)
メ ン バ ー	団長・池田晃治広島銀行会長 総勢 27 人
主な訪問先	メッセ・デュッセルドルフ I O X ラボ = 以上ドイツ 駐ポルトガル日本大使公邸 ロカ岬 = 以上ポルトガル Vortex Bladeless 社 駐スペイン日本大使公邸 = 以上スペイン ゴールドスーク ドバイモール = 以上アラブ首長国連邦



人型ロボット「ボブ」を前に、試作品ビジネスについて説明する I O X ラボのマネージャー

ではあるが、総発電コストは従来の風力発電より 40%安くなるという。

- ポルトガル、スペインは、悠久の歴史に育まれた素晴らしい文化や芸術を誇る観光立国。異文化に触れることで右脳が刺激されて感性が豊かになり、さまざまな感動が生まれる。翻って日本は、訪日外国人観光客の右脳をしっかりと刺激できているのかどうか考えさせられた。

## 右脳を刺激する 観光立国

### ● 団員レポート (抜粋)

- ドイツのメッセは B to B のビジネスが基本で、情報収集に訪れる一般客を拒否する出展社もあると言われている。メッセ・デュッセルドルフの総展示面積は約 30 万平方メートルで、ビッグサイトと幕張メッセを足したものよりも広く、違いを実感した。
- I O X ラボは、スタートアップ企業や大手企業から持ち込まれたアイデアをプロトタイプにし、市場への進出戦略までの支援活動を行う。「依頼からプロトタイプ作成までを 30 日でやる」と(スピードを)強調していた。
- マドリード郊外にある Vortex Bladeless 社は「羽根のない風力発電装置」を開発中のベンチャー企業。円筒型の内部にある磁石とコイルを使って発電するが、詳しい構造は非開示としている。風向きに左右されないのが大きな特徴で、実験段階での数字



羽根のない風力発電装置の仕組みを解説する Vortex Bladeless 社の CEO

# 交通渋滞

## これほど酷いとは

### ●団員レポート（抜粋）

- ・マレーシアではハラール・ソースの製造に道筋を付け当地でお好み焼きを人気メニューに押し上げたオタフクソースの皆さん、先進的な石炭火力発電所建設に携わる中国電力や三井物産の皆さん、インドネシアでは工業団地の管理運営にいそしんでいる伊藤忠商事の皆さんなど、異国の地で活躍する日本人のたくましさを垣間見ることができた。
- ・マレーシアでは、金曜日午後はイスラムの男性がお祈りで休む。国の休日が突然決まったり、ラマダンの時は1日5回のお祈りがあつ



ジマイーストパワーの石炭火力発電プラントを見学する視察団

## マレーシア・インドネシア

日程	2019(令和元)年11月24～30日(7日間)
メンバー	団長・佐々木茂喜オタフクホールディングス社長 総勢 30人
主な訪問先	オタフクソースマレーシア ジマイーストパワー 駐マレーシア日本大使公邸 ペトロナス・ツインタワー =以上マレーシア インドネシア商工会議所 カラワン工業団地 駐インドネシア日本大使公邸 プルタミナ(国営石油会社) =以上インドネシア



お好みソースを箱詰めするオタフクソースマレーシアの従業員

- たりする。こうしたさまざまな紆余曲折を乗り越え、オタフクソースは2017年3月についてハラール認証を取得したという。
- ・カラワン工業団地は伊藤忠商事とインドネシアの大手財閥シナルマスグループが折半出資し、1992年から共同で運営する工業団地。面積は千代田区に匹敵するおよそ1,380haで、現在も拡張工事が進捗中とのことであった。
- ・ジャカルタと言えば大渋滞を覚悟していたが、これほどまでに酷いとは思ってもみなかった。宿泊先のホテルから大使公邸までの、たった2.5kmの距離がなんと約2時間もかかった。
- ・インドネシア商工会議所への表敬訪問は炎暑の中、20分ほど歩いて出かけた。「最も正確な交通手段」は歩きだ。

## 台湾・ベトナム

日 程	2023(令和5)年9月17~23日(7日間)
メ ン バ ー	団長・武田龍雄広島信用金庫会長 総勢 28 人
主 な 訪 問 先	台北港コンテナターミナル T S M C ミュージアム 日本台湾交流協会台北事務所代表(大使) 公邸 = 以上台湾 トヨタ・ヒロシマ・タンカン社 ハルベトナム社(広島アルミニウム工業) F P T ソフトウェア社 = 以上ベトナム

にあった。特にオペレーションの近代化・効率化がカギを握ることを改めて認識した。

- ・T S M C (台湾セミコンダクター・マニュファクチャリング) の創設者モリス・チャン(張忠謀)氏がこのIC事業を起業したのは1987年、56歳の時というから驚く。「成功したければ、不断の創新(イノベーション)をしなければ」。私も残る人生を「不断の前進」とまではいなくても「停滞しない」生き方をしていきたいと決意した1日であった。
- ・トヨタ・ヒロシマ・タンカンで一番に感じたことはベトナム人従業員の礼儀正しさだった。挨拶はもちろん、お辞儀や笑顔が素敵で、一生懸命仕事に取り組んでいることが伝わってきた。一方、ベトナム人は給料をお互いに見せ合う文化があり、自分の給料に納得がいけないと不満が溜まり、離職に繋がるとのことだった。



トヨタ・ヒロシマ・タンカンで人材育成について説明を受ける視察団



日本語の表示もあるハルベトナムの工場

## 不断のイノベーションで 躍進!

### ●団員レポート(抜粋)

- ・台北港コンテナターミナルでは、大量処理・自動化・効率化といった近代化のための港湾整備の必要性を強く感じた。投資組成スキームや運営ノウハウは学ぶべき点が多い

- ・ハルベトナムの野村義宏取締役副社長にベトナムの仕事で最も楽しいことを聞くと「改善ですね!」。日常的に業務改善が進められているのが分かる。
- ・ハルベトナムの従業員には日本で3年間実習する機会が設けられている。ほとんどが日本語を話せるようになり、通訳として活躍する社員もいるそう。

## 米国 [ニューヨーク]

日程	2024(令和6)年9月19~25日(7日間)
メンバー	団長・武田龍雄広島信用金庫会長 総勢 24 人
主な訪問先	ハドソンヤード (三井不動産アメリカ社) 共同通信社 DASSAI BLUE SAKE BREWERY 三井住友銀行ニューヨーク支店 9/11 MEMORIAL エンパイアステートビル J F K 空港第 8 ターミナル

## 圧巻！ 超巨額プロジェクト

### ●団員レポート (抜粋)

- ・特にミッドタウン西側の都市開発プロジェクト「ハドソンヤード」は圧巻だった。約 11ha の操車場跡地に人工地盤を作り、約 250 億ドルを投じてオフィスビル、商業施設、住宅、公共スペースを約 8 年かけて完成させたもので、現代的な超高層建築や先進的なデザインに目を奪われた。それ以上に、これだけの巨額投資を続けるアメリカのダイナミズムやポテンシャルを感じた。
- ・アメリカではパンデミックのようなショックがあっても、基本的に経済は成長し、賃金も物価も右肩上がりである。「少々つまずいても最後には何とかなる」という発想が根底にあると説明を受け、納得すると同時に、うらやましくも感じた。
- ・試飲をしてみると確かに日本製のものより香りが高く、アルコールが低い分、のみやすい。特にアメリカ産の山田錦でつくった獺祭 35 は芳醇な香りだった。( @ DASSAI BLUE SAKE BREWERY )



旭酒造の酒蔵で発酵用タンクを見学する団員



ハドソンヤードの高層ビル群。ビルの中に蜂の巣状の巨大アート「ベッセル」が見える

- ・ニューヨークで大江千里のショーを体験することは、彼の人生と音楽が交差する瞬間を共有するという、他では味わえない特別な体験だ。( @ Birdland Jazz Club )
- ・この 1 週間、近代文明と資本主義経済そして世界中の人々の情念が交錯する、いわばニューヨークというサウナに入り浸っていたような心地よい火照りと疲れを感じた。

## 深圳（中国）・ウランバートル（モンゴル）

日 程	2025（令和7）年7月20～26日（7日間）	
メ ン バ ー	団長・小田宏史もみじ銀行会長 総勢 28 人	
主 な 訪 問 先	リコーチャイナ東莞工場 Talkh Chikher（パン工場） モンゴル商工会議所 KhanBogd Cashmere（カシミア工場） 在モンゴル日本大使館 JICAモンゴル事務所	=以上中国 =以上モンゴル



リコーグループが東莞市に構える工場

東莞工場は、最新のマニファクチャリング技術と環境先進設備を兼ね備え、品質・生産性向上と脱炭素への貢献を同時に実現していた。

- ・リコーの製造現場が「人と技術の調和」を目指して進化していることを実感できた。
- ・当初見学予定だった食肉工場に、当日になってメンテナンス作業が入ったらしく、訪れてみると（同じ企業グループの）パン工場だった。パン製造で国内トップシェア。技術革新、品質管理、社会貢献の面で非常に高いレベルにあると感じた。

- ・青白い光に混じり、橙や赤の稲妻が空を裂き、空一面を光で埋め尽くす。満天の星空を眺めたいと、個人（プラス数人の）ツアーで訪れたウランバートル郊外、テレルジ国立公園の草原で過ごした一夜の雷雨体験は、自然の大きさと人間の小ささを感じさせ、旅の記憶に深く刻まれた。



ハンボグド社のカシミア工場を見学する視察団メンバー

## ハプニングも 旅の記憶

### ● 団員レポート（抜粋）

- ・ 出発前日に（台風接近のため）深圳便の欠航が決まるハプニング。（東京に1泊し翌日便に搭乗して）何とかキャッチアップし、無事に日程を終えることができた。
- ・ 東京での自由時間、なぜかわれわれは高尾山に向かった。帰途、山手線でのモバイルバッテリー発火によるJR運休に巻き込まれ、私鉄で大回りして無事ホテルに戻った。
- ・ （2020年4月、隣接する深圳市の工場を統合再編して稼働した）リコーグループの

# 第37回 全国経済同友会セミナー広島大会 [抄録]

日時 2025(令和7)年4月17～18日 場所 リーガロイヤルホテル広島、NTTクレドホール

## 大会総合テーマ

### 50年後も輝き続ける「まち」であるために

～平和の地から未来を見据えて～

#### 開会挨拶

山下 良則 氏

全国経済同友会セミナー企画委員会委員長、経済同友会副代表幹事、リコー会長

ご多忙のところ、多くの皆さまにご参加いただき、厚く御礼を申し上げます。全国44の経済同友会はさまざまな活動を通じて交流を重ね、特にこの全国経済同友会セミナーは、日本経済を取り巻く課題について議論を交わしたり理解を深めたり、さらには、会員同士が交流・親睦を深めていく有意義な機会となっています。

今回は1300名近くの皆さまに集まっていただきました。事前準備に多大な尽力をいただきました広島経済同友会の武田代表幹事ならびに小田代表幹事、全国経済同友会セミナー広島大会実行委員会、そして関係の皆さまに、御礼を申し上げます。

総合テーマは「50年後も輝き続ける『まち』であるために」です。広島は原爆で焦土と化して戦後を迎えてから80年、広島経済同友会は設立から70年という節目になる2025年です。今年の全国経済同友会セミナーは広島でやるしかない、全員の気持ちが一致しているのではないのでしょうか。

戦後、広島は平和を礎に復旧・復興、発展を遂げて、今では世界に誇れる、世界から多くの方々が訪れる街になりました。その背景には、官と民が連携し、時に広島経済同友会の提案がベースとなり、人、街、地域をつくってきたと思います。

私事ですが、約50年前(1976年)、広島大学に入学するために初めて広島に引っ越し、2日目に一人で広島平和記念公園に行きました。被爆の悲惨さを感じながら街に出ると、復興の力強さに驚きました。この街は平和の象徴として輝き続けなければならないと感じました。これらのことを含めて、50年後も輝き続けるためにどうすべきかを皆さんと考えるために、全国経済同友会セミナーのテーマを設定しました。



## 歓迎挨拶

武田 龍雄 氏

広島経済同友会代表幹事、広島信用金庫会長



皆さま、ようこそ広島へ。本年度は、戦後 80 年という節目の年でありますとともに、広島経済同友会が創立 70 周年を迎える区切りの年となります。近年の全国セミナーでは、ウクライナの問題や安全保障をテーマに、「平和」についての議論を深めてまいりましたが、今回は、経済活動を含む全ての人間らしい営みは「平和」という礎の基に成り立っているということ、ここ広島の地で、全国の経済同友会の会員の皆さま方と、改めて共有したいと思っております。

今回の総合テーマは「50 年後も輝き続ける『まち』であるために～平和の地から未来を見据えて～」としました。人口減少が進み、人手不足を補うための生産性の向上や人材育成が全国共通の課題となっておりますが、参加された会員の皆さまが本セミナーを通じて、それぞれの「まち」に思いを寄せ、事業規模や業種、事業エリアなどの枠組みを超えて、自分事として議論を行うことで、各地域が輝き続ける「まち」であるために、なんらかの気づきやヒントをお持ち帰りいただける場となることを期待しております。

ここで言う「まち」とは、人々が集う場所のことだけではなく、その地域の経済や文化、環境、教育、居住性、コミュニティーなども含めた言葉として用いており、「輝き続ける」とは、その地域の価値が向上して魅力を維持し続けるということを表現しています。また「50 年後」という時間軸は、単に 50 年後をピンポイントでイメージしたものでなく、理想のまちづくりには相応の期間が必要である点を考慮しつつ、逆に期間が長過ぎて非現実的な空想のものにならないよう「必ず実現させる将来」として表現したものでございます。

それでは、明日までの 2 日間、どうぞよろしく願いいたします。



## 来賓祝辞

湯崎 英彦 氏

広島県知事



少子化、高齢化、あるいは広島は人口の社会減、特に若者を中心とする社会減に直面をしています。また昨今はトランプ関税といわれるような自由貿易に対する大きな脅威がある中で、「50年後も輝き続ける『まち』であるために」というテーマでセミナーが開催されることは、本当に時宜を得た、またこの被爆80年ということも踏まえても、この場所で開いていただけることを、本当に素晴らしいと思います。

50年後も輝くためには、強靱な経済をつくる、そしてそれを支える人が必要ですが、広島県が今、力を入れているのが人的資本経営です。大企業は取り組みが進んでいますが、中小企業においても進められるよう、簡易な人的資本の評価ツールを作っております。中小企業の皆さんに自己チェックをしていただき、できればそれを公表することによって、自らのモチベーションにすることと、リクルートなどにも活用していただく、という取り組みをしています。

そして今、広島県で取り組もうとしていることに男性活躍推進があります。これまで女性活躍推進は散々行ってきましたが、仕事と家事の両方を女性の肩に負わせながら、これ以上活躍しろというのはちょっとおかしいのではないかと考えており、今年を男性活躍推進元年として、男性の家庭生活における活躍を推進する条例を検討しているところです。

このように、女性が結婚して出産の後の寄与が低くなっていることを改善すれば、当然大きな経済成長にも結びつけられるわけで、こういう取り組みを進めたいと考えているところです。業界の皆さま、そして地域の取り組みが有機的に組み合わせることによって、新たな社会づくりが進んでいくと思います。今回のセミナーは大変有意義になることを期待したいと思います。



## 基調講演 「サステナビリティと地域の可能性」

伊藤 聡子 氏

フリーキャスター、事業創造大学院大学客員教授



日本にとって最大の課題は、急速な人口減少、それに伴う生産年齢人口の減少です。2030年には644万人の働き手が不足すると言われていています。一体なぜ深刻な状況に陥っているのか、原因は二つの問題点です。

一つは、東京への一極集中です。人、お金、仕事が多めに集中し、地方は疲弊し続けています。特に若い世代の流出は深刻で、地方の活力を奪っています。もう一つは、女性の働き方の問題です。仕事と子育てを両立できる環境がまだまだ整っていない。この二つの問題を解決しない限り、

生産年齢人口の減少に歯止めをかけることは難しいでしょう。

どうすれば打開できるのか。新型コロナは私たちの生活を一変させました。しかし、得られたものもあります。デジタル化の急速な進展です。インターネット環境さえあれば、どこにいても仕事ができるようになった今、地方の可能性に大きな光が当たっています。

これからは、1人が複数の企業で働く副業・兼業が当たり前になっていくでしょう。だからこそ、地元で優秀な人材が根付いていることが、大きな強みになるはずで。特に、子育て中の女性が働き続けられる環境づくりは急務です。「女性はこうあるべき」という価値観が根強い地方からの女性の流出に歯止めがかかりません。すると、もはや人口は増えず、地域社会は衰退の一途を辿ります。誰もが柔軟に働ける環境づくりが、持続可能な社会の実現には欠かせません。

「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の精神に、全てのステークホルダー、地球、そして未来を加えた「六方よし」の考え方が、これからの経営、経済、社会の在り方になるでしょう。地域の資源を生かし、経済的な豊かさと心の豊かさを実現していくことが未来を明るく照らすと信じています。



## 第1分科会 「人」づくり～多様・公平・包摂、AI・DXが加速する社会への対応～

座長 小林 英文 氏

仙台経済同友会代表幹事、七十七銀行頭取

地方を中心に人口減少という大きな問題が顕在化し、企業や行政、NPOといった組織、団体において、多様な人材をいかに育成し、活用し、維持するかが大きな課題となっています。課題解決に向け、当分科会では「DE&I」「AI・DX」「共助資本主義」という三つの論点を提示し、議論を進行しました。

全体を通じて、ダイバーシティという考え方が、これからの人口減少社会、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代を考える上で非常に重要であり、ダイバーシティの実現に向けては、環境整備、例えば働き方の柔軟性や働きやすさといったソフト面、また障害者の暮らしを整えるためのハード面、設備面などの整備が求められるということですし、エネイablerとしてのDXも活用していく必要があるということです。

そして、これらをサステナブルな取り組みにしていくことが重要で、そのためにも、ビジネスチャンスを創出していく、社会性と経済価値を両立していくということが必要です。

また、共助資本主義経営にもダイバーシティはつながっていて、企業や行政に加え、NPO法人等の非営利団体も活用するのは必須の時代だろうとも捉えているところです。ダイバーシティを進めていく方法論としては、多様性のある社会で多様な方々と実際に会うということが重要だと考えます。出会えば分かる、話せば分かるということは多々あるわけで、知ってもらうことが大変重要であり、これによって理解が進んでいくということです。

マジョリティーの方々もこれらをしっかりと理解しながら耳を傾け、かつ、性急に進めることによって反発を招くことのないよう、緩やかに着実に進めていくこと、しっかりと自分の意見を主張していくことが、これからの社会にとって大変重要であるというまとめとなりました。



## 第2分科会 「街」づくり～官民協業による過去・現在・未来～

座長 武田 龍雄 氏

広島経済同友会代表幹事、広島信用金庫会長

50年後も輝き続ける「まち」の実現のために必要となる大きな要素の一つが「街づくり」です。現在の人口減少社会において、安心・安全で暮らしやすく、活気のある街づくりは社会経済の重要な基盤であり、そのような街を実現させるには、行政やまちづくり団体、そして民間がベクトルを合わせて協業することがより重要となります。

当分科会では、街づくりの成功事例をお持ちの北海道、関西、鹿児島、そしてわれわれ広島の4同友会の皆さまをパネリストに、まずは各都市がどのような目指すべき姿を持ち、その実現に向けてどのような具体的な取り組みを行ったかについて、ご紹介いただきました。

後半はパネルディスカッションを行い、各都市に共通するキーワード「仕組み・体制づくり」「観光を生かした街づくり」「若者の巻き込み方」について議論しました。

最後に全体のまとめとして、経済同友会ではもはや提言から行動へのステージに移行していること、さまざまな先行事例や参考事例を理解し、応用することが必要で、そのための発想やヒントとツール、制度を共有することが重要なこと、より具体的な連携の推進として、例えば地域連携に加えた同友会版デシディムの検討が必要という内容が共有されました。

こうした議論を通じて私が感じたことをお話ししますと、そこで暮らしたり、働いたりしている多様な方々をうまく巻き込み、「50年後も輝き続けるまち」のイメージをできるだけ具体的に共有することが第一歩ということ、そして、街の誰かが強い熱意を持って未来像に向けての枠組みを固め、突破口を開いていくことが大切であるということです。そして、それぞれの街で大切な役割の一端を担うことができる存在として、われわれ経済同友会が汗をかかねばならない、そんな感想を抱きました。



## 第3分科会 「地域」づくり～スポーツが生む地域活性化のチカラ～

座長 永井 淳 氏

中部経済同友会代表幹事、新東工業社長執行役員

人口減少や若者の流出、地域経済の低迷。今や日本全国の地域が共通して抱える深刻な課題です。そのような中で、私たちはスポーツが持つ力に大きな可能性を感じています。スポーツとは学校の体育でも単なる教育でもありません。人と人をつないで地域に誇りを生み出し、世代や属性を超えて共感を得る文化であり、そして地域を支える仕組みでもあります。

例えば、アルビレックス新潟のように、地域全体でチームを応援して支える「おらがチーム」の文化や、愛媛の松山市のように人が集まるアリーナを核とした街づくり、あるいは当社のような草の根的な地域との関係づくりに象徴されるように、スポーツは人を動かし、地域に活力をもたらす原動力になっています。

また、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツの多様な在り方を通じて、人々にとっての居場所や舞台が生まれます。それが一体感を生み、若者の定着や交流人口の増加へとつながり、やがて地域の持続可能性を支える確かな課題となっていきます。さらにスポーツは人々の心と体の健康を促し、他者とのつながりや役割意識を生み出すという意味でも、地域におけるウェルビーイングの向上に貢献する力を持っています。

個人の幸福感と地域の活力を両立させる手段として、居場所と舞台をつくるスポーツは非常に重要な役割を果たしているといえるでしょう。このような取り組みをより大きな場にしていくためには、企業だけではなく行政、教育機関、そして市民という、まさに産官学民の連携が必要になります。

スポーツと地域活性化、そして企業の関わり。今回の議論を通じて、私自身、スポーツには地域を元気にする大きな力があること、そしてその関わり方は実に多様であり、企業が主体的に関わる意義が確かにあるということを改めて実感できました。



**特別分科会** 自動車産業の視察について～「ものづくり」の原点はひとにあり～  
会場 マツダミュージアム

本分科会では、マツダ（株）のマツダミュージアムを視察いただき、100年以上にわたって世に送り出してきたクルマに込めた想いと、技術が如何に進化しようとも「ものづくり」の原点は「ひと」にあると再認識していただきました。

マツダの吉原誠専務執行役員が参加者ら約80人を出迎え、「変革期の中でも変わらぬマツダのものづくりや思いを感じてほしい」と挨拶し、助光浩幸館長も「4月1日にリニューアルしたばかりです」と歓迎しました。

一行は、10のゾーンで構成される展示を見学しました。最初のゾーンでは、創業者松田重次郎氏の生い立ちをたどり、三輪トラックから始まる黎明期の車を見ていきました。

マツダの「飽くなき挑戦」の精神を象徴するロータリーエンジンも紹介されました。「実用化までには予想をはるかに超える課題が次々と立ちはだかりました」とガイドの説明も熱を帯びます。

1991年のルマン24時間耐久レースを制した「マツダ787B」の展示は、ミュージアムの目玉の一つです。「ブーン!」。ガイドがスイッチを押すと、立体音響で再現した迫力のあるエンジン音が流れます。

車をアートとしてとらえるマツダらしく、マツダのデザイナーによるソファや自転車など車以外の作品も展示されています。次世代デザインのコンセプトカーも並び、参加者たちはさまざまな角度から写真に収めていました。



## 来賓祝辞

松井 一實 氏

広島市長



今年は被爆 80 年です。「原爆死没者の慰霊と被爆者の援護」を中心にしながら、もう一つ、平和文化を振興するということを目標とし、さまざまな記念事業に取り組んでいるところです。

世界情勢も大変な状況です。そこで私は「ヒロシマの心」、これを世界に行き渡らせたいと考えております。ちなみに「ヒロシマの心」は、これはぜひ皆さんに覚えて帰っていただきたいんですけども、過去の悲しみに耐える、つまり被爆した方々はいろいろな意味で社会的差別を受けまし

た。しかし、その悲しみに耐えました。憎しみを乗り越える、これは明確にアメリカという国が原爆を落として、こういう被害を出したわけですから恨むのは当然ですけども、それを越えるということをいたしました。そして、全人類の共存と繁栄を願う、さらに真に世界平和を実現することを祈念する、こういった思いで取り組んでまいりまして、ノーベル平和賞に輝きました。

この「ヒロシマの心」を共有する世界中の 8500 都市と一緒に、平和を願う市民社会の総意が世界中の為政者、とりわけ核兵器を脅しに使う為政者の心に届くような環境づくりに一層注力していきたいと考えておりますので、皆さんにはこのことを理解し、共にこういった行動をやっていただける環境づくりをお願いしたいと思います。

皆さん、ぜひこの機会に、広島 naturally、変わりゆく街並み、食文化、伝統芸能などに触れていただくと同時に、世界遺産の原爆ドーム、平和記念公園に行ってください、今申し上げた「ヒロシマの心」を被爆の実相に触れる中で共有していただく、そういう機会にさせていただければと思います。そして、この地を、心を浄化するための街として再び来ていただく、そんなことを心より祈念しているところです。



**乾杯発声** 池田 晃治氏

広島商工会議所会頭、広島経済同友会特別幹事、ひろぎんホールディングス会長



今年、広島経済同友会の70周年、戦後80年を迎える節目の年であり、私が広島経済同友会の代表幹事を務めていた2018年から「今年は絶対に広島でやらんにやいけんじゃろう」と大会誘致に向けて活動してまいりました。世界各地で紛争が続き「平和の重要性」が増す中、また、大阪・関西万博が開幕し、まさに「未来」を実感できるタイミングで、平和の発信地であるここ広島で開催されることは大きな喜びであり、ご準備いただいた多くの関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

大会の総合テーマの通り、「これからも輝き続けるまち」であるために、各地域の経済同友会の皆さまと連携しながら、地方創生、東京一極集中という大きな社会課題に立ち向かっていければと思います。

それでは、広島の酒で杯を上げたいと思います。ご唱和ください。乾杯！

**中締め** 小田 宏史氏

広島経済同友会代表幹事、もみじ銀行会長



広島の神楽をご覧いただきながら、瀬戸内海の食材を使った料理や郷土名物、地元のお酒をご準備させていただきました。しかしながら当初の予想を上回る多くの方にご参加いただいたため、料理やお酒が十分に行き渡らず、「まだまだ足りない」と感じていらっしゃる方もおられるかと思えます。この後はぜひとも、街に繰り出していただければと思います。

特に当ホテルから東に1キロほどに位置する「流川」や「薬研堀」は繁華街として有名です。徒歩でも、市内電車でもタクシーでも行けます。サステナブルな地域を実現するためにも、ぜひお出かけください。ただし「川」に流されたり「堀」に落ちたりされることのないようご留意され、また明日の朝には爽やかな面持ちでこの会場に戻って来られることを祈念いたしまして、中締めとさせていただきます。





日本が死守すべきは地域の安全保障です。米国は自国を優先し、世界から離れていこうとしています。米国は欧州に対して、自国を自分で守れる仕組みを作らない限りは支援しないという姿勢を明確に出しています。日米安全保障条約を結んでいますが、トランプ大統領はこれを片務的な条約だと主張しています。日本としては、東アジアやアジア太平洋地域と一緒に守っていく仕組みづくりの中に米国を巻き込んでいかなければなりません。

米国は自国優先主義が大きく出ている中、私たちは、今回の関税だけを見るのではなく、日本が置かれた立場をしっかりと認識し、取るべき行動を取らなければならない、時代の転換点を迎えています。

今こそ、私たち民間企業が地域を支え、地域のコミュニティ再生に取り組まなければ、米国の二の舞いになってしまい、負の連鎖がますます増大します。このような思いから、私たち経済同友会は「共助資本主義」を掲げて活動しています。その際、企業はNPO、NGO、インパクトスタートアップの皆さんと一緒に社会課題の解決に取り組むべきだと考えます。

最後に、今後の日本経済の進むべき方向性について一言申し上げれば、トランプショックに耐えうるだけの地力を付ける必要があります、やはり新陳代謝を促進しつつ、人材の流動化を加速させていかなければなりません。

全国の経済同友会は、それぞれの地域を良くし、結果的に日本を良くするという大きな流れを作ることができる団体だと思います。ぜひとも、仲間を約1万6千人からさらに増やして大きな輪をつくっていかうではありませんか。そして、次回の高知に向けて、皆さんと一緒に、いい国、いい地域づくりにまい進していきたいと思っています。ありがとうございました。



## 特別講演 「能への道しるべ～広島と能楽～」

大島 衣恵 氏

能楽師 シテ方喜多流



世阿弥の言葉は能を伝えるためのものですが、ビジネスパーソンの皆さま方にも通じる言葉として、さまざまな解説の書籍が出版されています。インターネット上にも世阿弥の言葉を紹介したサイトがたくさんあります。現代にも通じると思って読んでいただくと、大変うれしく思います。

そして、世阿弥は最後にこんな言葉を残しています。「命には限りあり、能には果てあるべからず」。人間の命には必ず限りがあります。世阿弥も周りの大切な人を失っていく中で自分自身も佐渡に流され、失意の中で、人生とは非常にはかないものである、自分自身ができることには限りがある、と悟っていたと思います。けれども「能には果てあるべからず」です。これは、能という芸能には限りがないという意味ではなく、自分自身の命、肉体には限りがあるけれど、能という芸の道を極めていこうとする志には果てがない、そういう覚悟を持って取り組まねばならないと言いたかったのではないか、といわれております。

人はそれぞれ目指すべき世界があると思います。私どもの芸能の世界でも、現代では古典とか伝統というものが見直されている面もありますが、そこから離れていってしまっている面も否めない。これからの時代をどうしていくのか、常に課題として考えていかなければなりません。

私自身も何ができるのか常に考えているつもりですが、世阿弥の言葉を読むと、650年ぐらい前に考えられたことが、私たちの胸を打つこともあると感じています。ぜひ皆さまには、世阿弥の言葉をひもといていただき、難しい時世ですが、それを超えて次世代につながる何かを見いだしていただけたら、この世界が少しずつ良くなっていくのではと期待し、希望を持っております。



第37回 全国経済同友会セミナー広島大会の詳しい記録集は  
広島経済同友会ホームページの会員ページにあります。

## 編集後記

広島経済同友会  
年史編纂委員長 高本 孝

人間でいう古希となる創立70年を迎えた広島経済同友会に、老成とか達観とかいう言葉は無縁なのかもしれません。むしろ青春のたぎりを絶えず燃やし続けているように思えます。

「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」そして「オール広島」を旗印に次々と繰り出す提言、貪欲に学びを求める国内外への視察、県単位、支部単位で地域の輪や人の輪を広げるイベント・交流活動…。社業で重きをなす傍ら、粉骨をいとわない会員の皆さまの熱量には日ごろから頭が下がるばかりです。

この70年史は2016年度から2025年度までの動きを軸にまとめています。企業・社会活動を一変させた新型コロナウイルスの大流行に加え、県全域を襲った豪雨災害、ウクライナなど国際紛争の続発など、平成から令和に至るこの期間は地域経済にとって逆境の10年であったと言えます。ところが歴代代表幹事の皆さまによる座談会、歴代の支部長、各委員長から寄せていただいた手記などからは、時代への恨み節のような「暗さ」が感じられません。むしろ辛い経験を自らの糧とし、時に笑いを交えて振り返る気風が冊子に通底しています。

そこに被爆からの復興を成し遂げた広島経済人のしたたかなDNAが存在するのはもちろんですが、結局のところ、このまちをもっと良くしたいという「広島愛」に帰結するのだと思います。創立90年、100年に向け、歴代代表幹事の座談会でも重要性を指摘された支部、委員会、世代を超える「横串」の関係性が、新たな化学反応を生み、面白く活気のある広島を実現していくでしょう。

編纂委員会での議論を経て、これまでの年史にあった活動年表などは会のホームページに掲載し、冊子とネットのハイブリッド方式を採りました。ページ数が減った分、フルカラーにして読みやすさ、手に取りやすさは増したと思います。

発刊に当たり、あらためまして歴代の代表幹事、各支部長、委員長の皆さまのご協力に深く感謝を致します。編纂委員の皆さまにはご多忙の中を委員会に出席いただき、貴重なご意見、ご提案を賜りました。とりわけ江種則貴副委員長には構想、執筆、編集すべての面で終始リードしていただきました。事務局長の谷口康雄さん、事務局の寺脇尚子さん、古川竜彦さんには座談会や委員会の日程調整、資料提供、寄稿の手配などで大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。

年史編纂委員会 委員長 高本 孝  
副委員長 江種 則貴  
小川 裕子  
運営委員 浜田 三男  
藤原 昭典

## 広島経済同友会70年史 (非売品)

---

発行 2026(令和8)年3月17日=創立記念日

広島経済同友会

〒730-0011 広島市中区基町5番44号

広島商工会議所ビル4階

電話 082(227)5730

<https://www.hirodoyu.com/>

印刷 中国新聞印刷株式会社

---

©2026 広島経済同友会

本書の一部または全部を許可なく複製・転載・配布することを禁じます。



HIROSHIMA KEIZAI DOYUKAI